

指定都市教育研究所連盟 第17次共同研究

これからの時代を生きる 子供たちの姿や思いを探る

—今日的な教育課題に視点を当てて—

指定都市教育研究所連盟 編

指定都市教育研究所連盟加盟機関

〈氏名は、第17次（平成24年度～26年度）共同研究取組年次所長名〉

札幌市教育センター	おおとも ひろゆき 大友 裕之				
仙台市教育センター	あべ ひでのぶ 阿部 英伸	やまうち 山内	おさむ 修	このの 今野	わかこ 和賀子
さいたま市立教育研究所	いがらし ゆういち 五十嵐 友一				
千葉市教育センター	さなだ きよたか 真田 清貴			えんどう 遠藤	さとる 悟
川崎市総合教育センター	すずき ひろゆき 鈴木 浩之			えま 江間	かおる 薫
横浜市教育センター	いりうちじま しゅういち 入内嶋 周一				(平成26年度幹事長)
相模原市立総合学習センター	かない ひでお 金井 秀夫				
新潟市立総合教育センター	よしはら しゅうえい 吉原 修英			たかち 高地	けいえい 啓衛
静岡市教育センター	はせがわ しんいち 長谷川 信一				(平成25年度幹事長)
浜松市教育センター	すやま かしちろう 須山 嘉七郎	いまいし 今西	しげの 成乃		
名古屋市教育センター	かわきた たかゆき 川北 貴之			いとう 伊藤	くに 久仁
京都市総合教育センター	ながた かずひろ 永田 和弘	なかえ 中永	たけし 健史		
大阪市教育センター	さわだ かずお 沢田 和夫				
堺市教育センター	やまのくち こういち 山之口 公一	はまもと 濱本	のりゆき 教行		
神戸市総合教育センター	もりもと すみお 森本 純夫	はやし 林	ひろのぶ 弘伸		
岡山市教育研究研修センター	ほりい ひろし 堀井 博司	わたなべ 渡部	けんじ 健治		
広島市教育センター	いくた かずまさ 生田 一正			いちかわ 市川	あきひこ 昭彦
北九州市立教育センター	たけや ゆうこ 武谷 優子	おおた 太田	あつお 敦生		
福岡市教育センター	はせがわ ひろあき 長谷川 弘明			さがら 相良	せいじ 誠司
熊本市教育センター	とくなが あきら 徳永 晃	はまひら 濱平	きよし 清志		

刊 行 の こ と ば

現行の学習指導要領の全面実施から小学校では4年目、中学校では3年目となりました。各都市教育委員会、各学校におかれましては、編成した教育課程による、よりよい実践をもとに、将来の社会を支える子供の育成に当たられていることと思います。そうした中、次期学習指導要領改訂に向けての動きが始まってきました。

教育には「不易と流行」という言葉があります。いつの時代でも教育において大切にしなければならない「豊かな人間性」「他人への思いやり」「自然を愛する心」などの「不易」の部分と、知識基盤社会の到来、グローバル化の進展、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性などが「流行」部分といえます。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要となっています。

指定都市教育研究所連盟の共同研究では、これまで、それぞれの時代の教育課題を研究主題として取り上げ、都市に暮らす子供たちの実態や意識を調査し考察をしてきました。そして、時代の要請から生じた課題の解決に向け、様々な提言を行ってきました。今回の第17次共同研究（平成24～26年度）は、第16次の共同研究を継承しつつも、今日的な教育課題に視点を当て、全国の政令指定都市に居住する子供たちを対象に実態調査を行いました。過去51年間に及ぶ共同研究の成果を踏まえた「不易」と、情報化の進展や現代における社会の変化からの「流行」を追究し、提言をしていきたいと考えました。

次世代を担う子供たちが、この急速な社会の変化に対応してたくましく成長し、明るい社会を形成していくためには、学校・家庭・地域社会が互いに連携し、学習指導要領のねらいである「生きる力の育成」を図る教育実践を積み重ねていくことが重要です。そこで、三者が今を生きる子供たちとどのようにかかわっていくことが大切なのかを示した本研究が、連盟加盟機関はもとより、広く活用されることを期待しています。

最後になりましたが、第17次の研究調査の趣旨を理解し、御協力いただいた各政令指定都市の小・中学校の児童生徒の皆様や先生方に心から感謝を申し上げます。また、今次の共同研究を推進するに当たり、御尽力いただいた担当者の方々、研究を支えてくださった各教育研究所の関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

指定都市教育研究所連盟幹事長

（横浜市教育センター所長） 入内嶋 周一

目 次

指定都市教育研究所連盟加盟機関

刊行のことば

● 序 章 指定都市教育研究所連盟の共同研究

- 1 はじめに ー共同研究のあゆみー
- 2 研究のスタートに当たって ー第17次共同研究の方向性ー
- 3 研究の概要
- 4 本報告書の構成

● 第1章 家庭・地域社会における生活 5

- 第1節 家庭における基本的な生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 1-1 健康状態
 - 1-2 就寝時刻
- 第2節 家族との関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 1-3 家庭生活の楽しさ
 - 1-4 家族との食事
 - 1-5 家族との会話
- 第3節 情報社会での生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 1-6 コミュニケーションの方法
 - 1-7 情報機器の利用時間
 - 1-8 情報機器との関わり方
- 第4節 地域社会との関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 1-9 地域の人との関わり方
 - 1-10 地域活動への参加
- 家庭・地域社会における生活 考察とまとめ・・・・・・・・・・・・ 16

● 第2章 家庭・地域社会における学習 18

- 第1節 家庭での学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 2-1 平日における家庭学習の時間
 - 2-2 家庭学習における家の人との関わり
 - 2-3 家庭学習における自主性
 - 2-4 家庭学習におけるインターネットの利用
 - 2-5 家庭学習に対する必要感

第2節	学習塾での学習	24
2-6	学習塾に通う頻度	
2-7	学習塾に対する必要感	
第3節	地域社会からの学習	26
2-8	地域の人から学ぶ機会	
2-9	地域の人から学ぶことの楽しさ	
第4節	学校以外での全ての学習	28
2-10	学校以外での全ての学習の有用性	
	家庭・地域社会における学習 考察とまとめ	29

● 第3章 学校における生活 31

第1節	学校における生活	32
3-1	学校生活の楽しさ	
第2節	学校における基本的な生活	33
3-2	規範意識	
3-3	公共性	
3-4	役割に対する責任感	
第3節	学校における人間関係	36
3-5	友人から支えられた経験	
3-6	友人を支えた経験	
3-7	教師との関係	
第4節	学校における自己肯定感	39
3-8	行事への参画意識	
3-9	自己有用感	
3-10	自己肯定感	
	学校における生活 考察とまとめ	42

● 第4章 学校における学習 44

第1節	授業の受けとめ	45
4-1	授業に対する理解度	
4-2	授業に対する満足度	
第2節	授業の受けとめを形づくるもの	47
4-3	授業の進め方	
4-4	教師の授業での工夫	

4-5 学ぼうとする学級の雰囲気

第3節 肯定的な学習経験 50

4-6 わかった経験

4-7 認められた経験

第4節 学習に対する意識 52

4-8 学習への取組の現状

4-9 自己の可能性

4-10 学校の学習の有用性

学校における学習 考察とまとめ 55

● 終章 子供たちの姿や思いは変わったのか 57

- 1 子供たちの「家庭・地域社会における生活」
- 2 子供たちの「家庭・地域社会における学習」
- 3 子供たちの「学校における生活」
- 4 子供たちの「学校における学習」
- 5 終わりに

● 資料 60

「小・中学生のアンケート調査」単純集計結果 60

指定都市教育研究所連盟 第17次共同研究担当者

序 章

指定都市教育研究所連盟の共同研究

1 はじめに ー共同研究のあゆみー

指定都市教育研究所連盟は、昭和 26 年に発足した五大都市教育研究所連盟所長協議会（横浜・名古屋・京都・大阪・神戸）を前身とし、昭和 38 年に五大都市教育研究所連盟へ改組、昭和 41 年からは名称を指定都市教育研究所連盟と改め、現在 20 政令指定都市が加盟している。

指定都市教育研究所連盟による共同研究は、昭和 38 年に第 1 次共同研究がスタートし、今次で第 17 次を迎えた。各次共同研究では、都市に暮らす子供たちの実態把握を通して、教育の今日的課題を解明し、学校・家庭・地域社会における教育の在り方や子供たちとのかかわり方などについて提言してきた。

【これまでの研究主題等一覧】

第 1 次「教師と非行中学生」(S38～40)	第 10 次「揺れる子どもの自己像」(H3～5)
第 2 次「子どもの生活と教育」(S41～43)	第 11 次「子どもの社会認識をさぐる」(H6～8)
第 3 次「都市の教育問題」(S44～48)	第 12 次「子どもがとらえた教育環境」(H9～11)
第 4 次「地域社会における子どもと生活」(S49～50)	第 13 次「教育改革の中の子どもたち」(H12～14)
第 5 次「現代の子どもの意識と行動」(S51～53)	第 14 次「教育の確かな営みを推し進めていくために」(H15～17)
第 6 次「都市の子どもの自己形成」(S54～56)	第 15 次「今を生きる子どもたちの姿や思いを探る」(H18～20)
第 7 次「子どもの学校観」(S57～59)	第 16 次「指定都市の子どもたちの姿や思いを探る」(H21～23)
第 8 次「子どもと環境」(S60～62)	
第 9 次「子どもと未来」(S63～H2)	

2 研究のスタートに当たって ー第 17 次共同研究の方向性ー

第 17 次共同研究は、第 16 次の研究の成果を踏まえつつ、新たに今日的な教育課題に関する調査を加え、学校・家庭・地域社会と子供たちの生活や学習の関わりの状況を把握することを主たる目的とする。

指定都市教育研究所連盟の共同研究は、これまで、それぞれの時代の中で提起された教育課題を柱に、都市に暮らす子供たちの姿や思いを探り、その時代における教育課題の解決に向けた有意義な提言を行ってきた。

そこで、本研究では今までの研究の流れを引き継ぎ、次の 2 点から研究を進めることとした。

(1) 第 14～16 次（平成 15～23 年）との経年比較

指定都市教育研究所連盟が独自に設定してきた切り口に基づいた調査を継続することで、今を生きる子供たちの姿や思いをより明確にすることができるのではないかと考えた。

(2) 今日的な教育課題についての実態把握

指定都市教育研究所連盟には、これまで 48 年にわたる研究の成果やデータの蓄積がある。第 17 次共同研究では、こうした過去の共同研究の成果を踏まえながら、「情報化の進展に伴うモラルの在り方」「社会や人との関係性の希薄化」に関して調査を加えることで、今日的な教育課題に対す

る都市に暮らす子供たちの実態を把握したいと考えた。

第14次共同研究から始まった経年比較に、この新たな視点を加えつつ、学校・家庭・地域社会の子供たちへの関わり方、三者の連携の在り方等、今後の可能性について提言していきたい。

3 研究の概要

(1) 研究主題

これからの時代を生きる子供たちの姿や思いを探る

—今日的な教育課題に視点を当てて—

(2) 研究の内容

- ① 第17次共同研究は、第16次共同研究の成果を踏まえつつも、新たに今日的な教育課題である「情報化の進展に伴うモラルの在り方」や「社会や人との関係性の希薄化」に関する調査を加えることとし、学校・家庭・地域社会と子供たちの生活や学習の関わり方の状況を把握することを主たる目的とする。
- ② 設問はできるだけ客観的事実として提示できるものとし、選択肢は程度・頻度・内容あるいは時間などを設定して比較しやすいものにする。原則として、調査問題は第16次共同研究の設問を引き継ぎ、研究を進める。
- ③ 第17次共同研究では、過去の設問のうち、時代の変化に合わなくなったものや、変化や相関が低いものについて見直す。そのため、第16次共同研究の調査問題については、十分精査するものとする。
- ④ 第18次、第19次の共同研究において、経年比較により指定都市の子供の実態を把握し、学校・家庭・地域社会における教育の在り方や子供たちとの関わり方などの提言をすることができるような内容とする。

(3) 研究の方法

- ① 調査方法：質問紙法による実態および意識調査
- ② 調査対象：19指定都市に在籍する小学校4年生、6年生、中学校2年生
※熊本市は、平成24年度から参加のため、今回は調査せず。
- ③ サンプル数：一学年あたり7,600人（一都市あたり400人以上）、全体22,800人（同1,200人以上）

(4) 調査の観点と分担

研究の内容及び方法に沿って、次の4観点を設定し、各ブロックで分担して研究を進める。

章	観 点		担当ブロック	設問数
1	家庭・	家庭・地域社会における生活	東ブロック（川崎 横浜 相模原 静岡 浜松）	10
2	地域社会	家庭・地域社会における学習	西ブロック（名古屋 京都 大阪 堺 神戸）	10
3	学校	学校における生活	南ブロック（岡山 広島 北九州 福岡 熊本）	10
4		学校における学習	北ブロック（札幌 仙台 さいたま 千葉 新潟）	10

(5) 研究の経過

【1年次（平成24年度）】

計画立案，調査方法の共通理解，観点のとらえ作成，調査問題の検討，分析の視点作成，調査問題原案とりまとめ

【2年次（平成25年度）】

調査問題の確定，データ分析についての共通理解，刊行物の体裁の確定，単純集計結果公表についての共通理解，観点のとらえ確定，調査実施とデータ分析，観点のとらえ（各章扉）確定，設問ごとの調査結果作成，各章の考察とまとめ作成，単純集計結果公表（各加盟機関のHPにて）

【3年次（平成26年度）】

観点のとらえ（各章扉）・設問ごとの調査結果・各章の考察とまとめについての確認，序章・終章の作成，最終稿確定，報告書の発行，第18次共同研究についての共通理解

4 本報告書の構成

本報告書は，主に「家庭・地域社会における生活」「家庭・地域社会における学習」「学校における生活」「学校における学習」の四つの章立てで構成されており，各章の観点のとらえについては，各章の扉に記載した。

各章は，設問ごとの調査結果の分析を1ページでまとめた。上段には，「全体」及び「小4」「小6」「中2」による単純集計結果（棒グラフ）及び継続設問等における経年比較データ（表）から読み取れる事実を記した。また，下段には，相関係数等を用いながら，多面的な分析を行い，提言がより客観的なデータの裏付けから論じられるよう，二つの設問の回答結果を組み合わせたクロス集計表を掲載し，設問相互の関係を探った。

各章の考察とまとめについては，今後報告書を広く活用していただけるように，調査結果の事実に基づきながらも提言性のあるものにした。

なお，本調査を統計学的により確かなものにしていくために，福岡教育大学の大坪靖直教授の御指導・御助言を受けながら分析を進めた。大坪教授には，今次共同研究の主旨を御理解いただき，的確なアドバイスや正確なデータ処理をしていただいた。

【単純集計について】

単純集計とは，回答者全体の中で何人がその選択肢を選んだかを単純に比率で示したものである。全体と各学年の集計結果を見ることができ，全体の傾向と各学年の傾向や，学年進行による傾向の変化をつかむことができる。

各章は，各設問とも，全体の集計結果を一段目に，「小4」の集計結果を二段目に，「小6」の集計結果を三段目に，「中2」の集計結果を四段目に記したグラフを掲載し，学年ごとの比較ができるようにした。ただし，「新規」の設問については，経年比較ができないため「継続」及び「設問を修正」「選択肢を修正」「設問・選択肢を修正」の設問について経年比較をしている。

【クロス集計について】

友人を支えた経験と友人から支えられた経験との関連 (%)

クロス集計とは、二つの質問項目をかけ合わせて、相互の関係を明らかにするための集計方法である。

右表は、表側（縦軸）の《友人を支えた経験：設問 26》に、表頭（横軸）の《友人から支えられた経験：設問 25》という設問結果をかけ合わせ、得られたものである。例えば、この表の場合は《友人を支えた経験：設問 26》別でみた《友人から支えられた経験：設問 25》の結果と見ることができる。具体的には友人を支えた経験が、「よくある」子供では、その 93.4%が友人から支えられたことが「よくある」または「ときどきある」と回答していることがわかる。ここから、「友人を支えた経験がよくある

設問 25 \ 設問 26	(友人から支えられた経験)よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
(友人を支えた経験)よくある	70.5	22.9	4.6	2.1
ときどきある	25.5	61.3	11.2	2.0
あまりない	6.8	41.8	44.7	6.7
まったくない	5.2	14.9	27.9	51.9

子供は、友人から支えられた経験がある」という子供の実態が推察されるのである。各設問の分析については、この手法を用いているので参考にしていただきたい。なお、本報告書でクロス集計により分析するにあたっては、「Pearson のカイ 2 乗検定」及び「Spearman の相関係数」を算出し、参考にした。

《資料：指定都市教育研究所連盟のあゆみ》

- 昭和 26 年 横浜市・名古屋市・京都市・大阪市・神戸市によって五大都市教育研究所連盟所長協議会が発足
- 38 年 五大都市教育研究所連盟に改組，第 1 次共同研究開始
- 41 年 北九州市が加盟，指定都市教育研究所連盟と名称変更
- 47 年 福岡市加盟
- 48 年 川崎市加盟
- 53 年 札幌市加盟
- 55 年 広島市加盟 ※第 6 次共同研究実施 (S54～56)
- 平成 4 年 千葉市加盟
- 5 年 仙台市加盟
- 15 年 さいたま市加盟
- 16 年 静岡市加盟
- 18 年 堺市加盟
- 19 年 新潟市加盟
- 21 年 岡山市加盟
- 22 年 相模原市，浜松市加盟
- 24 年 熊本市加盟

* 研究主題（研究成果）については、序章 p. 1 を御参照ください。

第1章 家庭・地域社会における生活

本章では、「家庭における基本的な生活」「家族との関わり」「情報社会での生活」「地域社会との関わり」の4点から、子供の家庭や地域社会での生活の現状とそれが学校での学習や生活とどのように関係しているかを探っていきます。

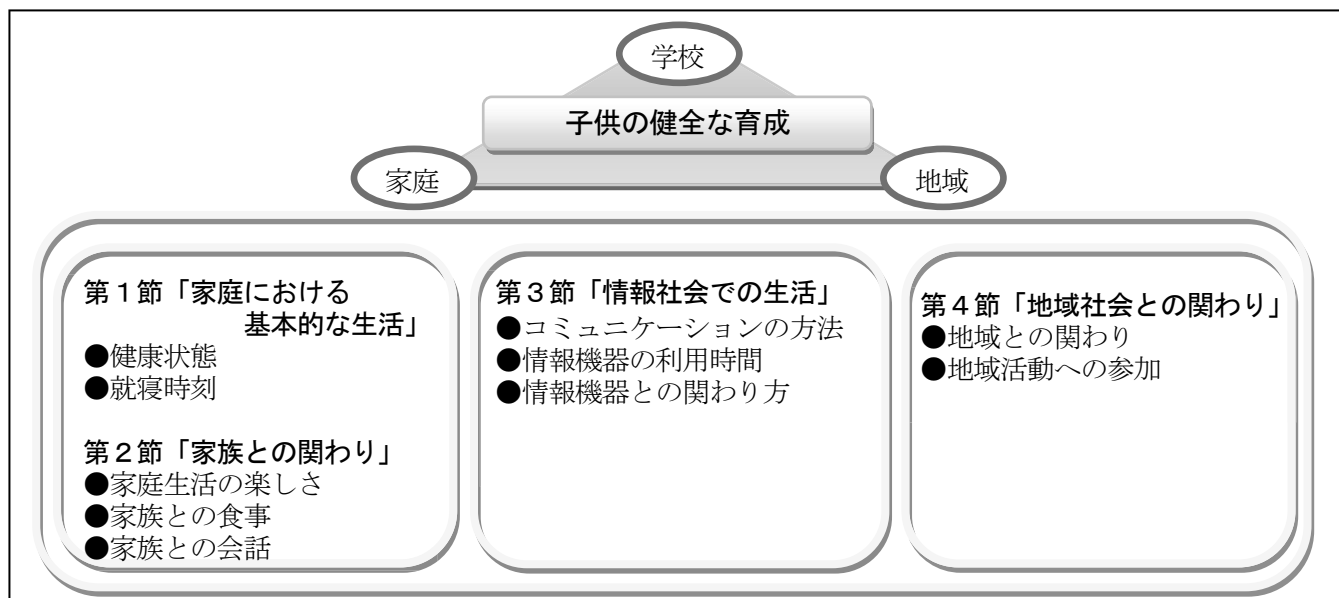
そして、社会全体で教育の向上に取り組むために、学校と家庭・地域社会がどのように連携し、協力していけばよいかについて提言します。

平成25年6月に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」では、グローバル化や少子高齢化など社会の急激な変化等、先行きが不透明な社会に移行している中で、地域社会や家族の関係も大きく変化してきているといった課題が述べられている。また、危機的状況として、地域社会のつながりや支え合いによるセーフティネットの低下、価値観・ライフスタイルの多様化等による個々の孤立化や規範意識の低下、情報化の急激な発展による様々な社会問題も指摘されている。これらの課題を改善し、新たな社会モデルを構築していくための基本的方向性として、「社会を生き抜く力の養成」「未来への飛躍を実現する人材の養成」「学びのセーフティネットの構築」「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」が示されており、これらを踏まえて学校・家庭・地域社会が新たな連携や協力の仕組みを構築し、社会全体が一体となって教育に取り組む必要性が指摘されている。

第16次の調査結果では、家庭における基本的な生活習慣、家族や地域社会との関わりに改善がみられた。これらのことを受け、第17次の研究では、家庭・地域社会における生活の実態や意識、学校での生活や学習について継続観察していくとともに、新たに情報社会の中で生活する子どもの行動や態度、地域社会との関わり方や活動への意識・関心について探り、家庭・地域社会における生活の実態や意識を明らかにしていくことが必要であると考えた。

そこで、本章では「家庭における基本的な生活」「家族との関わり」「情報社会での生活」「地域社会との関わり」の四つの切り口を設定した。まず、「家庭における基本的な生活」では、健康状態や就寝時刻等、基本的な生活についての実態を探る。次に、「家族との関わり」では、家庭生活の楽しさや家族との食事や会話の実態を探る。そして、「情報社会での生活」では、今後ますます小・中学生の利用が増加すると予想される情報機器としてのパソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機等との関わり方や実態を探る。最後に、「地域社会との関わり」では、地域の人との関わり方や地域の行事や活動への参加状況を探る。

分析に当たっては、家庭・地域社会における生活に関する子どもの実態や意識を明らかにする。そして子どもの健全な育成のための、学校と家庭・地域社会の連携や協力の在り方について提言したい。



「家庭・地域社会における生活」の調査構造

第1章 家庭・地域社会における生活

第1節 家庭における基本的な生活

1-1 健康状態

<設問1>あなたは、元気に生活していますか。

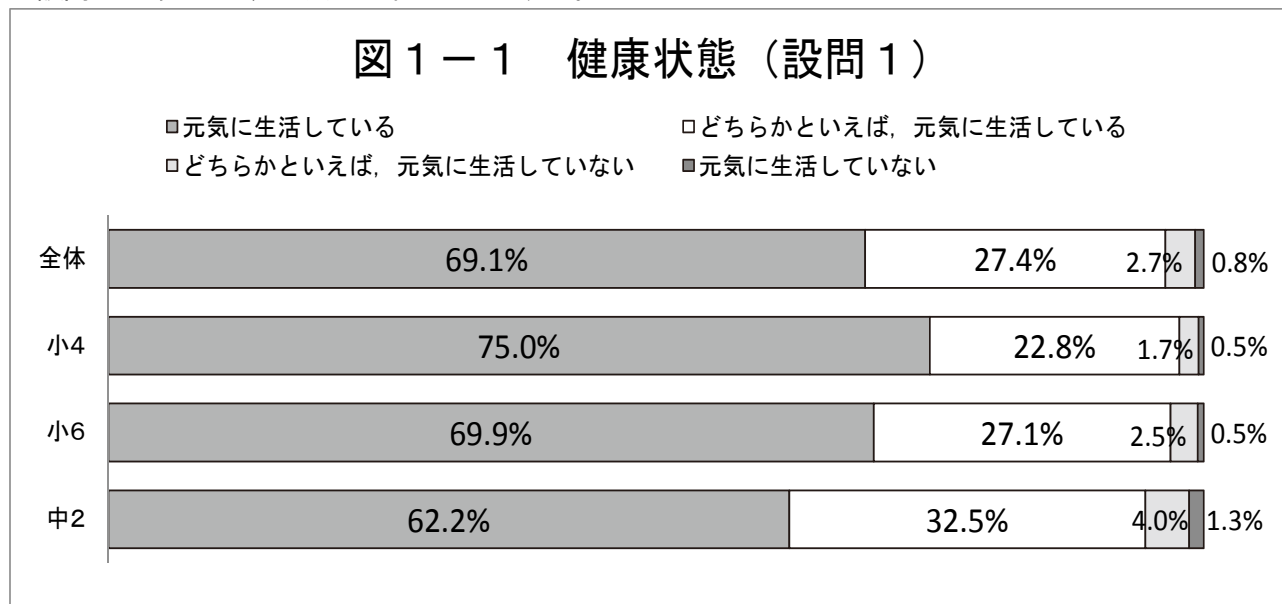


図1-1は、《設問1》の集計結果である。全体では、健康に関して「元気に生活している」と回答した割合は、69.1%で最も高い。また、「元気に生活していない」と回答した割合は、0.8%で最も低い。学年別では、「元気に生活している」と回答した割合は小4で75.0%、小6で69.9%、中2で62.2%となっており、学年が進むにつれて減少している。中2においては、「どちらかといえば、元気に生活していない」「元気に生活していない」と回答した割合を合わせると5.3%であり、20人に1人の割合で、元気に生活していない。

表1-① これまでの調査で「元気に生活している」と回答した割合（%）

	H16	H19	H22	H25
	62.0	63.1	67.4	69.1

「元気に生活している」と回答した割合は、平成16年度で62.0%、平成19年度で63.1%、平成22年度で67.4%、平成25年度で69.1%となっており、年々増加傾向にある（表1-①）。

○ 健康状態と学校生活の楽しさとの関連

表1-1は、本設問と《学校生活の楽しさ：設問21》をクロス集計した結果である。

表1-1を見ると、「元気に生活している」と回答した子供の72.7%が、学校生活は「楽しい」と回答している。「どちらかといえば楽しい」と回答した23.0%を加えると、「元気に生活している」子供の95.7%が、「楽しい」または「どちらかといえば楽しい」と回答している。

一方、「元気に生活していない」と回答した子供の62.2%が、学校生活は「楽しくない」と回答している。

表1-1 健康状態と学校生活の楽しさとの関連（%）

設問1 \ 設問21	設問21			
	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない
元気に生活している	72.7	23.0	3.1	1.3
どちらかといえば、元気に生活している	25.3	56.2	14.2	4.3
どちらかといえば、元気に生活していない	7.7	34.7	34.7	23.0
元気に生活していない	13.0	12.2	12.6	62.2

1-2 就寝時刻

<設問2>あなたは、次の日に学校があるとき、だいたい何時ごろまでに寝ますか。

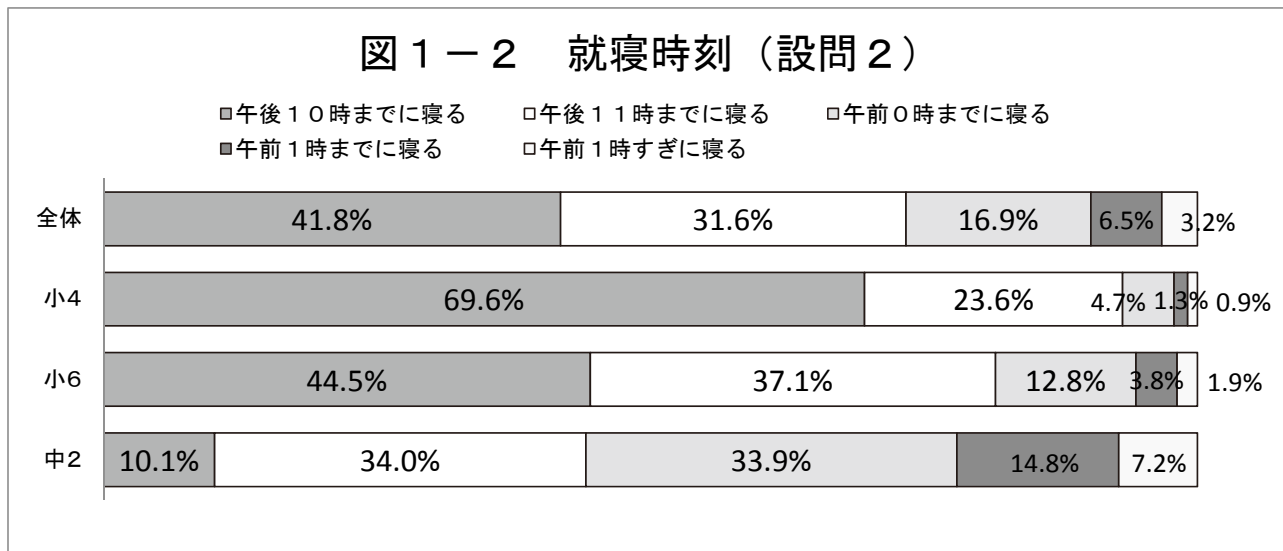


図1-2は、《設問2》の集計結果である。全体では、就寝時刻が「午後10時まで」と回答した割合は41.8%で最も高い。次に「午後11時まで」で31.6%、「午前0時まで」で16.9%、「午前1時まで」で6.5%、「午前1時すぎ」で3.2%の順である。学年別では、小4と小6で就寝時刻が「午後10時まで」と回答した割合が、それぞれ69.6%、44.5%と、最も高い。また、中2で就寝時刻が「午後11時まで」「午前0時まで」と回答した割合が、それぞれ34.0%、33.9%と、ほぼ同じ割合である。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度と比較すると、全体では就寝時刻が「午後10時まで」「午後11時まで」と回答した割合を合わせると、平成16年度で70.1%、平成19年度で73.1%、平成22年度で76.8%、平成25年度で73.4%となり、平成22年度までは増加傾向にあったが、平成25年度では減少した（表1-②）。

学年別でも小4で0.6ポイント、小6で2.2ポイント、中2で7.0ポイントと、ともに減少している。特に中2の減少の割合が高い。

表1-② これまでの調査で就寝時刻が「午後10時まで」「午後11時まで」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	70.1	73.1	76.8	73.4

○ 就寝時刻と学習への取組の現状との関連

表1-2は、本設問と《学習への取組の現状：設問38》をクロス集計した結果である。

表1-2を見ると、就寝時刻が「午後10時まで」と回答した子供のうち、36.0%が、学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答している。「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答した50.2%を合わせると、「午後10時まで」に就寝している子供の86.2%が「進んで取り組んでいると思う」「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答をしている。

一方、就寝時刻が「午前1時すぎ」と回答した子供の28.4%が授業中、学習へ「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない」20.1%が「進んで取り組んでいると思わない」と回答している。

表1-2 就寝時刻と学習への取組の現状との関連（%）

設問38 \ 設問2	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいると思わない
午後10時まで	36.0	50.2	11.1	2.8
午後11時まで	25.6	53.6	16.7	4.1
午前0時まで	20.9	52.4	21.2	5.5
午前1時まで	16.9	48.2	25.1	9.8
午前1時すぎ	15.8	35.8	28.4	20.1

第2節 家族との関わり

1-3 家庭生活の楽しさ

<設問3>あなたは、家での生活が楽しいですか。

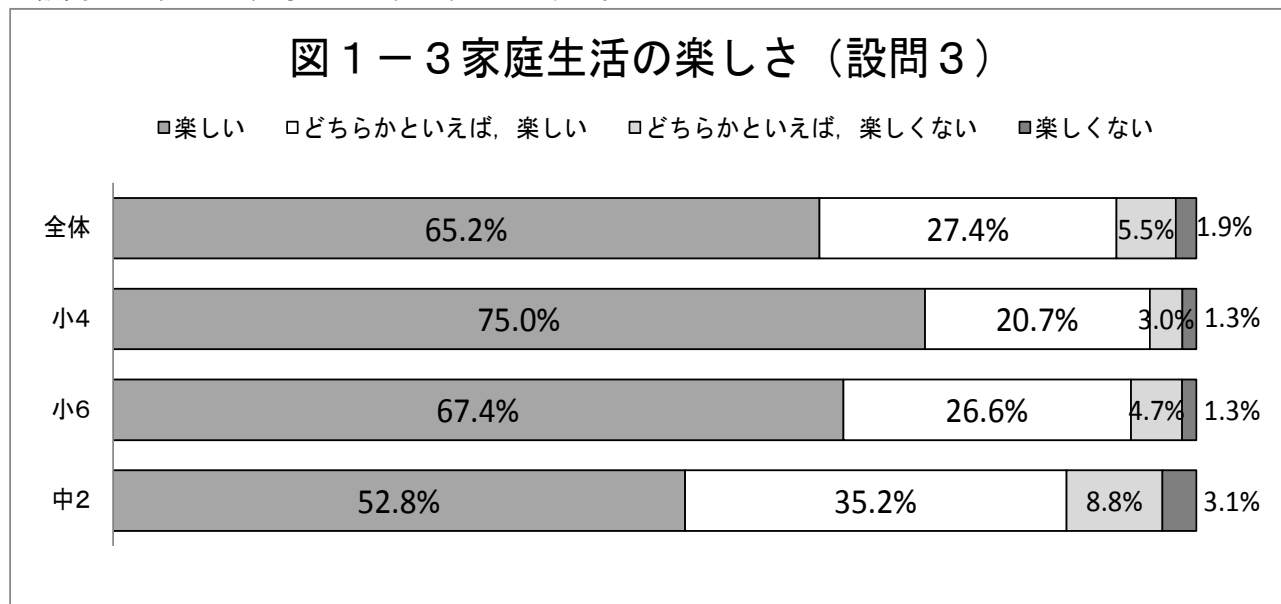


図1-3は、《設問3》の集計結果である。全体では、家庭生活が「楽しい」と回答した割合が最も高く65.2%である。次に、「どちらかといえば、楽しい」が27.4%、「どちらかといえば、楽しくない」が5.5%、「楽しくない」が1.9%の順である。

学年別では、家庭生活が「楽しい」と回答した割合が小4で75.0%、小6で67.4%、中2で52.8%となっており、学年が進むにつれて減少している。中2においては、「どちらかといえば、楽しくない」「楽しくない」と回答した割合を合わせると11.9%あり、10人に1人の割合で「楽しくない」と回答している。

平成16年度、平成19年度、平成22年度、平成25年度の調査と比較すると学年が進むにつれて減少する傾向は、変わらない。しかし、「楽しい」と回答した割合は、平成16年度で55.6%、平成19年度で58.0%、平成22年度で64.8%、平成25年度で65.2%となっており、年々増加傾向にある（表1-3）。

表1-3 これまでの調査で家庭生活が「楽しい」と回答した割合（%）

	H16	H19	H22	H25
割合（%）	55.6	58.0	64.8	65.2

○ 家庭生活の楽しさと学校生活の楽しさとの関連

表1-3は、本設問と《学校生活の楽しさ：設問21》をクロス集計した結果である。

表1-3を見ると、家庭生活が「楽しい」と回答した子供のうち、学校生活が「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答した割合を合わせると93.4%となっている。また、家庭生活が「楽しい」と回答した子供のうち、学校生活が「楽しくない」と回答した子供は、1.9%である。

一方、家庭生活が「楽しくない」と回答した子供の29.0%が、学校生活が「楽しくない」と回答している。

表1-3 家庭生活の楽しさと学校生活の楽しさとの関連（%）

設問21 \ 設問3	(学校生活が) 楽しい	どちらかといえば 楽しい	どちらか といえば 楽しくない	楽しくない
(家庭生活が) 楽しい	67.4	26.0	4.7	1.9
どちらかとい えば楽しい	40.5	46.7	9.7	3.1
どちらかとい えば楽しくない	32.6	39.0	18.7	9.6
楽しくない	29.3	23.8	17.9	29.0

1-4 家族との食事

<設問4>あなたは、家の人と食事をしていますか。

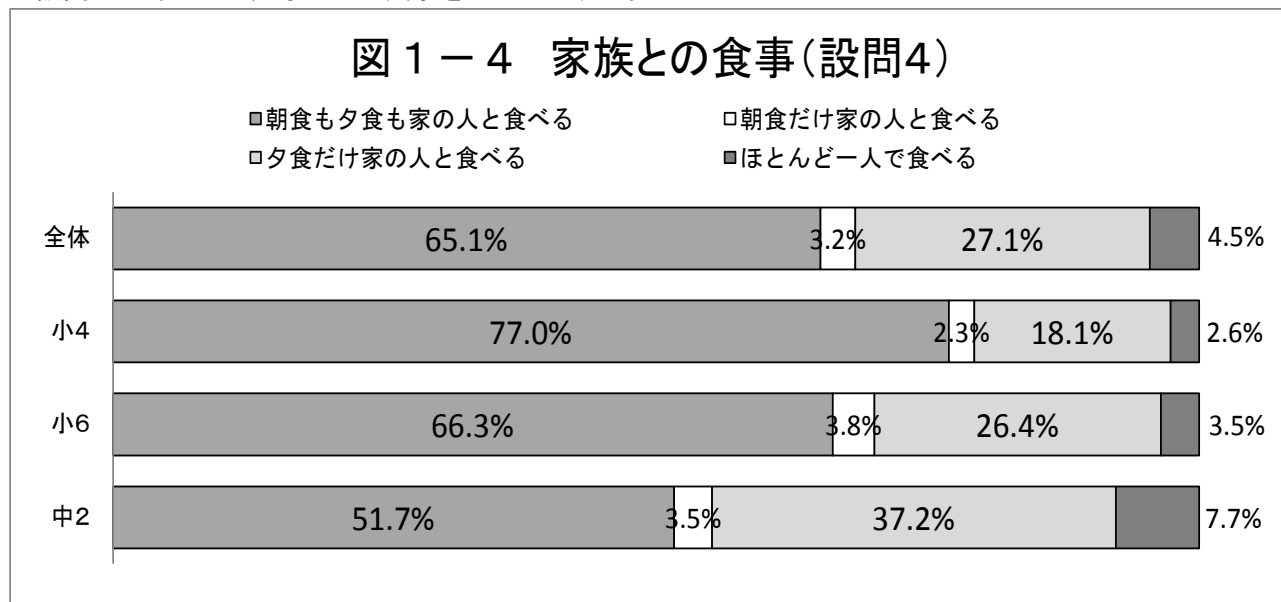


図1-4は、《設問4》の集計結果である。全体では、「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した割合が、65.1%で最も高い。続いて「夕食だけ家の人と食べる」が27.1%である。一方、「朝食だけ家の人と食べる」は、3.2%となり、「ほとんど一人で食べる」と回答した割合4.5%よりもさらに低く、最も低い。

学年別では、「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した割合は小4で77.0%、小6で66.3%、中2で51.7%となっており、学年が進むにつれて減少している。中2においては、「夕食だけ家の人と食べる」「朝食だけ家の人と食べる」「ほとんど一人で食べる」と回答した割合を合わせると48.4%である。

なお、《設問4》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 家族との食事と家族との会話との関連

表1-4は、本設問と《家族との会話：設問5》をクロス集計した結果である。

表1-4を見ると、「朝食も夕食も家の人と食べる」と回答した子供の46.8%が、家の人と「よく話をしている」と回答している。「ときどき話をしている」と合わせると87.0%である。また、「まったく話をしていない」と回答した子供は、2.4%である。

一方、「ほとんど一人で食べる」と回答した子供の17.9%が、家の人と「まったく話をしていない」と回答しており、「あまり話をしていない」と合わせると44.3%である。

表1-4 家族との食事と家族との会話との関連 (%)

設問4 \ 設問5	よく話をしている	ときどき話をしている	あまり話をしていない	まったく話をしていない
朝食も夕食も家の人と食べる	46.8	40.2	10.6	2.4
朝食だけ家の人と食べる	29.2	43.5	21.4	6.0
夕食だけ家の人と食べる	31.4	43.9	19.0	5.7
ほとんど一人で食べる	18.6	37.2	26.4	17.9

1-5 家族との会話

<設問5>あなたは、家の人と、毎日の生活のことや学校のことなどについて話をしていますか。

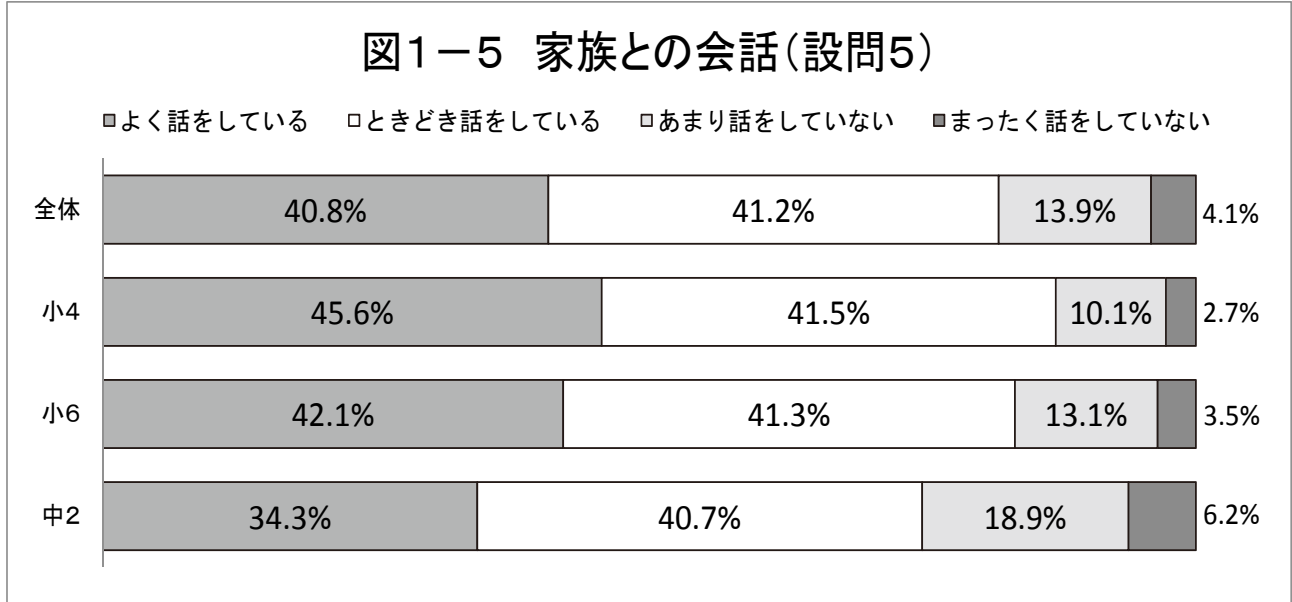


図1-5は、《設問5》の集計結果である。全体では、家の人と「よく話をしている」または「ときどき話をしている」と回答した割合を合わせると、82.0%である。また、「まったく話をしていない」と回答した割合は、4.1%で最も低い。

学年別では、家の人と「よく話をしている」と回答した割合は小4で45.6%、小6で42.1%、中2で34.3%となっており、学年が進むにつれて減少している。一方、家の人と「まったく話をしていない」と回答した割合は小4で2.7%、小6で3.5%、中2で6.2%と学年が進むにつれて増加している。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、学年が進むにつれて減少する傾向は、変わらない。しかし、家の人と「よく話をしている」と回答した割合は、平成16年度で29.9%、平成19年度で31.6%、平成22年度で35.0%、平成25年度で40.8%となっており、年々増加傾向にある(表1-④)。

表1-④ これまでの調査で「よく話をしている(よく話し合っている)」と回答した割合(%)
(H25は、これまでの設問と選択肢を修正して実施)

	H16	H19	H22	H25
	29.9	31.6	35.0	40.8

○ 家族との会話と家庭生活の楽しさとの関連

表1-5は、本設問と《家庭生活の楽しさ：設問3》をクロス集計した結果である。

表1-5を見ると、「よく話をしている」と回答した子供のうち、家庭生活が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答した割合を合わせると、97.6%となっている。

一方、「まったく話をしていない」と回答した子供のうち、家庭生活が「楽しくない」または「どちらかといえば、楽しくない」と回答した割合を合わせると、32.4%となっている。

表1-5 家族との会話と家庭生活の楽しさとの関連(%)

設問5 \ 設問3	家庭生活の楽しさ			
	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない
よく話をしている	81.2	16.4	1.9	0.5
ときどき話をしている	61.4	32.5	5.2	0.9
あまり話をしていない	38.8	42.9	13.5	4.8
まったく話をしていない	34.7	32.9	17.2	15.2

第1章 家庭・地域社会における生活

第3節 情報社会での生活

1-6 コミュニケーションの方法

〈設問6〉あなたは、友だちに連絡や相談事など伝えたいことがあるとき、どのような方法で伝えることが多いですか。

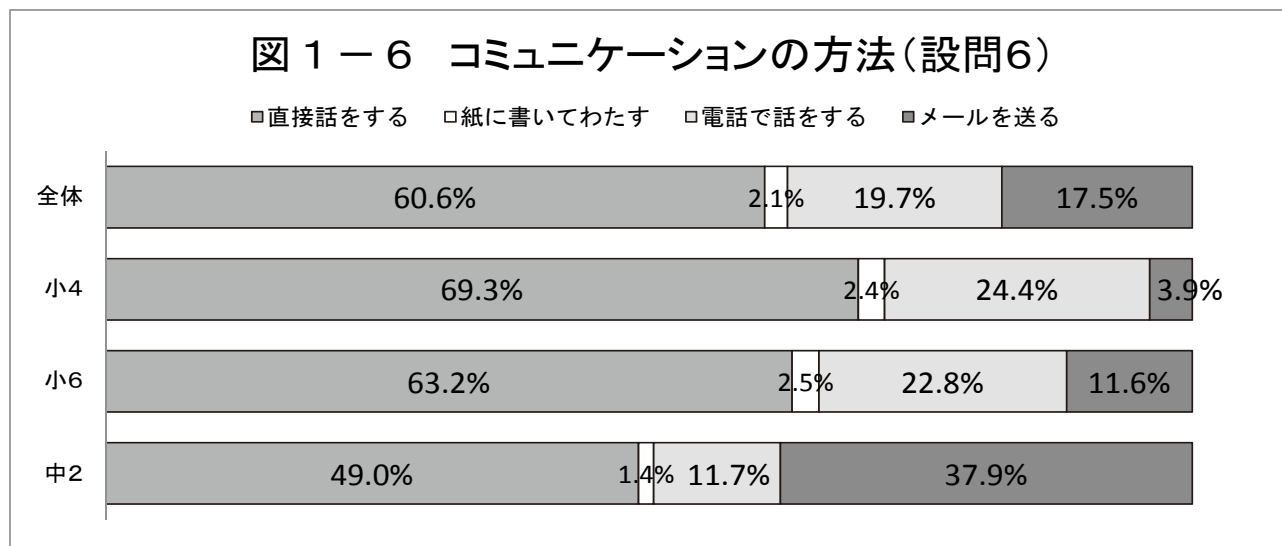


図1-6は、《設問6》の集計結果である。全体では、友だちに連絡や相談事など伝えたいことがあるとき、「直接話をする」と回答した割合が60.6%と最も高い。次に「電話で話をする」と回答した割合は19.7%、「メールを送る」と回答した割合は17.5%、「紙に書いて渡す」と回答した割合は2.1%で、最も低い。

学年別では、友達に連絡や相談事など伝えたいことがあるとき、「直接話をする」と回答した割合は、小4で69.3%、小6で63.2%、中2で49.0%となっており、学年が進むにつれて減少している。「電話で話をする」と回答した割合は、小4で24.4%、小6で22.8%、中2で11.7%となっており、学年が進むにつれて減少している。「紙に書いて渡す」と回答した割合は小4で2.4%、小6で2.5%、中2で1.4%となっており、どの学年でも最も低い。

一方、友達に連絡や相談事など伝えたいことがあるとき、「メールを送る」と回答した割合は、小4で3.9%、小6で11.6%、中2で37.9%となっており、学年が進むにつれて増加している。

なお、《設問6》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ コミュニケーションの方法と情報機器の利用時間との関連

表1-6は、本設問と《情報機器の利用時間：設問7》をクロス集計した結果である。

表1-6を見ると、「直接話をする」と回答した子供のうち25.4%と、「紙に書いて渡す」と回答した子供のうち27.8%が、情報機器の利用時間を「ほとんど使っていない」と回答している。

また、「電話で話をする」と回答した子供のうち26.4%が、情報機器の利用時間を「1時間くらい使っている」と回答している。

一方、「メールを送る」と回答した子供の29.9%が、情報機器の利用時間を「3時間以上使っている」と回答している。

表1-6 コミュニケーションの方法と情報機器の利用時間との関連(%)

設問6 \ 設問7	ほとんど使っていない	30分くらい使っている	1時間くらい使っている	2時間くらい使っている	3時間以上使っている
直接話をする	25.4	22.3	25.4	15.4	11.5
紙に書いて渡す	27.8	27.3	21.6	12.6	10.7
電話で話をする	21.7	22.9	26.4	16.5	12.6
メールを送る	7.7	14.2	22.2	26.0	29.9

1-7 情報機器の利用時間

〈設問7〉あなたは、学校のある日に家で情報機器（パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機など）を一日にどれくらい使っていますか。

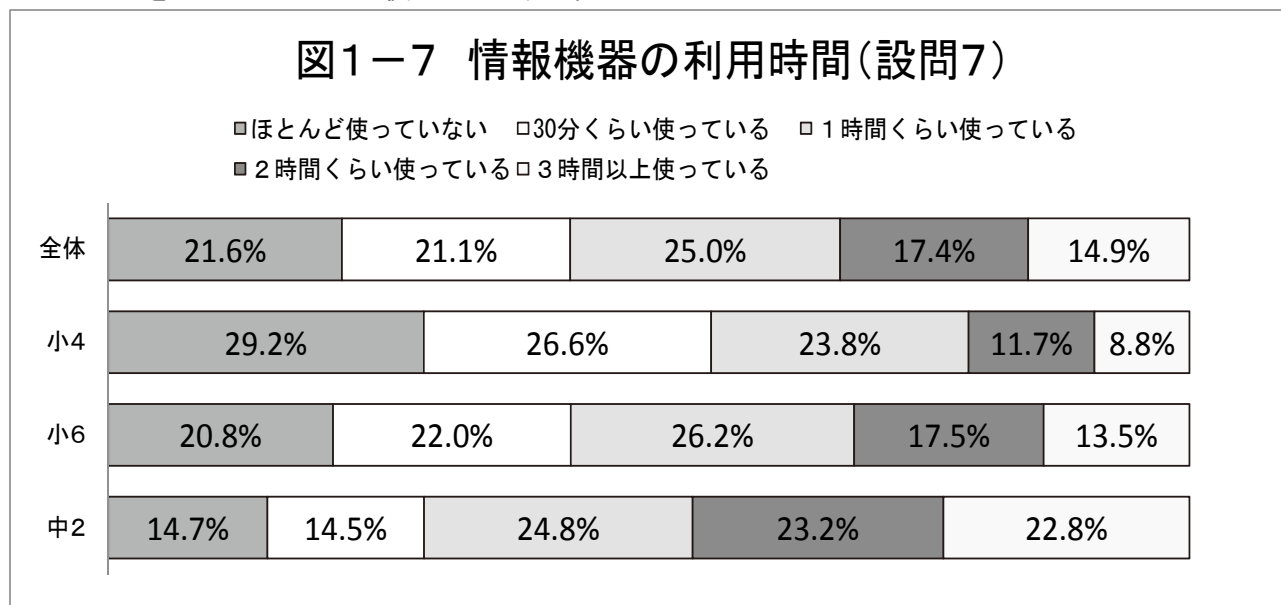


図1-7は、《設問7》の集計結果である。全体では、「1時間くらい使っている」と回答した割合が25.0%で最も高く、「3時間以上使っている」は、14.9%である。

学年別では、「2時間くらい使っている」または「3時間以上使っている」と回答した割合を合わせると、小4で20.5%、小6で31.0%、中2で46.0%と学年が進むにつれて増加しており、中2は小4の約2倍となっている。一方、「ほとんど使っていない」または「30分くらい使っている」と回答した割合は、小4で55.8%、小6で42.8%、中2で29.2%となっており、学年が進むにつれて減少している。

なお、《設問7》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 情報機器の利用時間と就寝時刻との関連

表1-7は、本設問と《就寝時刻:設問2》をクロス集計した結果である。

表1-7を見ると、情報機器を「ほとんど使っていない」と回答した子供のうち、「午後10時までに寝る」「午後11時までに寝る」「午前0時までに寝る」と回答した割合を合わせると95.5%になっている。

一方、情報機器を「3時間以上使っている」と回答した子供の28.5%は、「午前1時までに寝る」や「午前1時過ぎに寝る」と回答している。「ほとんど使っていない」と回答した子供の割合が4.4%であるのに対し、6倍以上である。

表1-7 情報機器の利用時間と就寝時刻との関連 (%)

設問7 \ 設問2	午後10時までに寝る	午後11時までに寝る	午前0時までに寝る	午前1時までに寝る	午前1時過ぎに寝る
ほとんど使っていない	57.4	26.8	11.3	3.1	1.3
30分くらい使っている	53.9	30.5	11.5	3.3	0.9
1時間くらい使っている	41.7	35.7	16.6	4.7	1.3
2時間くらい使っている	26.9	37.0	23.9	8.8	3.5
3時間以上使っている	19.5	26.9	25.2	16.2	12.3

1-8 情報機器との関わり方

〈設問8〉あなたは、情報機器（パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機など）を使うときに、家族との約束事を守っていますか。

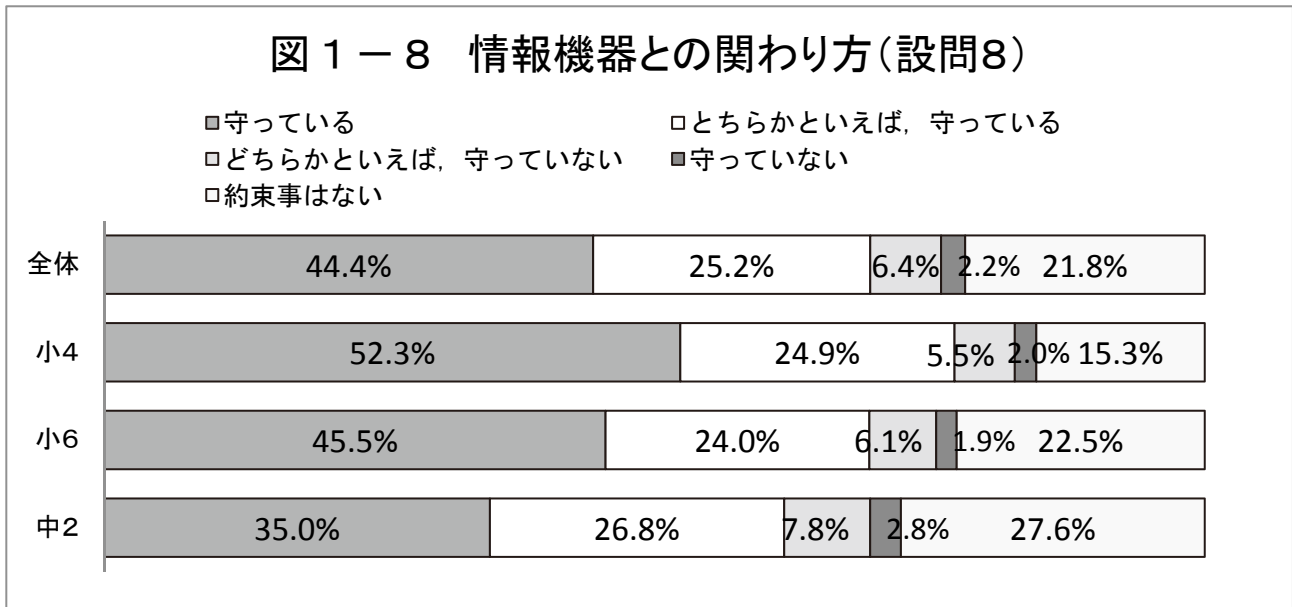


図1-8は、《設問8》の集計結果である。全体では、情報機器を使うときに、家族との約束事を「守っている」と回答した割合が44.4%で最も高い。また、「守っていない」と回答した割合が2.2%と最も低い。学年別では、「守っている」または「どちらかといえば、守っている」と回答した割合を合わせると、最も高いのは小4の77.2%である。「どちらかといえば、守っていない」または「守っていない」と回答した割合を合わせると、最も高いのは中2の10.6%である。また、「約束事はない」と回答した割合が中2の27.6%で最も高く、学年が進むにつれて増加している。

なお、《設問8》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 情報機器との関わり方と情報機器の利用時間との関連

表1-8は、本設問と《情報機器の利用時間：設問7》をクロス集計した結果である。

表1-8を見ると、家で情報機器を使うときに約束事を「守っている」と回答した子供のうち、「3時間以上使っている」と回答した割合が8.0%である。

一方、家で情報機器を使うときに、約束事を「守っていない」と回答した子供のうち「3時間以上使っている」と回答した割合が46.2%である。約束事を「守っていない」と回答した子供は、情報機器を利用する時間が長い。

表1-8 情報機器との関わり方と情報機器の利用時間との関連（%）

設問7 設問8	ほとんど使っていない	30分くらい使っている	1時間くらい使っている	2時間くらい使っている	3時間以上使っている
守っている	30.5	26.8	23.2	11.6	8.0
どちらかといえば、守っている	12.8	21.0	32.9	21.1	12.3
どちらかといえば、守っていない	7.4	11.1	26.4	32.0	23.1
守っていない	8.1	6.9	13.8	24.9	46.2
約束事はない	19.3	14.1	20.1	19.9	26.5

第4節 地域社会との関わり

1-9 地域の人との関わり方

<設問9>あなたは、普段近所の人とあいさつをしたり、話をしたりしていますか。

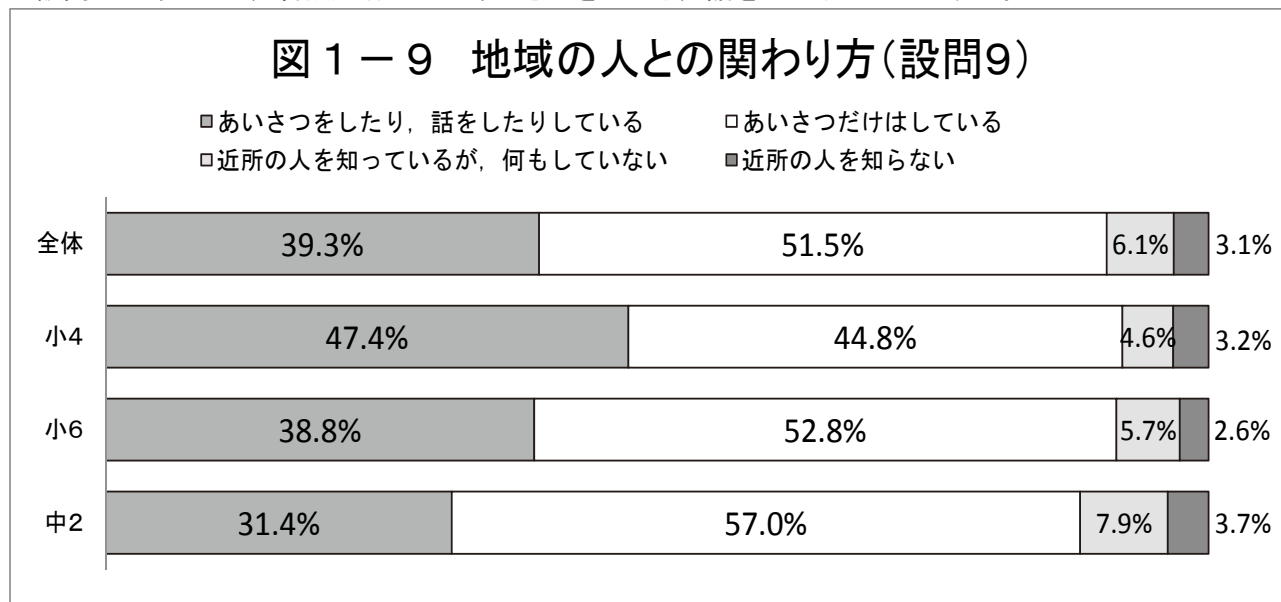


図1-9は、《設問9》の集計結果である。全体では、「あいさつだけはしている」と回答した割合は51.5%であり、「あいさつをしたり、話をしたりしている」と回答した割合は、39.3%である。

学年別では、「あいさつをしたり、話をしたりしている」と回答した割合は、小4で47.4%、小6で38.8%、中2で31.4%となり、学年が進むにつれて割合が減少している。中2においては、「近所の人を知っているが、何もしていない」「近所の人を知らない」と回答した割合を合わせると11.6%になり10人に1人以上の割合で全く声を掛けていないことになる。

表1-⑤ これまでの調査で「あいさつをしたり、話をしたりしている(あいさつをいつもしている)」と回答した割合(%)
(H25は、これまでの設問と選択肢を修正して実施)

	H16	H19	H22	H25
	39.9	41.2	43.3	39.3

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、あいさつを「いつもしている」という割合とほぼ同じ4割近くが「あいさつをしたり、話をしたりしている」と回答している(表1-⑤)。

○ 地域の人との関わり方と地域活動への参加との関連

表1-9は、本設問と《地域活動への参加：設問10》をクロス集計した結果である。

表1-9を見ると、「あいさつをしたり、話したりしている」と回答した子供の45.2%が、地域活動に「よく参加している」と回答している。「ときどき参加している」の37.2%を加えると、「あいさつをしたり、話したりしている」子供の82.4%が、「よく参加している」または「ときどき参加している」と回答している。

一方、「近所の人を知らない」と回答した子供の31.9%が「まったく参加していない」と回答している。

表1-9 地域の人との関わり方と地域活動への参加との関連(%)

設問9 \ 設問10	よく参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	まったく参加していない
あいさつをしたり、話したりしている	45.2	37.2	12.2	5.4
あいさつだけはしている	26.3	41.6	22.3	9.8
近所の人を知っているが何もしていない	18.7	34.3	26.2	20.9
近所の人を知らない	16.6	24.6	27.0	31.9

1-10 地域活動への参加

<設問10>あなたは、地域の行事や活動（お祭り、レクリエーション、スポーツ、奉仕活動など）に参加していますか。

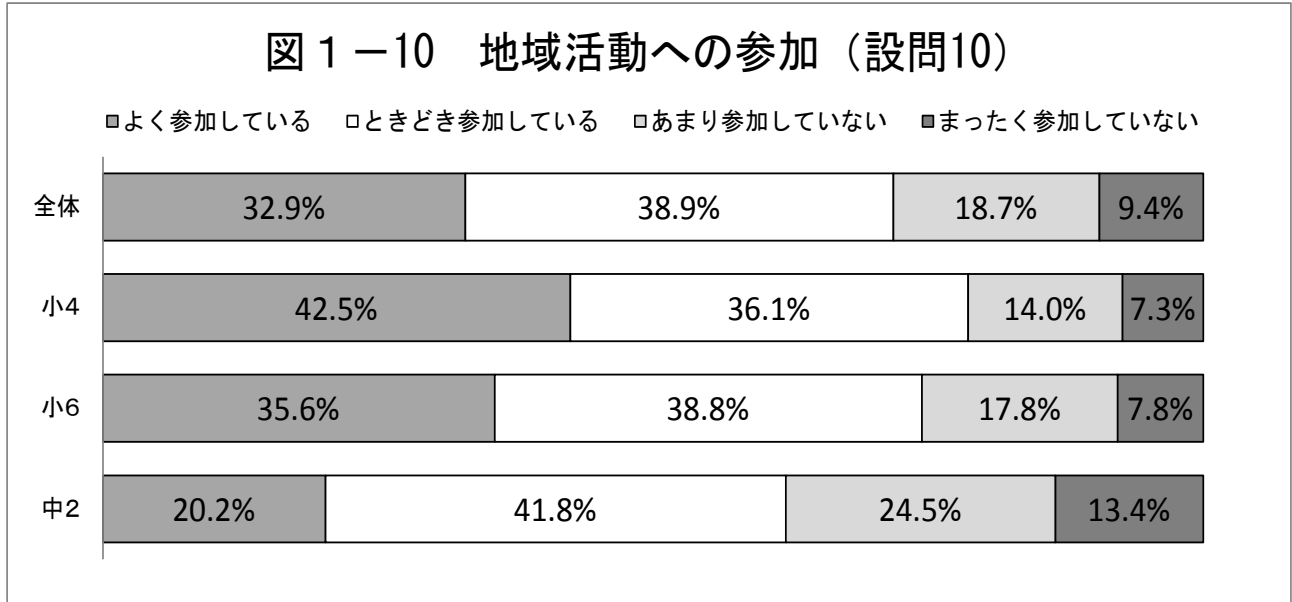


図1-10は、《設問10》の集計結果である。全体では、地域の行事や活動に「よく参加している」または「ときどき参加している」と回答した割合を合わせると、71.8%である。また、「まったく参加していない」と回答した割合は、9.4%で最も低い。

学年別では、「よく参加している」と回答した割合は、小4で42.5%、小6で35.6%、中2で20.2%となっており、学年が進むにつれて減少している。中2においては、「まったく参加していない」または「あまり参加していない」と回答した割合を合わせると37.9%となり、約4割の子供が否定的に回答している。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、学年が進むにつれて減少する傾向は同じだが、全体を見ると「よく参加している」と回答する割合は増加する傾向にある（表1-⑥）。

表1-⑥ これまでの調査で「よく参加している」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの設問を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	25.0	26.9	29.6	32.9

○ 地域活動への参加と地域の人から学ぶこと

の楽しさとの関連

表1-10は、本設問と《地域の人から学ぶことの楽しさ：設問19》をクロス集計した結果である。

表1-10を見ると、「よく参加している」と回答した子供の31.8%が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば、楽しい」と回答した25.9%と合わせると57.7%が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答している。

地域活動に「まったく参加していない」と回答している子供の64.1%が「機会がないからわからない」と回答している。

表1-10 地域活動への参加と地域の人から学ぶことの楽しさとの関連（%）

設問10 \ 設問19	設問19				
	楽しい	どちらかといえば楽しい	どちらかといえば楽しくない	楽しくない	機会がないからわからない
よく参加している	31.8	25.9	6.0	3.3	33.1
ときどき参加している	18.0	28.3	7.1	3.4	43.2
あまり参加していない	11.0	21.8	8.0	5.0	54.2
まったく参加していない	8.3	11.7	6.2	9.6	64.1

家庭・地域社会における生活 考察とまとめ

1 家庭では、元気な子供を育てるために、規則正しい生活を送ることができるよう、子供に睡眠時間を十分に取らせましょう

平成16年度から平成25年度の間の子供の「健康状態」の集計結果を見ると、全体では、「元気に生活している」と回答した割合が回を追うごとに増加しており、子供の「健康状態」は上向きであることがわかる（p. 6 表1-①）。また、元気に生活している子供は、学校生活も楽しく充実していることがわかる（p. 6 表1-1）。一方、「就寝時刻」の集計結果を見ると、全体では、「午後10時まで」または「午後11時まで」と回答した割合を合わせると、平成22年度まで増加していた割合が、平成25年度でふたたび減少している（p. 7 表1-②）。

表1-a 健康状態と家庭生活での楽しさとの関係（%）

設問3 設問1	楽しい	どちらか といえ ば、楽し い	どちらか といえ ば、楽し くない	楽しくない
元気に生活している	75.9	20.3	2.9	1.0
どちらかといえ ば、元気に生活している	43.0	44.8	9.8	2.3
どちらかといえ ば、元気に生活していない	28.2	37.0	24.0	10.8
元気に生活していない	31.7	14.8	14.8	38.7

また、就寝時刻が午後10時までの子供は、授業中、学習への取組が積極的であることがわかる。一方、就寝時刻が午前1時過ぎに就寝している子供の2人に1人は、学習への取組が積極的でない傾向にある（p. 7 表1-2）。睡眠時間の確保が、学習への積極的な取組に影響していることがわかる。

さらに、元気に生活している子供は、家庭生活も楽しく送っている傾向にあり、以上のことから健康状態が家庭生活の楽しさに影響しているといえる（表1-a）。

これらのことから、元気に生活している子供は、学校生活が楽しい。また、早く寝て睡眠時間をしっかりとっている子供は、授業中、学習に積極的である。さらに、元気に生活している子供は、家庭生活も楽しいといえる。家庭では、元気な子供を育てるために、規則正しい生活を送ることができるよう、睡眠時間の確保に努めたい。

2 家庭では、子供が楽しく生活するために、家族が関わる機会を増やすことができるよう、家族での会話の機会を多くもつようにしましょう

「朝食も夕食も家の人と食べる」など家族と食事をしている割合が高い子供は、家の人と「よく話をしている」と回答した割合が高くなっている（p. 9 表1-4）。一方、「ほとんど一人で食べる」と回答した子供の5人に1人は、家の人と「あまり」または「まったく」話をしていないと回答している。また、家の人と「よく話をしている」と回答した子供の9割を超える子供が、家庭生活が「楽しい」または「どちらかといえば楽しい」と回答している（p. 10 表1-5）。一方、「まったく話をしていない」と回答した子供の約3分の1が「楽しくない」または「どちらかといえば楽しくない」と回答している。

さらに、家庭生活が「楽しい」と回答をした子供の9割以上が、学校生活が「楽しい」または「どちらかといえば楽しい」と回答しており、家庭生活が「楽しくない」と回答した子供の約3割が学校生活が「楽しくない」と回答している（p. 8 表1-3）。

これらのことから、家族と食事を一緒にとるなど、家族との会話が多いほど家庭生活を楽しく感じる子供が多くなり、学校生活の楽しさを感じる子供も増えると考えられる。そこで、家庭では、家族との会話を多くし、食事を家族で一緒にとるなどして、家族が関わる機会を増やすことができるようにしていきたい。

3 学校や家庭は、子供が情報機器と適切な関わり方をするために、利用する目的や時間を自ら判断できるよう、情報機器の活用について考える機会をつくりましょう

コミュニケーションの方法として、「メールを送る」と回答した割合と情報機器の利用時間が「2時間くらい」から「3時間以上」と回答した割合が、学年が進むにつれて増加傾向にある。このことから学年が進むにつれて情報機器を利用する頻度が高くなっていることがわかる。

また、情報機器を利用する時間が「3時間以上」と回答した子供の53.7%の就寝時刻が「11時以降」となっている（p.12 表1-7）。また、64.6%が、学校や塾の宿題以外に、自分で考えて勉強を「あまりしていない」または「まったくしていない」と回答している。情報機器を利用する時間が長いほど、睡眠時間や家庭学習の時間が削られていることがわかる（表1-b）。

そして、家庭で決めた情報機器を利用する際の約束事について、「守る」と回答した子供は情報機器の利用時間が短く、「守らない」または、「約束事がない」と回答した子供は、利用時間が長くなる傾向がある（p.13 表1-8）。家庭での情報機器の利用に関する約束事の有無やそれを守ろうとする意識が、情報機器の節度ある利用を生んでいることがわかる。

これらのことから、情報機器の使用にあたって、利用する目的や時間を自ら判断する力を身に付けさせる必要がある。そこで、学校と家庭が連携し、情報機器の利用する目的や時間について、考える機会を設定していきたい。

4 学校や地域は、子供が地域社会の中で、より良い生活をするために、地域の人と積極的に関わることができるよう、互いの連携を深める機会を多く設定していきましょう

今回の調査で、地域社会との関わりにおいて、約4割の子供が、あいさつだけでなく、地域の人とコミュニケーションをとっていることがわかった（p.14 図1-9）。また、過去3回の調査結果と合わせると、地域活動に「よく参加している」と回答した子供が増えていることがわかる（p.15 表1-⑥）。さらに、地域の人たちとあいさつや話をしている子供は、地域の活動にも積極的に参加し、いろいろな場面を通じて、関わりをもっていることもわかった（p.14 表1-9）。おそらく、様々な関わりの中で、多くの人と関わる楽しさを味わい、地域の良さや地域の人と関わる大切さを感じていると考えられる。しかしながら、「まったく参加していない」という回答に関しては「地域の人から学ぶ機会がないからわからない」と回答している子供の割合が極めて高いことから、さらに地域と関わる学習内容や場面を設定する必要がある（p.15 表1-10）。

さらに、地域活動に「よく参加している」子供は、学校生活においても誰かの役に立ったと感じること（自己有用感）について「よくある」または「ときどきある」と回答する割合が多く、有意義な学校生活を送っていることがわかる（表1-c）。

これらのことから、積極的な地域活動への参加が、学校での自己有用感を高めている。そこで、学校や地域では、子供が地域社会の中で、よりよい生活をするために、地域の特徴を理解し、地域活動への参加の機会をさらに充実させることができるようにしていきたい。

表1-b 情報機器の利用時間と家庭学習における自主性の関連 (%)

設問13 設問7	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
ほとんど使っていない	30.3	34.7	22.2	12.8
30分くらい使っている	26.6	38.3	24.4	10.7
1時間くらい使っている	20.4	36.9	28.8	13.8
2時間くらい使っている	14.1	32.8	31.3	21.8
3時間以上使っている	12.3	23.2	27.9	36.7

表1-c 地域活動への参加と自己有用感(学校生活)との関係 (%)

設問29 設問10	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よく参加している	23.7	52.8	18.9	4.6
ときどき参加している	13.0	57.4	25.0	4.6
あまり参加していない	9.9	47.5	35.2	7.4
まったく参加していない	9.3	36.6	36.3	17.8

第2章 家庭・地域社会における学習

本章では「家庭での学習」「学習塾（家庭教師を含む）での学習」「地域社会からの学習」「学校以外での全ての学習」の4点から、子供の家庭・地域社会における学習の実態と必要感や有用性などの意識を探っていきます。

そして、子供が家庭・地域社会における全ての学習の有用性を感じるためには、学校と家庭・地域社会がどのように連携、協力していけばよいかについて提言します。

平成25年6月に閣議決定された「第2期教育振興基本計画」では、特に都市部を中心として、地域社会等のつながりや支え合いによる教育力やセーフティネット機能が低下し、規範意識の希薄化や児童虐待といった教育上の問題の一因になっていると述べている。また、各自が生涯にわたって様々なニーズに応じて自己の能力と可能性を最大に高め、様々な人々と協調・協働しつつ、自己実現と社会貢献を図ることが大切であり、学校だけでなく、あらゆる機会、場所での生涯学習の必要性が指摘されている。

第16次の調査結果では、家庭学習が必要であるという意識が年々高まり、家庭学習に対する必要感と家庭での学習時間や内容に改善がみられた。家庭学習が必要であると答えた子供は、自己の可能性を肯定的にとらえる傾向が強いという結果も出た。これらのことを受け、第17次の研究では、家庭・地域社会における学習の様子に関する経年変化をみていき、今日的課題の一つである「社会や人との関係性」に関する姿や思いを探り、学校や家庭、地域社会での連携の在り方を明らかにすることが必要であると考えた。

そこで、本章では「家庭での学習」「学習塾（家庭教師を含む）での学習」「地域社会からの学習」「学校以外での全ての学習」の四つの切り口を設定した。まず、「家庭での学習」では、家庭学習の実態や意識を探る。また、今後ますます小・中学生の利用が増加すると予想される情報ツールとしてのインターネットの利用頻度を探る。次に、「学習塾（家庭教師を含む）での学習」では、学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度や学習塾（家庭教師を含む）に対する必要感を探る。そして、「地域社会からの学習」では、地域の人から学ぶ機会や子供たちの意識を探る。最後に、「学校以外での全ての学習」では、学習塾（家庭教師を含む）での学習にとどまらず、学校以外での全ての学習の有用性に対する意識を探る。

分析に当たっては、家庭・地域社会における学習に関する子供の実態や意識を明らかにし、子供たちの学習の実態と必要感や有用性、満足感などの意識を探っていく。子供が家庭・地域社会での全ての学習の有用性を感じるためには、学校と家庭・地域社会がどのように連携、協力していけばよいかということについて提言したい。

第4節「学校以外での全ての学習」

●学校以外での全ての学習の有用性

第1節「家庭での学習」

- 平日における家庭学習の時間
- 家庭学習における家の人との関わり
- 家庭学習における自主性
- 家庭学習とインターネットの利用
- 家庭学習に対する必要感

第3節「地域社会からの学習」

- 地域の人から学ぶ機会
- 地域の人から学ぶことの楽しさ

第2節「学習塾（家庭教師を含む）での学習」

- 学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度
- 学習塾（家庭教師を含む）に対する必要感

「家庭・地域社会における学習」の調査構造

第2章 家庭・地域社会における学習

第1節 家庭での学習

2-1 平日における家庭学習の時間

<設問11>あなたは、学校のある日、だいたいどのくらい家で勉強していますか。

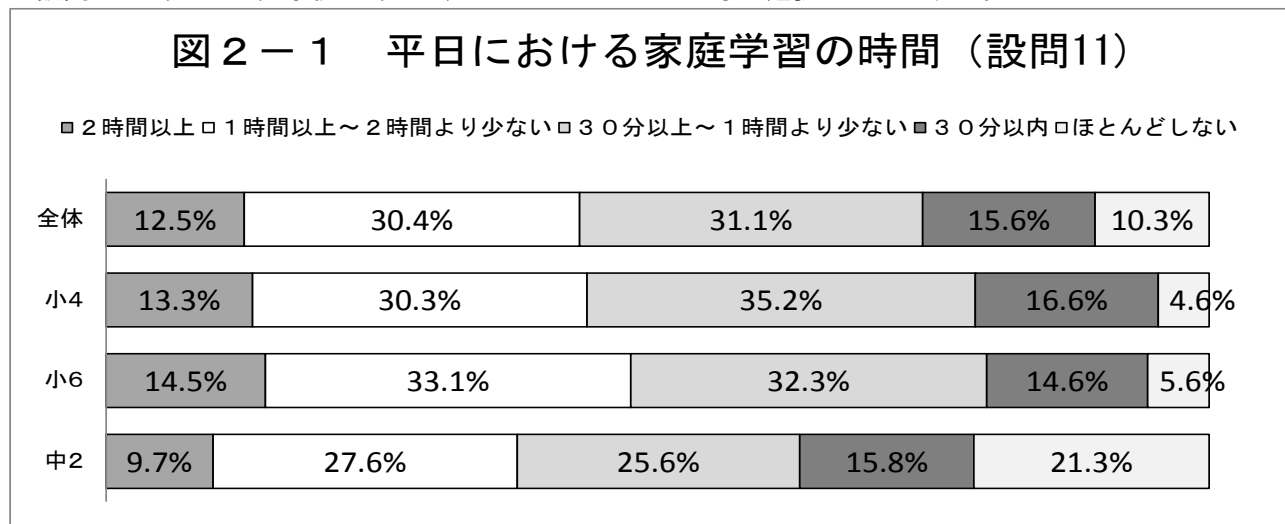


図2-1は、《設問11》の集計結果である。全体では平日の1日の平均家庭学習時間は「30分以上～1時間より少ない」が31.1%で最も多く、次いで「1時間以上～2時間より少ない」が30.4%で多い。この二つの時間帯については、学年によって多少の差異は見られるが、これらの時間帯を合わせると全学年で半数以上となる。学年別では、平日に家で勉強を「ほとんどしない」と回答した割合は中2で21.3%となり、最も低い小4の4.6%と比べると4.6倍となっている。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、全体としては、「ほとんどしない」と回答した割合は年々減少している。平成16年度の「ほとんどしない」と回答した割合15.6%と比較すると、5.3ポイント減少している（表2-①）。

表2-① これまでの調査で「ほとんどしない」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	15.6	14.0	11.2	10.3

○ 平日における家庭学習の時間と情報機器の利用時間との関連

表2-1は、本設問と《情報機器の利用時間：設問7》をクロス集計した結果である。

表2-1を見ると、平日に家庭学習を「2時間以上」と回答した子供のうち、家で情報機器（ゲーム機を含む）を「ほとんど使っていない」と回答した割合は35.2%であり、「30分くらい使っている」と回答した割合を合わせると、58.7%となる。

一方、平日に家庭学習を「ほとんどしない」と回答した子供のうち、家で情報機器（ゲーム機を含む）を「ほとんど使っていない」と回答した割合は12.5%で、家庭学習を「2時間以上」と回答した割合である35.2%と比べると、22.7ポイント低くなっている。さらに、「2時間くらい使っている」または「3時間以上使っている」と回答した割合を合わせると61.7%となり、家庭学習を「2時間以上」していると回答した割合である20.7%と比べると、41.0ポイント高くなっている。

表2-1 平日における家庭学習の時間と情報機器の利用時間との関連（%）

設問7 \ 設問11	ほとんど使っていない	30分くらい使っている	1時間くらい使っている	2時間くらい使っている	3時間以上使っている
	2時間以上	35.2	23.5	20.6	11.8
1時間～2時間	23.2	23.7	27.2	16.6	9.4
30分～1時間	19.4	22.7	28.1	18.0	11.9
30分以内	18.1	18.7	23.7	20.2	19.3
ほとんどしない	12.5	9.5	16.3	20.6	41.1

2-2 家庭学習における家の人との関わり

<設問12>あなたは、家庭学習のことで、家の人からアドバイスをしてもらいますか。

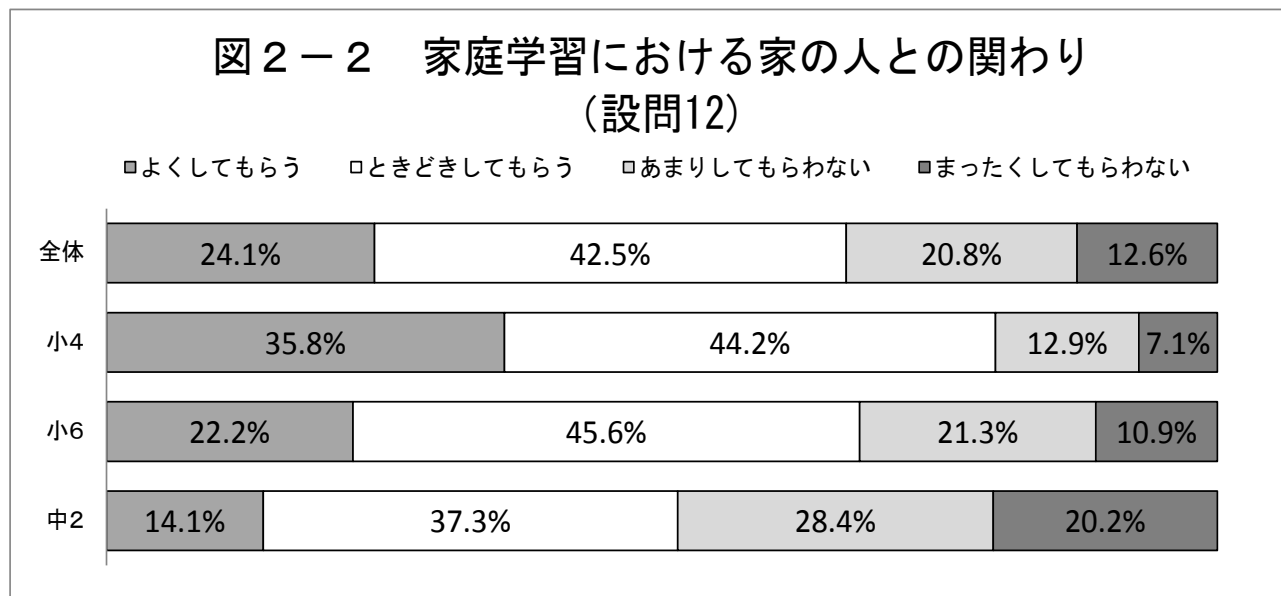


図2-2は、《設問12》の集計結果である。全体では、家庭学習に関して、家の人からアドバイスを「よくしてもらう」または「ときどきしてもらう」と回答した割合は66.6%となっており、3分の2程度であった。一方、「まったくしてもらわない」と回答した割合は12.6%となっている。

学年別では、「よくしてもらう」と回答した割合は、小4で35.8%、小6で22.2%、中2で14.1%となっており、学年が進むにつれて低くなっている。学年間の差に着目すると、小4から小6では、13.6ポイント減少しており、小6から中2の8.1ポイントよりも差は大きい。一方、「まったくしてもらわない」と回答した割合は、小4で7.1%、小6で10.9%、中2で20.2%となっており、学年が進むにつれて高くなっている。こちらも学年間の差に着目すると、小4から小6では3.8ポイント、小6から中2では9.3ポイント増加している。

なお、《設問12》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 家庭学習における家の人との関わりと家庭学習に対する必要感との関連

表2-2は、本設問と《家庭学習に対する必要感：設問15》をクロス集計した結果である。

表2-2を見ると、家庭学習に関して、アドバイスを「よくしてもらう」と回答した子供のうち、家で勉強することは「必要だと思う」と回答した割合は73.4%であり、「どちらかといえば、必要だと思う」と回答した割合である21.3%を合わせると、94.7%となる。

一方、アドバイスを「まったくしてもらわない」と回答した子供のうち、家で勉強は「必要だと思う」と回答した割合は40.9%で、「よくしてもらう」と回答した割合である73.4%と比べると、32.5ポイント低くなっている。さらに、「必要だと思わない」と回答した割合は13.9%で、「よくしてもらう」と回答した割合である2.2%と比べると、11.7ポイント高くなっている。

表2-2 家庭学習における家の人との関わりと家庭学習に対する必要感との関連 (%)

設問12 \ 設問15	必要だと思う	どちらかといえば、必要だと思う	どちらかといえば、必要だと思わない	必要だと思わない
よくしてもらう	73.4	21.3	3.1	2.2
ときどきしてもらう	59.2	34.3	4.4	2.1
あまりしてもらわない	47.2	40.4	8.5	3.9
まったくしてもらわない	40.9	34.7	10.5	13.9

2-3 家庭学習における自主性

<設問 13>あなたは、学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強していますか。

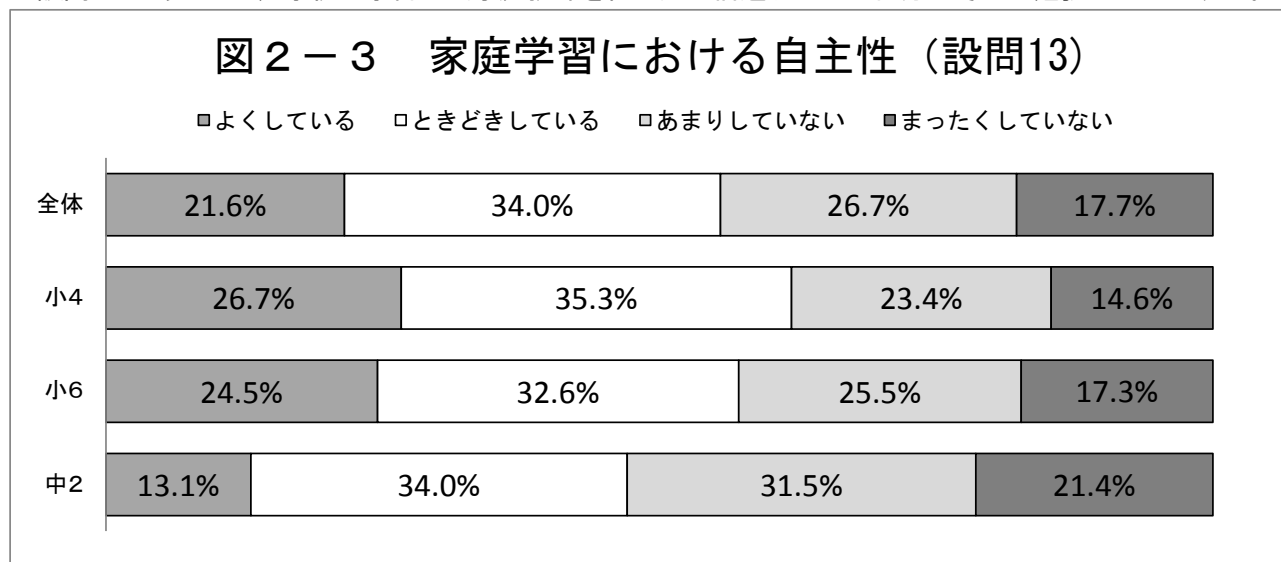


図 2-3 は、《設問 13》の集計結果である。全体では、家庭での学習において、自分で考えて勉強を「よくしている」または「ときどきしている」と回答した割合が 55.6% となっており、半数を超えている。一方、「まったくしない」と回答した割合は 17.7% となっている。

学年別では、「よくしている」と回答した割合は、小4で 26.7%、小6で 24.5%、中2で 13.1% となっており、学年が進むにつれて低くなっている。さらに、学年間の差に着目すると、小4から小6では 2.2 ポイント、小6から中2では 11.4 ポイント減少している。また、中2では、「あまりしていない」または「まったくしていない」と回答した割合が 52.9% であり、半数を超えている。

なお、《設問 13》は、第 17 次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 家庭学習における自主性と自己の可能性との関連

表 2-3 は、本設問と《自己の可能性：設問39》をクロス集計した結果である。

表 2-3 を見ると、家庭において自分で考えた勉強を「よくしている」と回答した子供のうち、学校の学習において、今は苦手なものでも、努力したら「できるようになると思う」と回答した割合は 69.2% であり、「どちらかといえば、できるようになると思う」と回答した割合を合わせると、93.0% となる。

一方、家庭において自分で考えた勉強を「まったくしていない」と回答した子供のうち、努力したら「できるようになると思う」と回答した割合は 37.0% で、「よくしている」と回答した割合である 69.2% と比べると、32.2 ポイント低くなっている。さらに、「まったくしていない」と回答した子供のうち、「どちらかといえば、できるようになると思わない」または「できるようになると思わない」と回答した割合を合わせると 27.6% となり、「よくしている」と回答した割合である 7.1% と比べると、20.5 ポイント高くなっている。

表 2-3 家庭学習における自主性と自己の可能性との関連 (%)

設問 13 \ 設問 39	できるよ うになる と思う	どちらか といえ ば、で きるよ うに なる と思 う	どちらか といえ ば、で きるよ うに なる と思 わ ない	できるよ うに なる と思 わ ない
	よくしている	69.2	23.8	4.4
ときどきして いる	55.6	35.9	6.4	2.1
あまりしてい ない	46.4	39.6	10.9	3.1
まったくして いない	37.0	35.4	16.3	11.3

2-4 家庭学習におけるインターネットの利用

<設問14>あなたは、家で勉強するとき、インターネットを使っていますか。

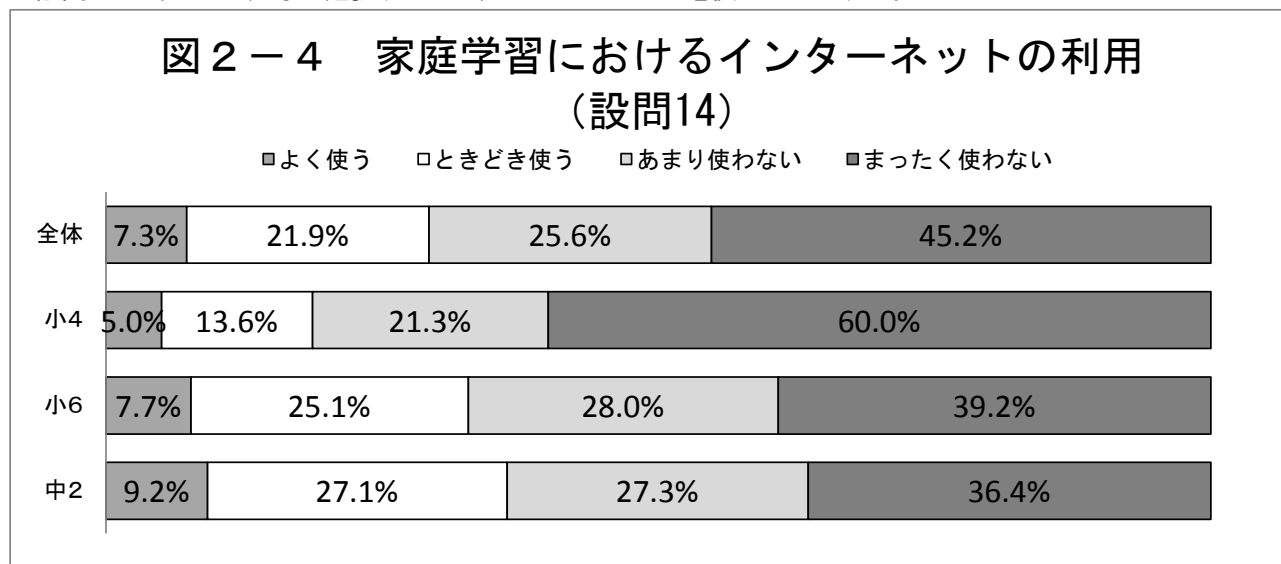


図2-4は、《設問14》の集計結果である。全体では、家で勉強するとき、インターネットを「まったく使わない」が45.2%で最も高い。一方、「よく使う」または「ときどき使う」という回答した割合は29.2%となっており、3割に満たなかった。

学年別では、「よく使う」または「ときどき使う」と回答した割合は、小4で18.6%、小6で32.8%、中2で36.3%となっており、学年が進むにつれて高くなっている。さらに、学年間の差に着目すると、小4から小6では14.2ポイント、小6から中2では3.5ポイント高くなっている。また、「まったく使わない」と回答した割合は小4で60.0%、小6で39.2%、中2で36.4%となっており、小4では6割なのに対し、小6と中2では4割を下回っている。

なお、《設問14》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 家庭学習におけるインターネットの利用と家庭学習における自主性との関連

表2-4は、本設問と《家庭学習における自主性：設問13》をクロス集計した結果である。

表2-4を見ると、家で勉強するとき、インターネットを「よく使う」と回答した子供のうち、学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強を「よくしている」または「ときどきしている」と回答した割合は59.6%で、「まったく使わない」と回答した割合である51.4%と比べると8.2ポイント高くなっている。

一方、家で勉強するとき、インターネットを「まったく使わない」と回答した子供のうち、学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強を「まったくしていない」と回答した割合は22.0%で、最も高くなっている。

なお、本項目間の関連性の強さは、その他の関連性の強さと比較して弱いものであった。

表2-4 家庭学習におけるインターネットの利用と家庭学習における自主性との関連 (%)

設問14 \ 設問13	よくしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない
よく使う	27.1	32.5	21.7	18.8
ときどき使う	22.5	35.7	28.0	13.9
あまり使わない	20.3	39.0	27.4	13.3
まったく使わない	20.9	30.5	26.6	22.0

第2章 家庭・地域社会における学習

2-5 家庭学習に対する必要感

<設問15>あなたは、家で勉強することは必要だと思いますか。

図2-5 家庭学習に対する必要感（設問15）

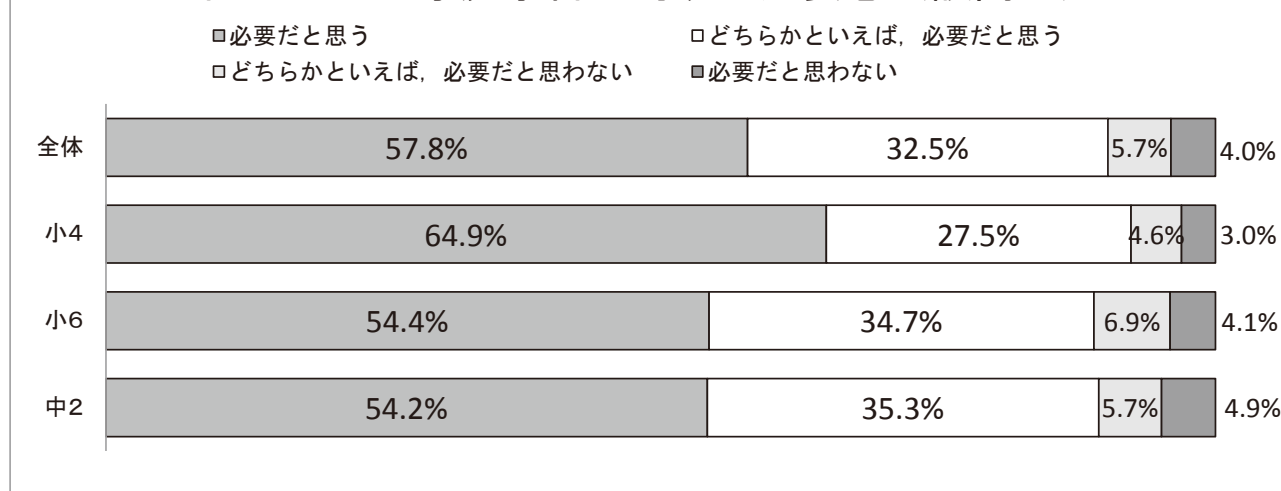


図2-5は、《設問15》の集計結果である。全体では、家で勉強することは「必要だと思う」と回答した割合が57.8%となっており、半数を超えている。また、「必要だと思う」または「どちらかといえば、必要だと思う」と回答した割合は90.3%になる。一方、「必要だと思わない」と回答した割合は4.0%となっている。

学年別では、「必要だと思う」と回答した割合は、小4で64.9%、小6で54.4%、中2で54.2%となっており、学年が進むにつれて低くなっている。さらに、学年間の差に着目すると、小4から小6では10.5ポイント、小6から中2では0.2ポイント低くなっている。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度と比較すると、全体では、「必要だと思う」と回答した割合が年々増えており、平成16年度と比べると、7.9ポイント増えている。

表2-2② これまでの調査で、家で勉強することは「必要だと思う」と回答した割合（%）
(H25は、これまでの選択肢を修正して実施)

	H16	H19	H22	H25
	49.9	51.8	55.0	57.8

○ 家庭学習に対する必要感と自己の可能性との関連

表2-5は、本設問と《自己の可能性:設問39》をクロス集計した結果である。

表2-5を見ると、家で勉強することは「必要だと思う」と回答した子供のうち、学校の学習の中で、今は苦手なものでも、努力したら「できるようになると思う」と回答した割合は66.6%であり、「どちらかといえば、できるようになると思う」を合わせると、93.6%になる。

一方、家で勉強することは「必要だと思わない」と回答した子供のうち、努力したら「できるようになると思う」と回答した割合は、25.1%であり、「必要だと思う」と回答した割合である66.6%と比べると、41.5ポイント低くなっている。さらに、「必要だと思わない」と回答した子供のうち、「できるようになると思わない」と回答した割合は32.2%で、「必要だと思う」と回答した割合である1.8%と比べると、30.4ポイント高くなっている。

表2-5 家庭学習に対する必要感と自己の可能性との関連（%）

設問15 \ 設問39	設問39		設問15	
	できるようになると思う	どちらかといえば、できるようになると思う	どちらかといえば、できるようになると思わない	できるようになると思わない
必要だと思う	66.6	27.0	4.7	1.8
どちらかといえば、必要だと思う	36.4	47.2	12.6	3.7
どちらかといえば、必要だと思わない	25.1	40.4	24.1	10.4
必要だと思わない	25.1	23.2	19.5	32.2

第2章 家庭・地域社会における学習

第2節 学習塾（家庭教師を含む）での学習

2-6 学習塾（家庭教師を含む）で学ぶ頻度

<設問 16>あなたは、週にどのくらい、学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか。

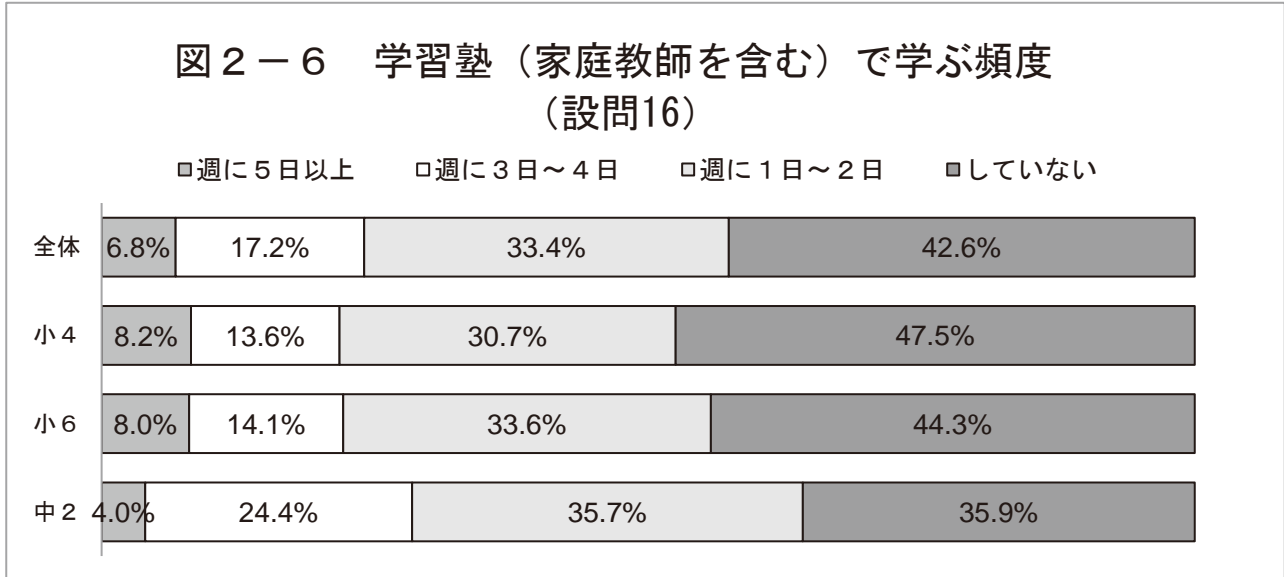


図2-6は、《設問 16》の集計結果である。全体では、日数を問わず、学習塾（家庭教師を含む）で勉強している子供の割合を合わせると57.4%となっており、半数を超えている。学年別では、小4で52.5%、小6で55.7%、中2で64.1%となっており、学習塾で勉強している子供は、学年が進むにつれて増えている。

学習塾で勉強している頻度では、「週に3日～4日」と回答した割合は、小4で13.6%、小6で14.1%に対し、中2で24.4%に増加している。また「週に5日以上」と回答した割合が、小4で8.2%、小6で8.0%であるのに対し、中2で4.0%と減少している。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、学習塾で勉強「していない」と回答した割合は、平成16年度から8.7ポイント、平成22年度からは10.5ポイント減少している（表2-③）。

表2-③ これまでの調査で「していない（通っていない）」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの設問と選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	51.3	52.7	53.1	42.6

○ 学習塾に通う頻度と平日における家庭学習の時間との関連

表2-6は、本設問と《平日における家庭学習の時間：設問11》をクロス集計した結果である。

表2-6を見ると、「週に5日以上」学習塾で勉強していると回答した子供は、平日における家庭学習の時間が「2時間以上」と回答した割合が41.4%と最も高い。また「週に3日～4日」学習塾で勉強している子供は、平日における家庭学習が「1時間以上～2時間より少ない」と回答した割合が34.2%と最も高い。そして「週に1日～2日」学習塾で勉強している子供は、家庭学習が「30分以上～1時間より少ない」と回答した割合が32.4%と最も高い。

一方、学習塾で「勉強していない」と回答した子供のうち、家庭学習を「ほとんどしない」と回答した割合が13.1%となっている。

表2-6 学習塾に通う頻度と平日における家庭学習の時間との関連（%）

設問11 \ 設問16	2時間以上	1時間以上～2時間より少ない	30分以上～1時間より少ない	30分以内	ほとんどしない
	週に5日以上	41.4	29.3	18.5	7.7
週に3日～4日	20.2	34.2	26.1	11.2	8.4
週に1日～2日	10.9	32.1	32.4	15.4	9.3
勉強していない	6.1	27.7	34.1	18.9	13.1

2-7 学習塾（家庭教師を含む）に対する必要感

<設問17>あなたは、学習塾（家庭教師を含む）で勉強することについてどう思いますか。

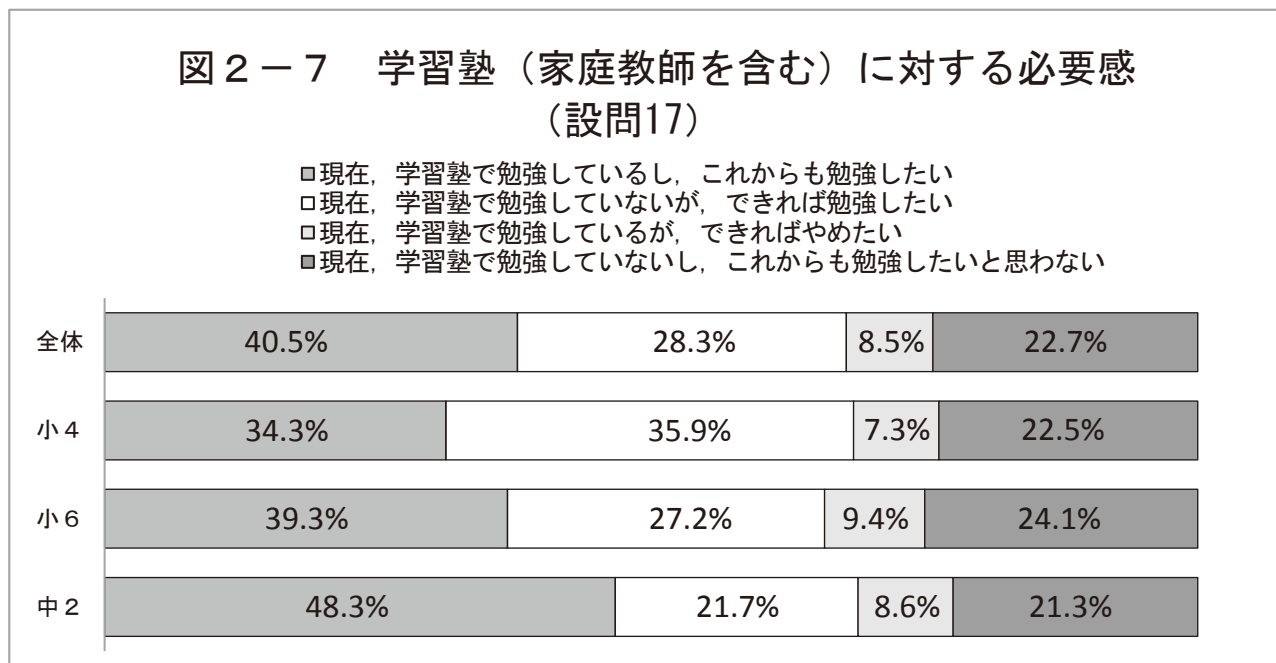


図2-7は、《設問17》の集計結果である。全体では、「現在、学習塾で勉強しているし、これからも勉強したい」または「現在、学習塾で勉強していないが、できれば勉強したい」と回答した割合を合わせると68.8%となっている。また、学年別では、「現在、学習塾で勉強しているし、これからも勉強したい」と回答した割合は学年が進むにつれて増加している。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、全体では「現在、学習塾で勉強しているし、これからも勉強したい」と回答した割合が、減少傾向から転じ、平成22年度から4.5ポイント増加している（表2-④）。

表2-④ これまでの調査で「現在、学習塾で勉強しているし、これからも勉強したい(これからも通いたい)」と回答した割合(%)
(H25は、これまでの設問と選択肢を修正して実施)

	H16	H19	H22	H25
	38.3	36.7	36.0	40.5

○ 学習塾に対する必要感と学校以外での全ての学習の有用性との関連

表2-7は、本設問と《学校以外での全ての学習の有用性：設問20》をクロス集計した結果である。

表2-7を見ると、学習塾で「これからも勉強したい」または「できれば勉強したい」と回答した子供のうち、学校以外での学習について「役に立つと思う」と回答した割合が、それぞれ72.3%、67.9%となっている。

一方、現在、学習塾で勉強しているが、学習塾での勉強を「できればやめたい」と回答した子供のうち、学校以外での全ての学習について「役に立つと思う」と回答した割合は46.4%で、学習塾で「これからも勉強したい」と回答した割合である72.3%と比べると、25.9ポイント低くなっている。

表2-7 学習塾に対する必要感と学校以外での全ての学習の有用性との関連(%)

設問17 \ 設問20	設問20			
	役に立つと思う	どちらかといえば役に立つと思う	どちらかといえば役に立つと思わない	役に立つと思わない
現在、学習塾で勉強しているし、これからも勉強したい	72.3	23.4	3.1	1.2
現在、学習塾で勉強していないが、できれば勉強したい	67.9	26.7	4.1	1.3
現在、学習塾で勉強しているが、できればやめたい	46.4	37.7	10.2	5.7
現在、学習塾で勉強していないし、これからも勉強したいと思わない	49.9	35.4	8.7	6.0

第2章 家庭・地域社会における学習

第3節 地域社会からの学習

2-8 地域の人から学ぶ機会

〈設問 18〉あなたは、地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶ機会がありますか。

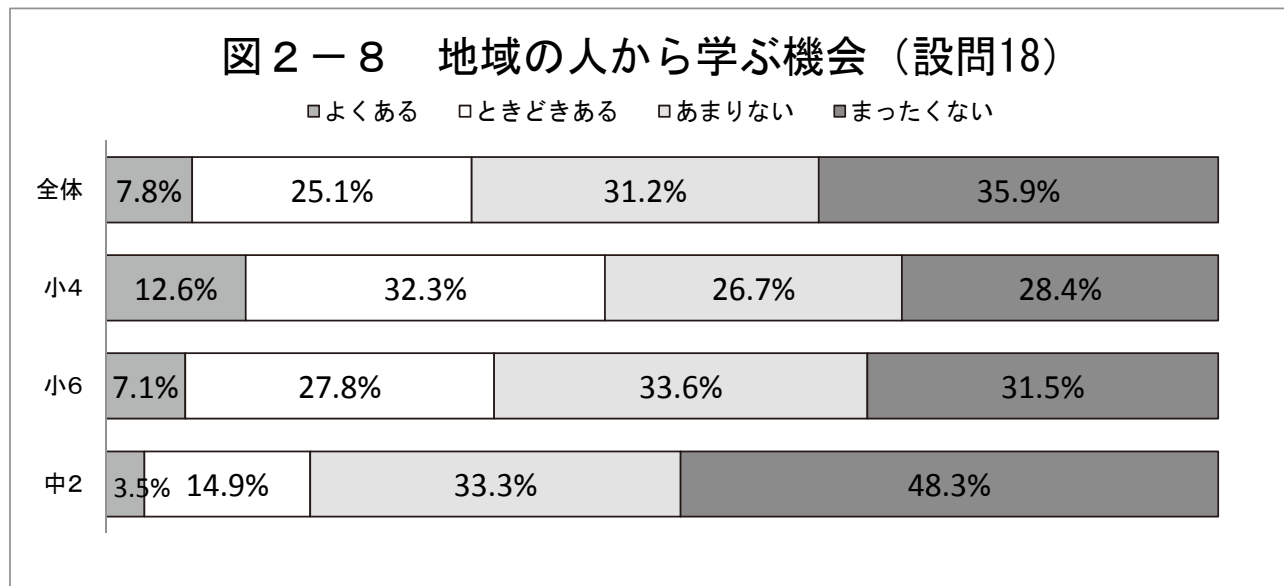


図2-8は、《設問 18》の集計結果である。全体では、地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶ機会が「よくある」または「ときどきある」という回答した割合を合わせると32.9%になる。

学年別では、「よくある」または「ときどきある」と回答した割合は、小4で44.9%、小6で34.9%、中2で18.4%と学年が進むにつれて低くなっている。学年間の差に着目すると、「まったくない」と回答した割合は、小6・中2は、小4より、それぞれ3.1ポイント、19.9ポイント高い。

なお、《設問 18》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 地域の人から学ぶ機会と地域の人から学ぶことの楽しさとの関連

表2-8は、本設問と《地域の人から学ぶことの楽しさ：設問19》をクロス集計した結果である。

表2-8を見ると、地域の人から学ぶ機会が「よくある」と回答した子供のうち、地域の人から学ぶことは「楽しい」と回答した割合は70.7%であり、「どちらかといえば、楽しい」と回答した割合の23.1%を合わせると93.8%となる。

また、地域の人から学ぶ機会が「まったくない」と回答した子供のうち、地域の人から学ぶことの楽しさについて「機会がないから、わからない」と回答した割合は88.3%となっている。

表 2-8 地域の人から学ぶ機会と地域の人から学ぶことの楽しさとの関連 (%)

設問 18 \ 設問 19	設問 19				
	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しいと思わない	機会がないから、わからない
よくある	70.7	23.1	2.8	1.7	1.7
ときどきある	40.3	47.3	8.1	2.0	2.3
あまりない	13.2	32.5	12.4	5.0	36.9
まったくない	1.6	2.5	1.9	5.7	88.3

2-9 地域の人から学ぶことの楽しさ

<設問19>あなたは、地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶことが楽しいですか。

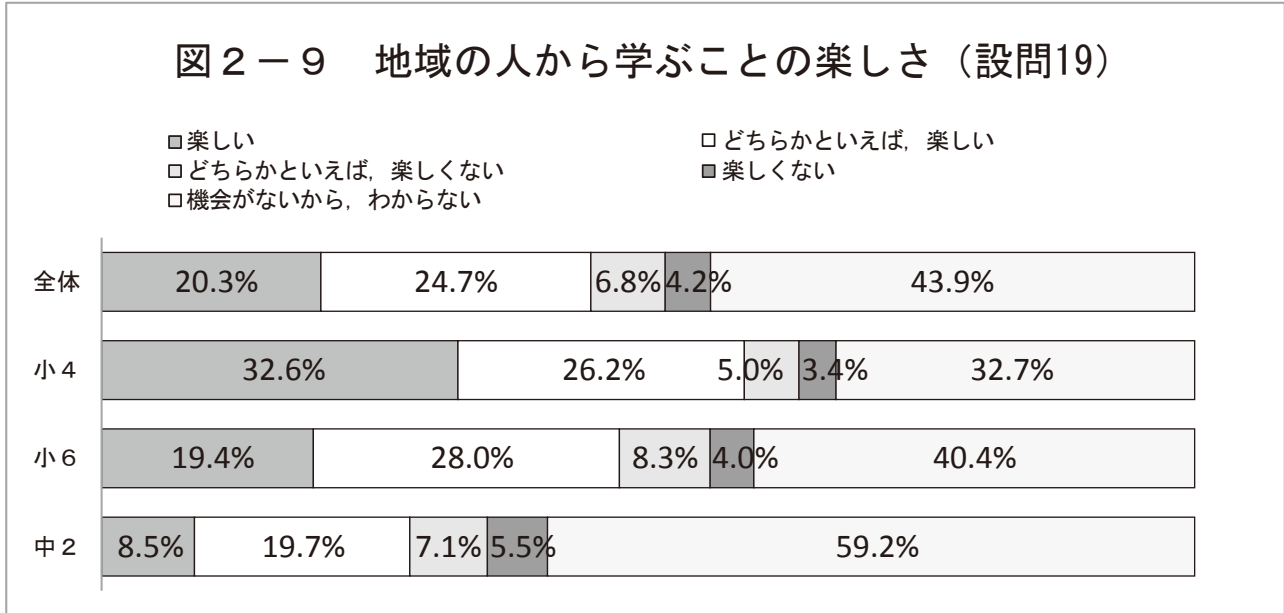


図2-9は、《設問19》の集計結果である。全体では、地域の人から学ぶことが「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答した割合は45.0%となる。一方、「どちらかといえば、楽しくない」または「楽しくない」と回答した割合は11.0%となる。「機会がないから、わからない」と回答した割合は、43.9%となっている。

学年別では、地域の人から学ぶことが「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答した割合は、小4は58.8%、小6は47.4%、中2は28.2%と学年が進むにつれて低くなっている。一方、「どちらかといえば、楽しくない」または「楽しくない」と回答した割合は、小4は8.4%、小6は12.3%、中2は12.6%で、どの学年においても全体に占める割合は1割程度である。

「機会がないから、わからない」という回答の割合は、小4から小6では7.7ポイント、小6から中2では18.8ポイント増加している。

なお、《設問19》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 地域の人から学ぶことの楽しさと自己有用感との関連

表2-9は、本設問と《自己有用感：設問29》をクロス集計した結果である。

表2-9を見ると、地域の人から学ぶことが「楽しい」と回答した子供のうち、学校生活の中で、誰かの役に立ったと思うときに「よくある」と回答した割合は、29.9%であり、「ときどきある」と回答した割合の53.4%を合わせると83.3%となる。また、「楽しいと思わない」と回答した割合である49.0%と比べると、34.3ポイント高くなっている。

一方、地域の人から学ぶことが「楽しい」と回答した子供のうち、誰かの役に立ったことが「まったくない」は3.1%で、地域の人から学ぶことが「楽しいと思わない」と回答した子供のうち、誰かの役に立ったことが「まったくない」と回答した割合である20.2%と比べると17.1ポイント低くなっている。

表2-9 地域の人から学ぶことの楽しさと自己有用感との関連（%）

	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
設問29 \ 設問19				
楽しい	29.9	53.4	13.6	3.1
どちらかといえば、楽しい	13.5	59.3	23.9	3.3
どちらかといえば、楽しくない	10.0	51.4	31.9	6.8
楽しいと思わない	12.0	37.0	30.8	20.2
機会がないから、わからない	11.4	48.9	31.5	8.2

第2章 家庭・地域社会における学習

第4節 学校以外での全ての学習

2-10 学校以外での全ての学習の有用性

〈設問 20〉あなたは、学校以外での勉強や習いごとなどが、社会に出たとき、役に立つと思いますか。

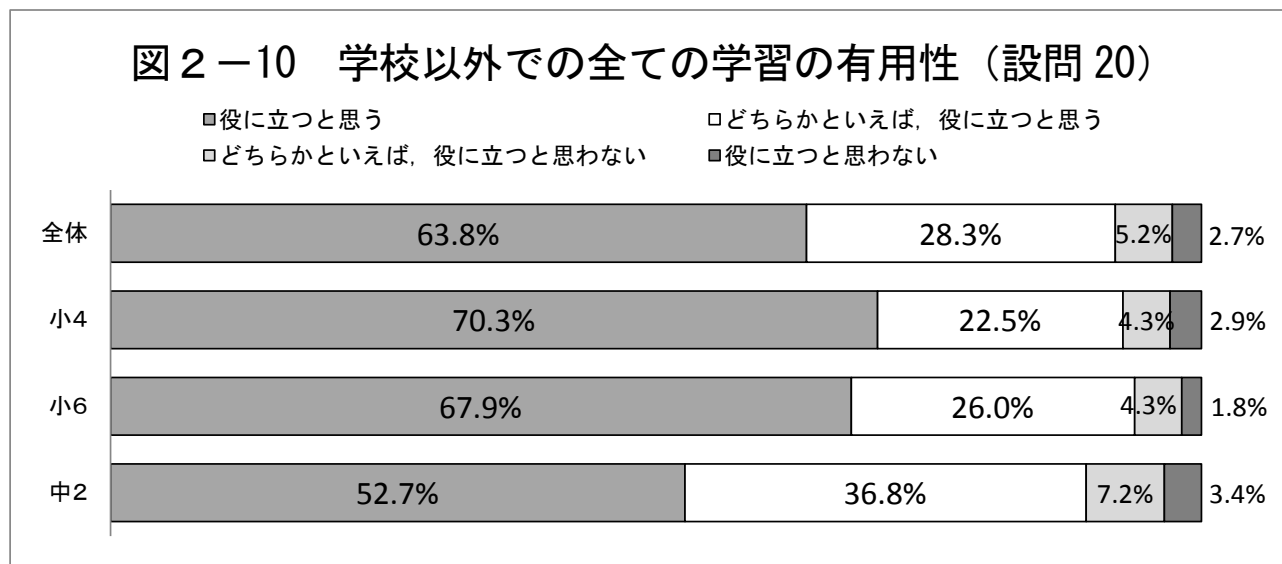


図 2-10 は、《設問 20》の集計結果である。全体では、学校以外での学習が「役に立つと思う」と回答した割合が 63.8%と最も高い。「役に立つと思う」または「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した割合を合わせると、全体の 92.1%になる。

学年別では、学校以外での学習が「役に立つと思う」と回答した割合は、学年が進むにつれて低くなり、中 2 では 52.7%である。また、「どちらかといえば、役に立つと思わない」または「役に立つと思わない」と回答した割合を合わせると、中 2 は 10.6%であり、小 4 の 7.2%、小 6 の 6.1% と比べ高くなっている。

一概には言えないが、平成 16 年度、平成 19 年度、平成 22 年度の調査と比較すると、全体では、「役に立つと思う」と回答した割合が増えている（表 2-⑤）。

表 2-⑤ これまでの調査で、社会に出たときに「役に立つと思う」と回答した割合（%）
（H25 は、選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	53.6	55.1	59.0	64.0

○ 学校以外での全ての学習の有用性とわかった経験との関連

表 2-10 は、本設問と《わかった経験：設問 36》をクロス集計した結果である。

表 2-10 を見ると、学校以外での全ての学習が「役に立つ」と回答した子供のうち、授業中に、「わかった」「できた」と思うことが「よくある」と回答した割合は 59.2%であり、「ときどきある」と回答した割合を合わせると、93.9%となる。

一方、学校以外での全ての学習が「役に立つと思わない」と回答した子供のうち、授業中に、「わかった」「できた」と思うことが「よくある」と回答した割合は 27.6%で、「役に立つと思う」と回答した割合である 59.2%と比べると 31.6ポイント低くなっている。さらに、「まったくない」と回答した割合は 16.6%で、「役に立つと思う」と回答した割合である 1.1%と比べると 15.5ポイント高くなっている。

表 2-10 学校以外での全ての学習の有用性とわかった経験との関連（%）

設問 20 \ 設問 36	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
	役に立つと思う	59.2	34.7	5.0
どちらかといえば、役に立つと思う	34.9	52.8	10.4	2.0
どちらかといえば、役に立つと思わない	27.0	48.9	19.6	4.5
役に立つと思わない	27.6	36.3	19.5	16.6

家庭・地域社会における学習 考察とまとめ

1 学校は、子供が自主的に学んでいく力をつけるために、家庭学習の習慣化を図り、内容が充実するよう、具体的な方法や内容を示しましょう

平日における家庭学習の時間について全体の傾向をみると、「ほとんどしない」と回答した割合は1割程度となっている。過去の調査における経年変化をみると減少しており、家庭学習については定着してきたことがうかがえる。しかし、学年別にみると、中2では2割を超える子供が家庭学習にほとんど取り組んでいない（p. 19 図2-1, p. 19 表2-①）。

一方、家庭学習に対する必要感について全体の傾向をみると、「必要だと思う」と回答した割合は6割程度となっている。経年変化をみると増加しており、家庭での学習の必要感が高まっていることがうかがえる（p. 23 図2-5, p. 23 表2-②）。家庭学習におけるインターネットの利用について全体の傾向をみると、「よく」または「ときどき」使うと回答した割合は3割程度であり、学年が進むにつれて利用頻度は高くなっている（p. 22 図2-4）。

これらのことから、学ぶことに興味関心をもち、自ら進んで学習に取り組むことができるよう、家庭学習の習慣づけを図り、取り組む内容の質を高めていくことが大切である。家庭学習の時間が長い子供は、授業が楽しいと感じる傾向がある（表2-a）。そこで、学校は、宿題の出し方を工夫したり、子供の家庭学習の様子や努力を把握して助言・称賛したりするなど、家庭学習の習慣化を目指し、主体的に取り組めるよう、学校体制での支援を継続して行っていきたい。

また、家庭学習でインターネットを「よく使う」と回答した子供のうち約6割が自主的に勉強していると回答していることから、今後も、家庭学習におけるインターネットの重要性が増していくことが予想される。ゆえに、家庭と協力して、情報活用能力の育成を図っていきたい（p. 22表2-4）。

表2-a 平日における家庭学習の時間と授業に対する満足度との関連（%）

設問 32 設問 11	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない
2時間以上	45.7	35.2	11.9	7.2
1時間以上～2時間より少ない	37.7	43.4	14.1	4.8
30分以上～1時間より少ない	31.0	46.3	16.7	6.1
30分以内	23.2	42.1	23.6	11.1
ほとんどしない	11.5	30.6	29.9	28.0

2 家庭では、子供が自己の可能性を広げるために、主体的に学ぶ力を身につけることができるよう、学習に関する励ましや助言を積極的に行いましょう

家庭学習における家の人との関わりについて全体の傾向をみると、「よく」または「ときどき」アドバイスをしてもらうと回答した割合は3分の2程度であり、学年が進むにつれて、家の人との関わりは減少している（p. 20 図2-2）。さらに、家庭学習において家の人がよく関わっている子供ほど、家での勉強が必要だと感じる傾向がある（p. 20 表2-2）。

一方、家庭学習における自主性について全体の傾向をみると、「よく」または「ときどき」自分で考えて勉強していると回答した割合は半数を超えている。ただし、学年が進むにつれて、家で自主的に勉強に取り組む割合は減少している（p. 21 図2-3）。また、自主的に家庭学習に取り組む子供は、努力次第で苦手なものでもできるようになると考える傾向がある（p. 21 表2-3）。

これらのことから、子供自身が自立して学習を進めることができるよう、働きかけることが大切である。このことが、苦手なことや解決が困難な問題に対して粘り強く努力して取り組み、自分自身の可能性を広げることにつながるからである。そこで、家庭では、子供の日々の学習状況を把握し、発達段階に応じた励ましや助言を行うほか、卒業後の進路や将来の展望に関して、粘り強く努力していくための目標を共有するなど子供と関わっていく必要がある。

3 学校は、各教科等の授業や学校行事などにおいて、子供が学習の必要性に気づくために、学ぶことの楽しさを味わうことができるよう、地域の人から学ぶ機会をつくりましょう

地域の人から学ぶ機会について全体の傾向をみると、「あまりない」または「まったくない」と回答した割合は3分の2程度となっている（p.26 図2-8）。このことが、地域の人から学ぶ楽しさについて、「機会がないから、わからない」と回答した割合に反映していると考えられる（p.27 図2-9）。

一方、地域の人から学ぶ機会が多い子供は、それらの人から学ぶことが楽しいと感じる傾向がみられる（p.26 表2-8）。さらに、地域の人から学ぶことが楽しいと感じる子供は、学校以外での全ての学習が、将来社会に出たときに役に立つと考えている傾向がある（表2-b）。

これらのことから、多くの人との関わり合いを通じて、学ぶことの楽しさや学習の必要性に気づくことができるよう、地域の人から学ぶ機会を増やすことが大切である。そこで、学校は、各教科等の授業や学校行事などにおいて、地域の人から話を聞いたり、高校生や大学生などの先輩と一緒に活動したりするなど、人と関わることができる多様な機会を工夫して設定していきたい。

4 学校・家庭・地域社会は、子供が学びの有用性を実感するために、学習と、生活や社会とを結びつけることができるよう、連携して多様な学びの場を提供しましょう

学習塾に通う頻度について全体の傾向をみると、学習塾に通ったり家庭教師に教えてもらったりして勉強している子供が6割程度いる（p.24 図2-6）。また、学習塾に通う頻度が高い子供ほど、平日に家で勉強する時間が長い傾向がみられる（p.24 表2-6）。学習塾に対する必要性について全体の傾向をみると、「現在、学習塾で勉強しているし、これからも」または「現在、学習塾で勉強していないが、できれば」勉強したいと回答した割合は7割程度いる（p.25 図2-7）。また、勉強したいと考えている子供の方が、学校の授業の理解度は高い（p.25 表2-7）。

さらに、学校以外での全ての学習について全体の傾向をみると、社会に出たとき「役に立つと思う」と回答した割合は6割を超え、経年変化をみても増加している（p.28 表2-⑤）。また、学校以外でのすべての学習が社会に出たときに役立つと考えている子供は、今、学校で学習していることが、今後の生活に役立つと考える傾向がある（表2-c）。

これらのことから、学校・家庭・地域社会は、教育課程外の時間において、補充あるいは発展的な学習に子供が選択して取り組めるような、ニーズに対応した多様な学びの場を協力して提供していくことも考えられる。そうすることが、家庭での学習時間を増やし、学習の定着を促し、「社会を生き抜く力」の育成につながると考えるからである。現在学んでいることが、ほかの学習や生活、自分の将来やよりよい社会形成に役立つという「学ぶことの意味」を実感できるよう、学校・家庭・地域社会は連携して、多様な学びの場を提供していきたい。

表2-b 地域の人から学ぶことの楽しさと学校以外での全ての学習との関連 (%)

設問19 \ 設問20	(学校以外での学習が)役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思わない	役に立つと思わない
楽しい	80.2	16.1	2.5	1.2
どちらかといえば、楽しい	66.0	28.9	4.2	0.9
どちらかといえば、楽しくない	51.4	37.4	8.2	2.9
楽しくない	46.8	30.9	11.8	10.5
機会がないから、わからない	58.5	31.9	6.0	3.6

表2-c 学校以外での全ての学習の有用性と学校の学習の有用性との関連 (%)

設問20 \ 設問40	(学校の学習が)役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思わない	役に立つと思わない
(学校以外での学習が)役に立つと思う	78.6	17.2	2.8	1.5
どちらかといえば、役に立つと思う	38.0	50.0	9.4	2.6
どちらかといえば、役に立つと思わない	20.5	36.0	32.7	10.9
役に立つと思わない	22.9	19.7	18.7	38.7

第3章 学校における生活

本章では、「学校生活の楽しさ」「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」「学校における自己肯定感」の4点から、子供の意識と学校生活の実態を探っていきます。

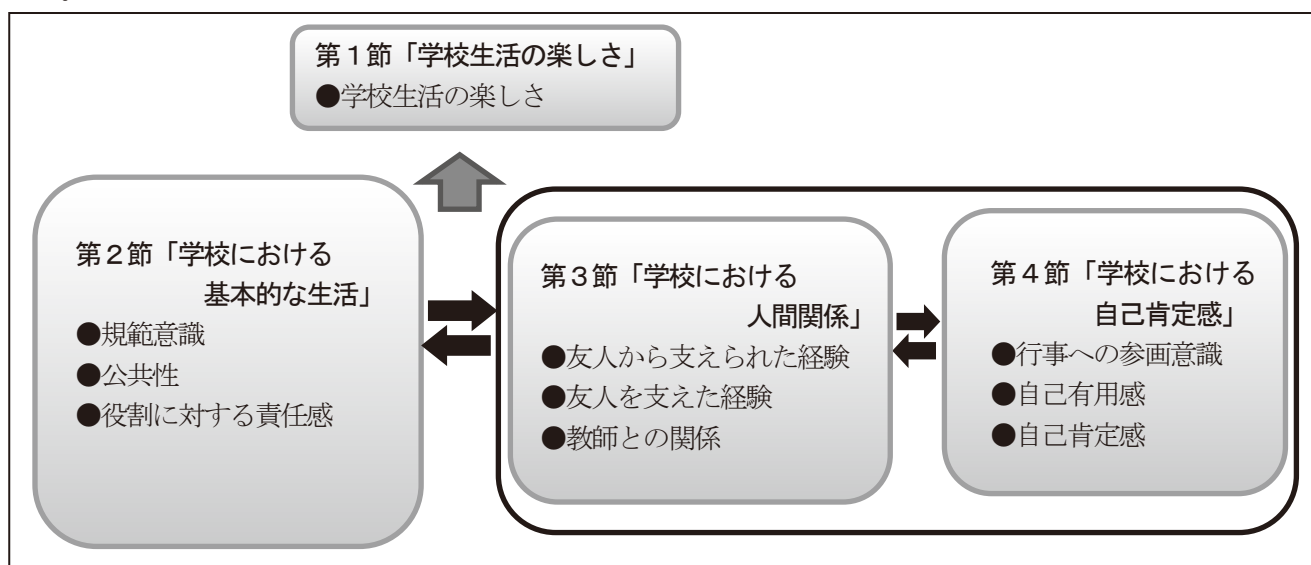
そして、子供が学校生活を楽しく過ごすために、学校や教師はどのようなことに留意すればよいかについて提言します。

教育基本法第6条第2項では、「学校教育の基本的な役割や規律を重んずること、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めること」が重要であると規定された。このことを踏まえ、平成20年3月に告示された学習指導要領においても、学校は、生きる力を育むことを目指し、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心と健やかな体を育成することが改めて明示された。これらのことから、各学校では一人一人の学ぶ意欲や学力を向上させ、基本的な生活習慣や社会生活を送る上で必要な規範意識を身に付けさせるとともに、生命の尊重、思いやりの心などを育む必要性が指摘されている。

第16次の調査結果では、「学校における基本的な生活」「学校における自己肯定感」に改善が見られた。また、友人の存在と「学校生活の楽しさ」との関連が明らかになった。これらのことを受け、第17次の研究では、引き続き子供をとりまく学校生活の実態に目を向け、学校生活における子供の姿や思いを探る。さらに、「規範意識」「友人を支えた経験」に関する姿や思いを探ることを通して、「学校生活の楽しさ」と「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」との関連を明らかにすることが必要であると考えた。

そこで、本章では「学校生活の楽しさ」「学校における基本的な生活」「学校における人間関係」「学校における自己肯定感」の四つの切り口を設定した。まず、「学校生活の楽しさ」では、一日の大半を過ごす学校生活を、子供が楽しいととらえているのかについて探る。次に、「学校における基本的な生活」では、学校でのきまりをどのくらい守るのか、公共物をどう取り扱うのか、学級の当番やそうじなどの活動へどう取り組むかを探る。そして、「学校における人間関係」では、友人から支えられた経験や友人を支えた経験がどれくらいあるか、担任の先生とどれくらい会話をしているかを探る。最後に、「学校における自己肯定感」では、行事へどれくらい参画しているか、誰かの役に立ったと思うか、まわりから大切にされているかを探る。

分析に当たっては、学校生活における子供の姿や思いをとらえ、時代の変化に伴う子供の学校生活の実態や意識の変化を明らかにする。そして、子供が学校生活を楽しく過ごすための学校や教師の関わり方について提言したい。



「学校における生活」の調査構造

第3章 学校における生活

第1節 学校生活の楽しさ

3-1 学校生活の楽しさ

〈設問21〉あなたは、学校生活が楽しいですか。

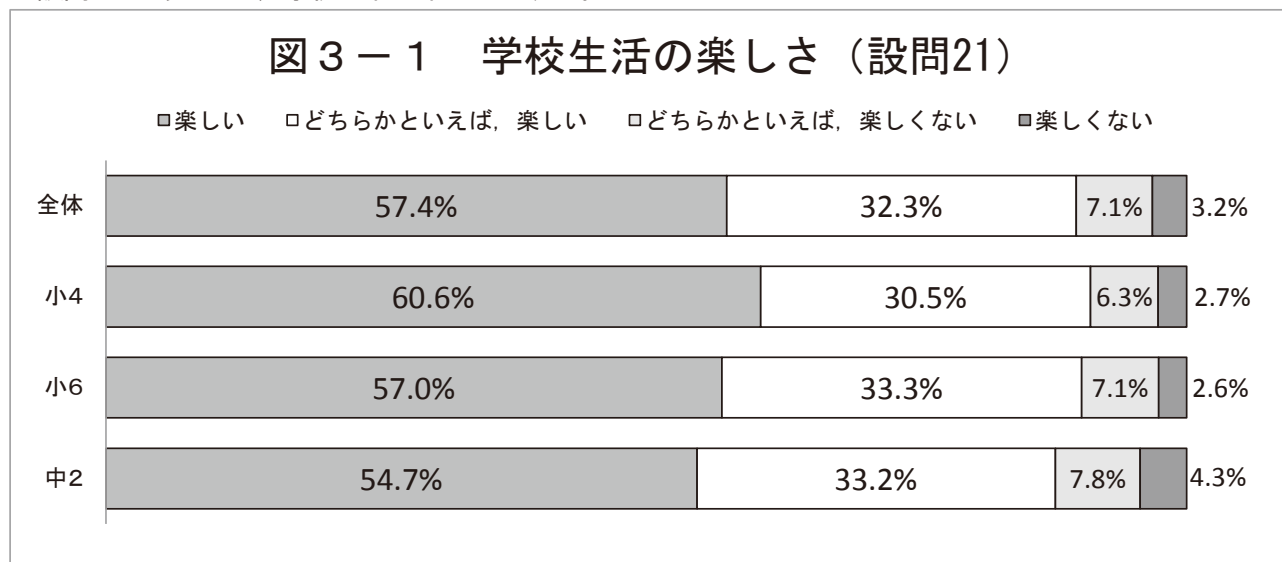


図3-1は、《設問21》の集計結果である。全体では、学校生活が「楽しい」と回答した割合は、57.4%で最も高い。また、「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答した割合を合わせると89.7%になっている。

学年別では、「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答した割合を合わせると小4で91.1%、小6で90.3%、中2で87.9%となっており、学年が進むにつれて減少している。

平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、全体では「楽しい」と回答した割合が増加傾向にある（表3-①）。

表3-① これまでの調査で「楽しい」と回答した割合（%）

	H16	H19	H22	H25
	49.6	51.0	53.8	57.4

○ 学校生活の楽しさと友人から支えられた経験との関連

表3-1は、本設問と《友人から支えられた経験：設問25》をクロス集計した結果である。

表3-1を見ると、学校生活が「楽しい」と回答した子供のうち43.3%が友人から支えられた経験が「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した43.5%を合わせると、学校生活が「楽しい」子供の86.8%が、「よくある」または「ときどきある」と回答している。

一方、学校生活が「楽しくない」と回答した子供の61.1%が、「あまりない」または「まったくない」と回答している。

表3-1 学校生活の楽しさと友人から支えられた経験との関連（%）

設問21 \ 設問25	設問25			
	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
楽しい	43.3	43.5	10.8	2.5
どちらかといえば、楽しい	19.6	52.6	22.4	5.5
どちらかといえば、楽しくない	15.5	36.4	32.8	15.2
楽しくない	13.3	25.7	26.6	34.5

第3章 学校における生活

第2節 学校における基本的な生活

3-2 規範意識

<設問 22>あなたは、学校でのきまりを守っていますか。

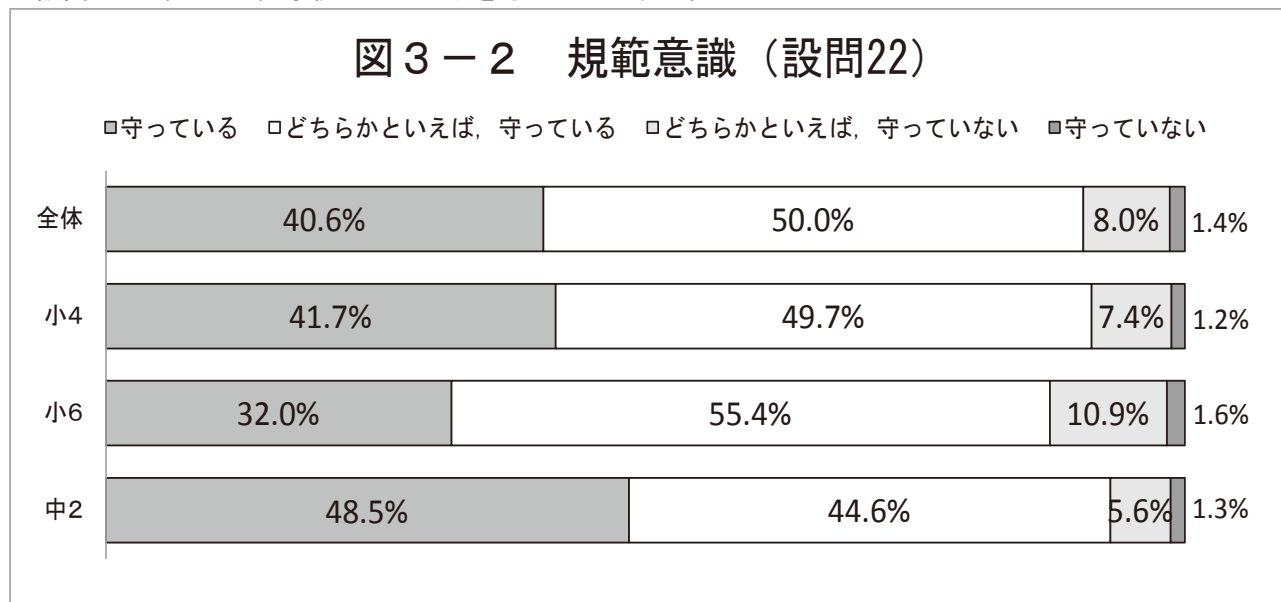


図 3-2 は、《設問 22》の集計結果である。全体では、学校でのきまりを「どちらかといえば、守っている」と回答した割合が、50.0%で最も高い。また、「守っている」または「どちらかといえば、守っている」と回答した割合を合わせると 90.6%になっている。

学年別では、「守っている」または「どちらかといえば、守っている」と回答した割合を合わせると、小4で91.4%、小6で87.4%、中2で93.1%となっており、中2が最も高く、小6が最も低い。

一方、学校でのきまりを「どちらかといえば、守っていない」または「守っていない」と回答した割合は、全体で9.4%である。学年別では、小4で8.6%、小6で12.5%、中2で6.9%となっており、中2が最も低く、小6が最も高い。

なお、《設問 22》は、第 17 次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 規範意識と学習への取組の現状との関連

表 3-2 は、本設問と《学習への取組の現状：設問 38》をクロス集計した結果である。

表 3-2 を見ると、学校でのきまりを「守っている」と回答した子供のうち43.2%が、学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答している。「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答した45.6%を合わせると、学校でのきまりを「守っている」子供の88.8%が、「進んで取り組んでいると思う」または「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答している。

一方、学校でのきまりを「守っていない」と回答した子供の71.5%が、「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない」または「進んで取り組んでいると思わない」と回答している。

表 3-2 規範意識と学習への取組の現状との関連 (%)

設問22 \ 設問38	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいると思わない
守っている	43.2	45.6	9.1	2.1
どちらかといえば、守っている	19.5	58.4	18.2	3.9
どちらかといえば、守っていない	10.3	38.1	36.9	14.7
守っていない	10.1	18.5	22.8	48.7

3-3 公共性

<設問 23>あなたは、そうじ道具など、みんなが使うものを大切にみつめていますか。

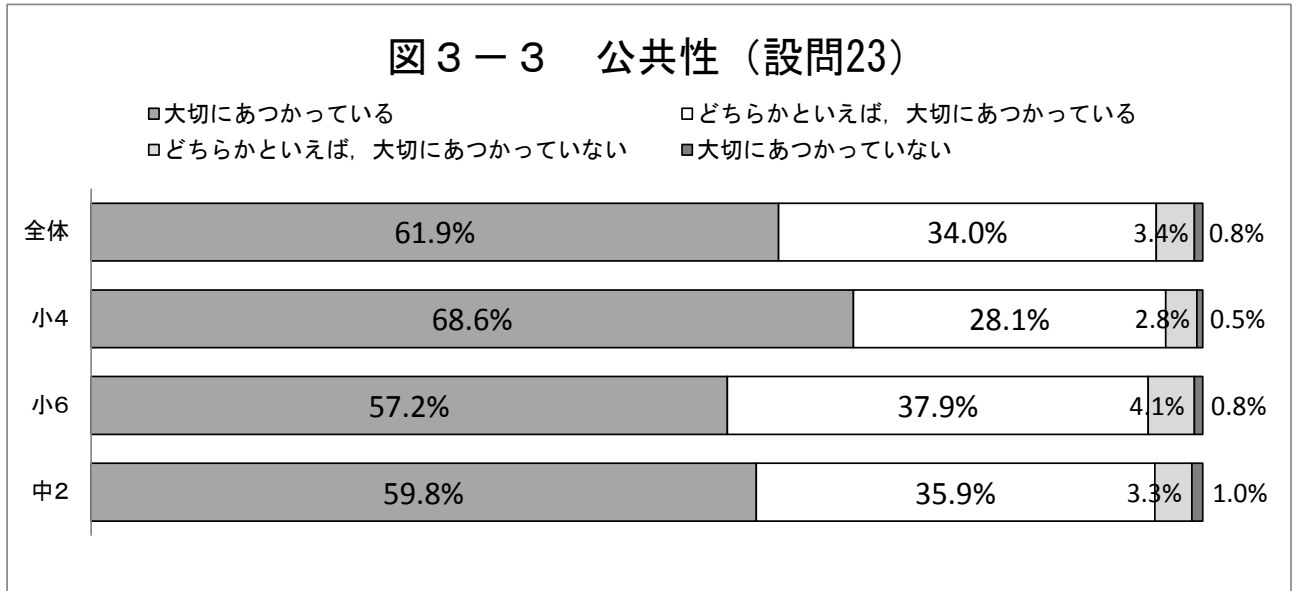


図3-3は、《設問 23》の集計結果である。全体では、そうじ道具など、みんなが使うものを「大切にみつめている」と回答した割合は 61.9%と最も高い。また、「大切にみつめている」または「どちらかといえば、大切にみつめている」と回答した割合を合わせると 95.9%になっている。

学年別では「大切にみつめている」または「どちらかといえば、大切にみつめている」と回答した割合を合わせると、小4で96.7%、小6で95.1%、中2が95.7%と、小4が最も高く、小6が最も低い。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、全体では、「大切にみつめている」と回答した割合が増加傾向にある。平成22年度と比較すると、14.4ポイント増加している（表3-②）。

表3-② これまでの調査で「大切にみつめている」と回答した割合 (%)
(H25は、これまでの設問を修正して実施)

	H16	H19	H22	H25
	39.0	41.5	47.5	61.9

○ 公共性と役割に対する責任感との関連

表3-3は、本設問と《役割に対する責任感：設問24》をクロス集計した結果である。

表3-3を見ると、そうじ道具など、みんなが使うものを「大切にみつめている」と回答した子供のうち、学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」または「どちらかといえば、責任をもって取り組んでいる」と回答した割合を合わせると、97.3%になっている。

一方、そうじ道具など、みんなが使うものを「大切にみつめていない」と回答した子供のうち、学級の当番やそうじなどの活動に「どちらかといえば、責任をもって取り組んでいない」または「責任をもって取り組んでいない」と回答した割合の子供を合わせると79.0%となっている。

表3-3 公共性と役割に対する責任感との関連 (%)

設問23 \ 設問24	設問24			
	責任をもって取り組んでいる	どちらかといえば、責任をもって取り組んでいる	どちらかといえば、責任をもって取り組んでいない	責任をもって取り組んでいない
大切にみつめている	61.9	35.4	2.2	0.4
どちらかといえば、大切にみつめている	23.4	63.5	11.8	1.3
どちらかといえば、大切にみつめていない	9.8	41.2	37.3	11.8
大切にみつめていない	8.9	12.1	21.9	57.1

3-4 役割に対する責任感

<設問24>あなたは、学級の当番やそうじなどの活動に責任をもって取り組んでいますか。

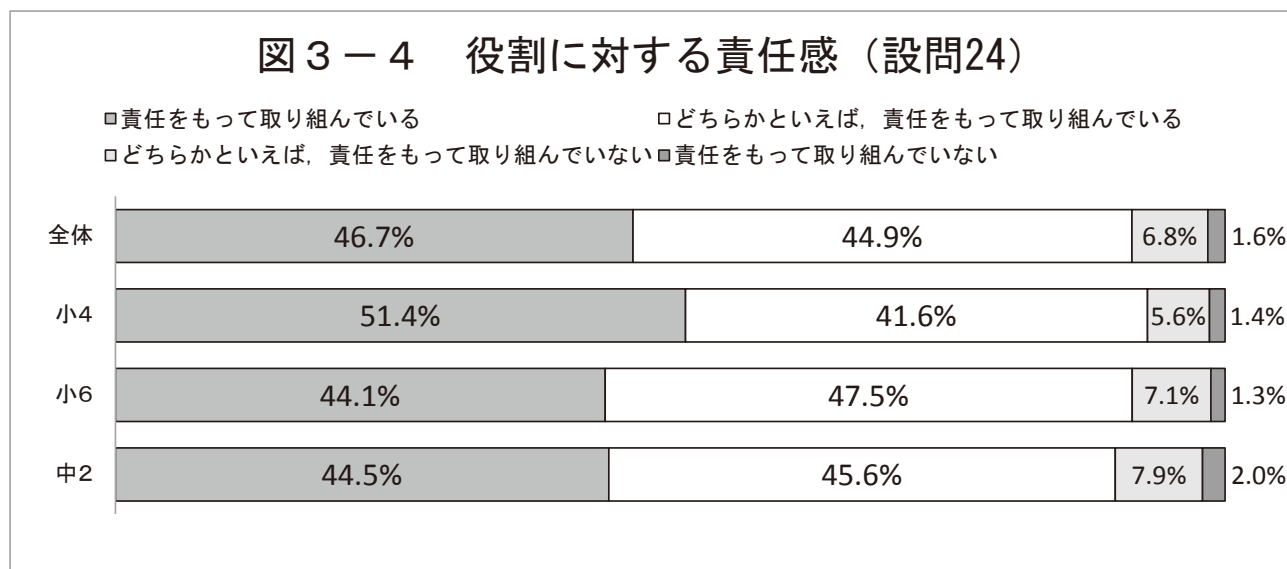


図3-4は、《設問24》の集計結果である。全体では、学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」と回答した割合は46.7%で最も高い。また、「責任をもって取り組んでいる」または「どちらかといえば、責任をもって取り組んでいる」と回答した割合を合わせると91.6%になっている。

学年別では、「責任をもって取り組んでいる」または「どちらかといえば、責任をもって取り組んでいる」と回答した割合を合わせると小4で93.0%、小6で91.6%、中2で90.1%と学年が進むにつれて減少の傾向にある。

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、全体では「責任をもって取り組んでいると思う」と回答した割合は、増加傾向にある。平成22年度と比較すると、8.8ポイント増加している(表3-③)。

表3-③ これまでの調査で「責任をもって取り組んでいる(しっかり取り組んでいると思う)」と回答した割合(%)
(H25は、これまでの設問と選択肢を修正して実施)

	H16	H19	H22	H25
	33.0	34.4	37.9	46.7

○ 役割に対する責任感と自己有用感との関連

表3-4は、本設問と《自己有用感：設問29》をクロス集計した結果である。

表3-4を見ると、学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」と回答した子供のうちの24.3%が、学校生活の中で誰かの役に立ったと思うときに「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した55.4%を合わせると、学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」子供の79.7%が、学校生活の中で誰かの役に立ったと思うときに「よくある」または「ときどきある」と回答している。

一方、学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいない」と回答した子供の67.7%が、学校生活の中で誰かの役に立ったと思うときに「あまりない」または「まったくない」と回答している。

表3-4 役割に対する責任感と自己有用感との関連(%)

設問29 \ 設問24	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
責任をもって取り組んでいる	24.3	55.4	17.1	3.2
どちらかといえば責任をもって取り組んでいる	8.4	52.6	32.7	6.3
どちらかといえば責任をもって取り組んでいない	4.8	32.4	43.2	19.5
責任をもって取り組んでいない	9.1	23.2	21.6	46.1

第3章 学校における生活

第3節 学校における人間関係

3-5 友人から支えられた経験

〈設問 25〉あなたは、学校生活の中で、友だちから励まされたり、勇気づけられたりすることがありますか。

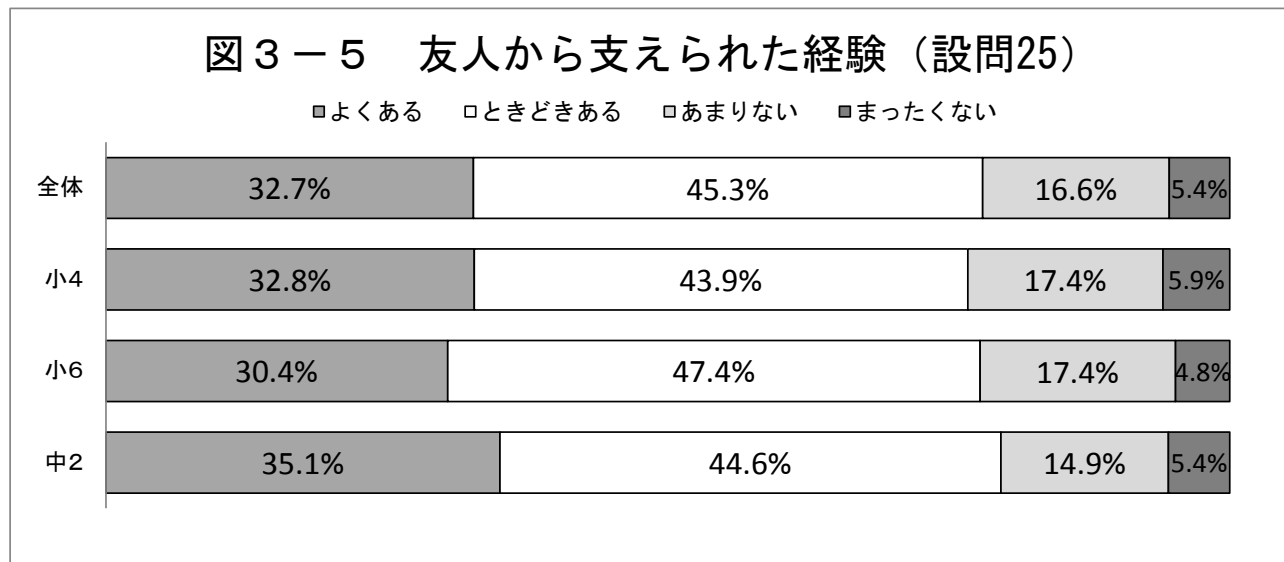


図3-5は、《設問 25》の集計結果である。全体では、学校生活の中で、友だちから励まされたり、勇気づけられたりすることが「ときどきある」と回答した割合は45.3%で最も高い。

学年別では、「ときどきある」と回答した割合は小4で43.9%、小6で47.4%、中2で44.6%となっている。「まったくない」と回答した割合は小4で5.9%、小6で4.8%、中2で5.4%となっている。「あまりない」または「まったくない」と回答した割合を合わせると、小4で23.3%、小6で22.2%、中2で20.3%となっている。

表3-④ これまでの調査で「ときどきある（少しはある）」と回答した割合（%）
（H25は、設問と選択肢を修正して実施）

	H19	H22	H25
	43.4	44.0	45.3

一概には言えないが、平成19年度、平成22年度と比較すると、全体では「ときどきある」と回答した割合は、平成19年度で43.4%、平成22年度で44.0%、平成25年度で45.3%と、増加している（表3-④）。

○ 友人から支えられた経験と自己肯定感との関連

表3-5は、本設問と《自己肯定感：設問30》をクロス集計した結果である。

表3-5を見ると、学校生活の中で、友だちから励まされたり、勇気づけられたりすることが「よくある」と回答した子供のうち37.4%は、「大切にされていると思う」と回答している。「どちらかといえば、大切にされていると思う」と回答した49.5%を合わせると、「よくある」子供の86.9%が、「大切にされていると思う」または「どちらかといえば、大切にされていると思う」と回答している。

一方、「まったくない」と回答した子供の41.8%が、「大切にされていないと思う」と回答している。「どちらかといえば、大切にされていない」と回答した27.9%を合わせると、「まったくない」子供の69.7%が、「大切にされていないと思う」または「どちらかといえば、大切にされていない」と回答している。

表3-5 友人から支えられた経験と自己肯定感との関連（%）

設問25 \ 設問30	大切にされていると思う	どちらかといえば、大切にされていると思う	どちらかといえば、大切にされていないと思う	大切にされていないと思う
よくある	37.4	49.5	9.8	3.4
ときどきある	16.3	61.5	18.2	4.0
あまりない	8.9	45.4	34.3	11.4
まったくない	7.8	22.5	27.9	41.8

第3章 学校における生活

3-6 友人を支えた経験

〈設問26〉あなたは、学校生活の中で、友だちを励ましたり、勇気づけたりすることがありますか。

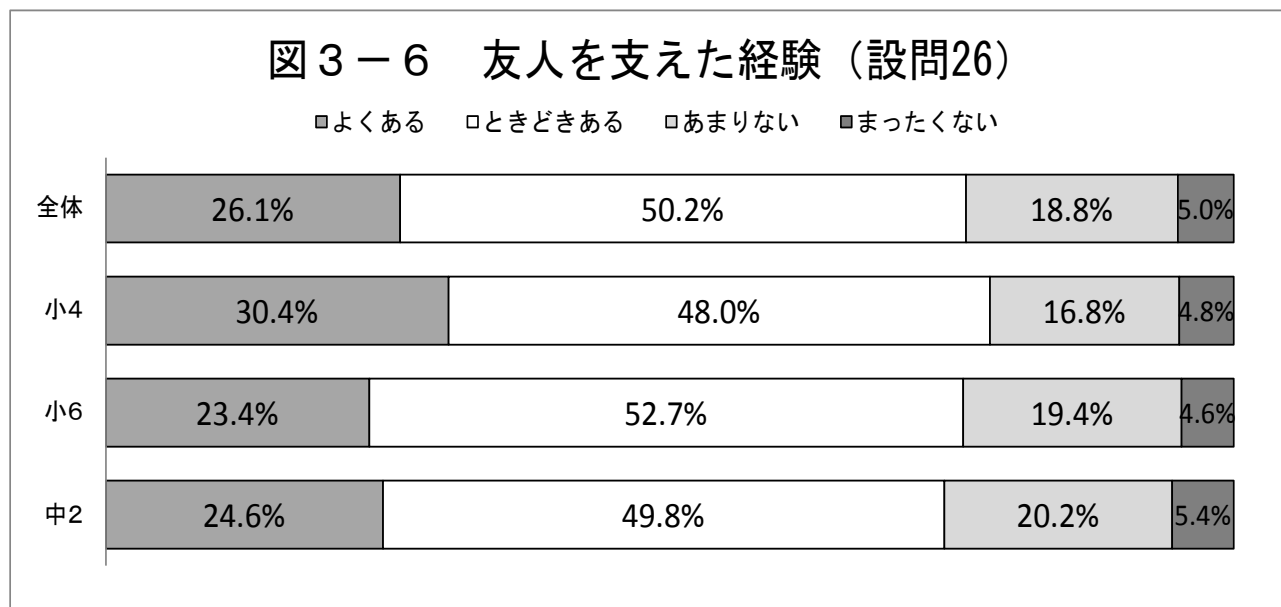


図3-6は、《設問26》の集計結果である。全体では、学校生活の中で、友だちを励ましたり、勇気づけたりすることが「ときどきある」と回答した割合は50.2%で最も高い。また、「まったくない」と回答した割合は5.0%で最も低い。

学年別では、「ときどきある」と回答した割合は小4で48.0%、小6で52.7%、中2で49.8%となっており、小6が最も高い。「まったくない」と回答した割合は小4で4.8%、小6で4.6%、中2で5.4%となっている。また、全体で「よくある」と回答した割合は、26.1%である。学年別では、小4で30.4%、小6で23.4%、中2で24.6%となっており、小4が最も高い。

なお、《設問26》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 友人を支えた経験と友人から支えられた経験との関連

表3-6は、本設問と《友人から支えられた経験：設問25》をクロス集計した結果である。

表3-6を見ると、学校生活の中で、友だちを励ましたり、勇気づけたりすることが「よくある」と回答した子供のうち70.5%は、友人から支えられた経験が、「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した22.9%を合わせると、「よくある」子供の93.4%が、「よくある」または「ときどきある」と回答している。

一方、友人から支えられた経験が「まったくない」と回答した子供の51.9%が、友人を支えた経験が「まったくない」と回答している。「あまりない」と回答した27.9%を合わせると、「まったくない」子供の79.8%が、「まったくない」または「あまりない」と回答している。

表3-6 友人を支えた経験と友人から支えられた経験との関連（%）

設問25 \ 設問26	(友人から支えられた経験)よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
(友人を支えた経験)よくある	70.5	22.9	4.6	2.1
ときどきある	25.5	61.3	11.2	2.0
あまりない	6.8	41.8	44.7	6.7
まったくない	5.2	14.9	27.9	51.9

第3章 学校における生活

3-7 教師との関係

〈設問 27〉あなたは、担任の先生とどのくらい話をしますか。

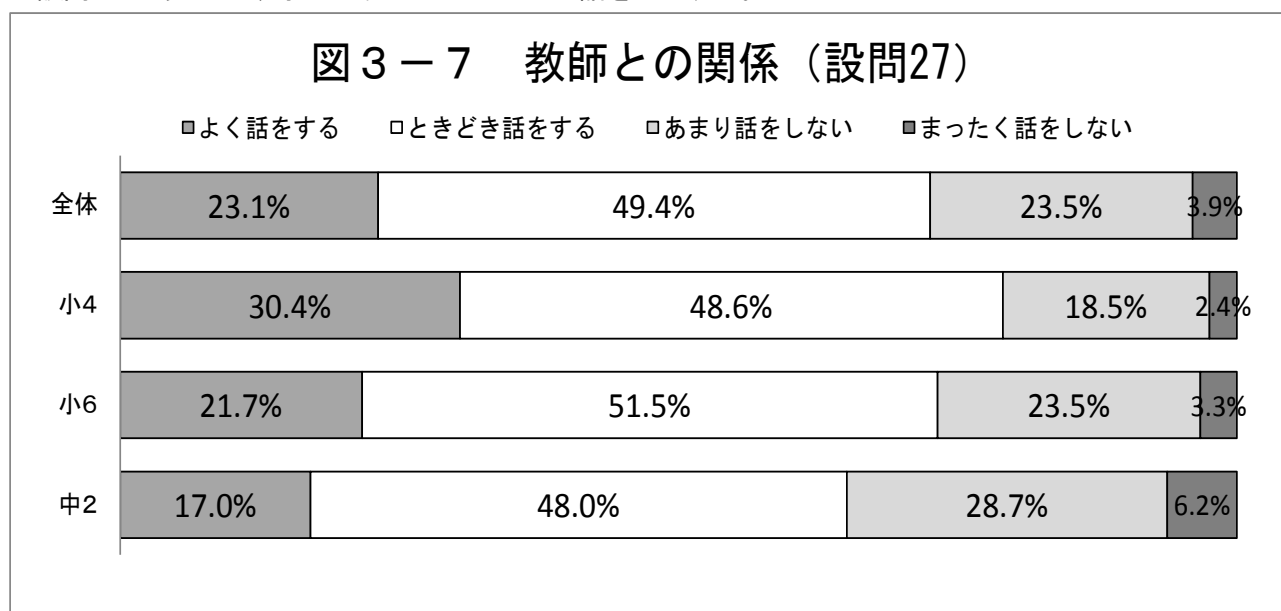


図 3-7 は、《設問 27》の集計結果である。全体では、担任の先生と「ときどき話をする」と回答した割合は 49.4% で最も高い。また、「まったく話をしない」と回答した割合は 3.9% で最も低い。「よく話をする」または「ときどき話をする」と回答した割合を合わせると 72.5% になっている。

学年別では、「よく話をする」または「ときどき話をする」と回答した割合を合わせると小4で、79.0%、小6で73.2%、中2で65.0%となっており、学年が進むにつれて減少している。また、「まったく話をしない」と回答した割合は、小4で2.4%、小6で3.3%、中2で6.2%となっており、学年が進むにつれて増加している。中2においては、担任の先生と「まったく話をしない」または「あまり話をしない」と回答した割合を合わせると 34.9% である。

なお、《設問 27》は、第 17 次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 教師との関係と授業に対する満足度との関連

表 3-7 は、本設問と《授業に対する満足度：設問 32》をクロス集計した結果である。

表 3-7 を見ると、担任の先生と「よく話をする」と回答した子供のうち 50.4% が、学校の授業が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば、楽しい」と回答した 34.9% を合わせると、担任の先生と「よく話をする」子供の 85.3% が、学校の授業が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答している。

一方、担任の先生と「まったく話をしない」と回答した子供の 67.6% が、学校の授業が「どちらかといえば、楽しくない」または「楽しくない」と回答している。

表 3-7 教師との関係と授業に対する満足度との関連 (%)

設問 27 \ 設問 32	設問 32			
	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない
よく話をする	50.4	34.9	9.9	4.8
ときどき話をする	31.9	46.0	16.3	5.9
あまり話をしない	16.7	42.4	27.1	13.8
まったく話をしない	7.9	24.5	26.7	40.9

第4節 学校における自己肯定感

3-8 行事への参画意識

<設問28>あなたは、学校や学年の行事に、進んで取り組んでいると思いますか。

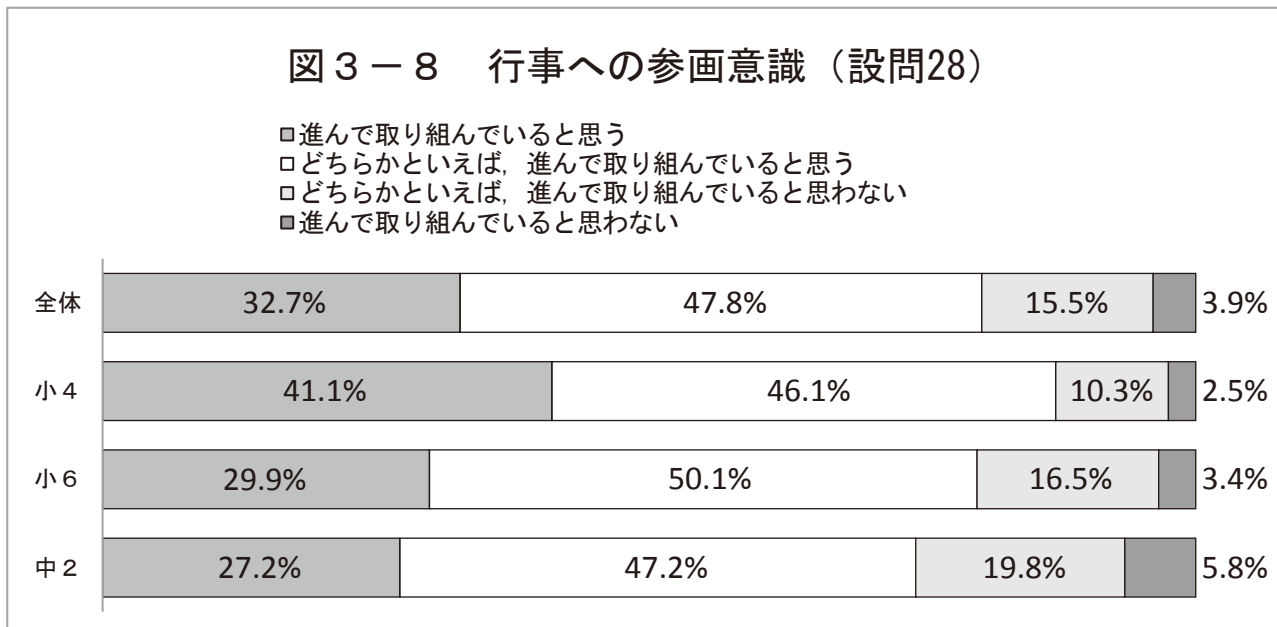


図3-8は、《設問28》の集計結果である。全体では、学校や学年の行事に「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答した割合が47.8%で最も高い。また、「進んで取り組んでいると思う」または「どちらかといえば、進んで取り組んでいる」と回答した割合を合わせると80.5%になっている。

学年別では、「進んで取り組んでいると思う」または「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答した割合を合わせると、小4で87.2%、小6で80.0%、中2で74.4%となっており、学年が進むにつれて減少している。

表3-5 これまでの調査で「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	28.1	29.4	32.3	32.7

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、全体では「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合が年々増加傾向にある（表3-5）。

○ 行事への参画意識と友人を支えた経験との関連 表3-8 行事への参画意識と友人を支えた経験との関連（%）

表3-8は、本設問と《友人を支えた経験：設問26》をクロス集計した結果である。

表3-8を見ると、学校や学年の行事に「進んで取り組んでいると思う」と回答した子供のうち88.1%が、友だちを励ましたり、支えたりすることが「よくある」または「ときどきある」と回答している。

一方、行事に「進んで取り組んでいると思わない」と回答した子供の60.4%が、友だちを励ましたり、支えたりすることは、「まったくない」または「あまりない」と回答している。

設問28 \ 設問26	設問26			
	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
進んで取り組んでいると思う	41.8	46.3	9.9	1.9
どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	21.0	55.9	19.7	3.5
どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない	12.5	46.2	32.2	9.1
進んで取り組んでいると思わない	10.8	28.7	28.9	31.5

第3章 学校における生活

3-9 自己有用感

〈設問29〉あなたは、学校生活の中で、誰かの役に立ったと思うときがありますか。

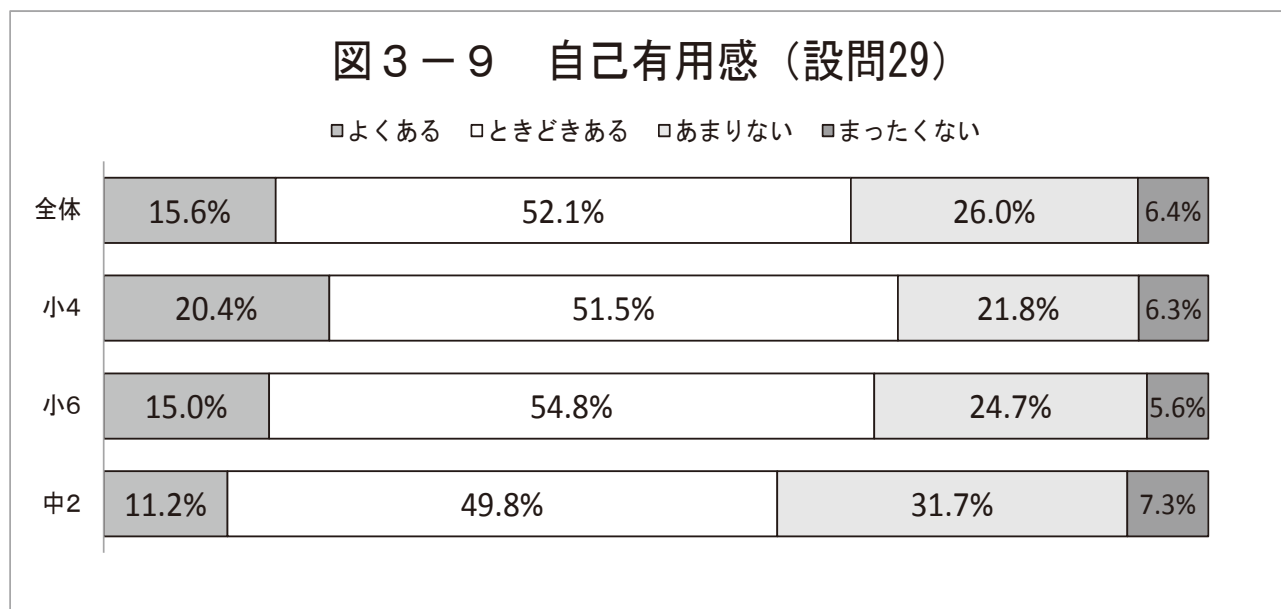


図3-9は、《設問29》の集計結果である。全体では、学校生活の中で、誰かの役に立ったと思うときが、「ときどきある」と回答した割合は52.1%で最も高い。また、「よくある」または「ときどきある」と回答した割合を合わせると67.7%になっている。

学年別では、「よくある」または「ときどきある」と回答した割合を合わせると、小4で71.9%、小6は69.8%、中2は61.0%となっており、学年が進むにつれて減少している。

表3-⑥ これまでの調査で「よくある」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの設問を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	8.1	9.8	11.0	15.6

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査と比較すると、誰かの役に立ったと思うときが「よくある」と回答した割合が増加傾向にある。平成22年度と比較すると、4.6ポイント増加している（表3-⑥）。

○ 自己有用感と友人を支えた経験との関連

表3-9は、本設問と《友人を支えた経験：設問26》をクロス集計した結果である。

表3-9を見ると、学校生活の中で、誰かの役に立ったと思うときが「よくある」と回答した子供のうち60.8%は、友だちを励ましたり、勇気付けたりすることが「よくある」と回答している。「ときどきある」と回答した32.5%を合わせると93.3%である。また、誰かの役に立ったと思うときが「ときどきある」と回答した子供の85.0%は、友人を支えた経験は「よくある」または「ときどきある」と回答している。

一方、誰かの役に立ったと思うときが「まったくない」と回答した子供の66.1%は、友人を支えた経験が「あまりない」または「まったくない」と回答している。

表3-9 自己有用感と友人を支えた経験との関連（%）

設問29 \ 設問26	(友人を支えた経験) よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
(自己有用感) よくある	60.8	32.5	5.3	1.4
ときどきある	25.9	59.1	13.5	1.5
あまりない	9.9	49.2	34.7	6.3
まったくない	9.1	24.8	29.7	36.4

第3章 学校における生活

3-10 自己肯定感

<設問 30>あなたは、学校生活の中で、まわりの人から大切にされていると思いますか。

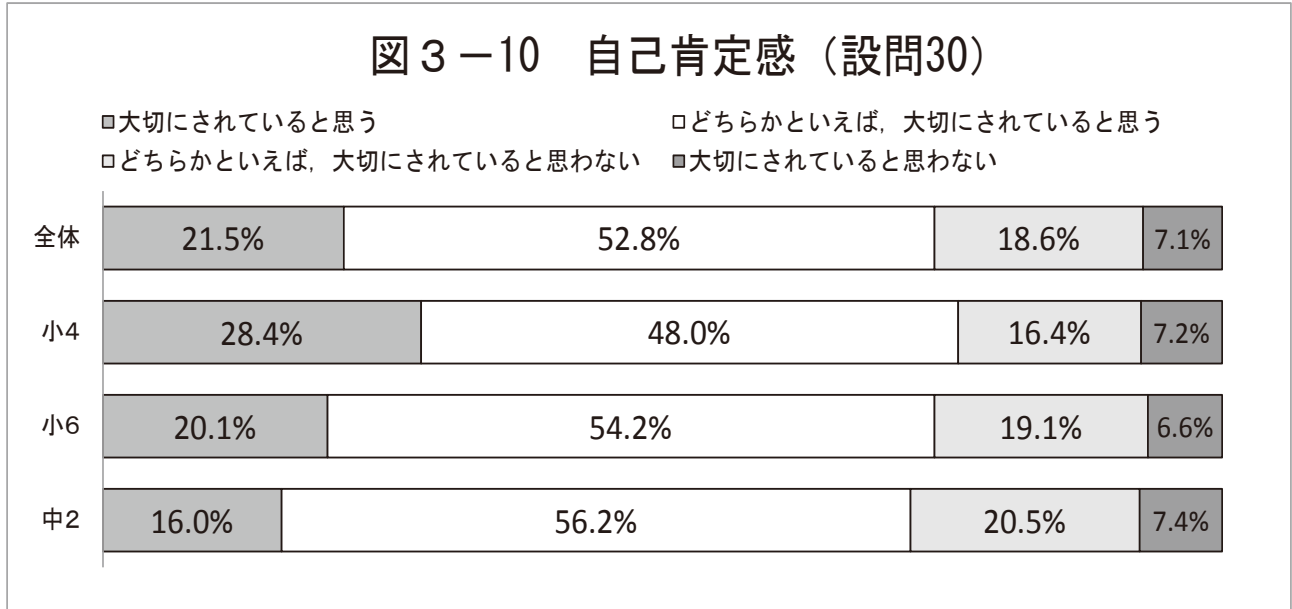


図 3-10 は《設問 30》の集計結果である。全体では、学校生活の中で、まわりの人から「どちらかといえば、大切にされていると思う」と回答した割合が 52.8%で最も高い。また、「大切にされていると思う」または「どちらかといえば、大切にされていると思う」と回答した割合を合わせると 74.3%になっている。

学年別では「大切にされていると思う」または「どちらかといえば、大切にされていると思う」と回答した割合は、小4で 76.4%、小6で 74.3%、中2で 72.2%と、学年が進むにつれて減少している。

なお、《設問 30》は、第 17 次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 自己肯定感と学校生活の楽しさとの関連

表 3-10 は、本設問と《学校生活の楽しさ：設問 21》をクロス集計した結果である。

表 3-10 を見ると、学校生活の中で、まわりの人から「大切にされていると思う」と回答した子供のうち 97.2%、また「どちらかといえば、大切にされていると思う」と回答した子供のうち 94.7%は、学校生活が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答している。

一方、「大切にされていると思わない」と回答した子供のうち 22.9%が、学校生活が「楽しくない」と回答している。

表 3-10 自己肯定感と学校生活の楽しさとの関連

(%)

	設問 21 楽しい	どちらか といえば 楽しい	どちらか といえば 楽しくない	楽しく ない
設問 30 大切にされて いると思う	84.0	13.2	1.9	0.9
どちらかとい えば、大切にさ れていると思 う	59.6	35.1	4.2	1.0
どちらかとい えば、大切にさ れていると思 わない	32.9	47.1	15.7	4.3
大切にされて いると思わな い	25.0	31.1	21.0	22.9

学校における生活 考察とまとめ

1 学校は、子供が学校生活で楽しいと感じられるようにするために、学校における良好な人間関係を築き、子供の自己肯定感を育む環境をつくりましょう

「学校生活の楽しさ」について、経年の調査の変化をみると、「楽しい」と回答した割合は年々増加している（p. 32 表3-①）。

次に、「学校生活の楽しさ」と「学校における人間関係」との関連をみると、学校生活が「楽しい」と感じる子供ほど、友人から支えられた経験が「よくある」と回答する傾向にあることがわかる（p. 32 表3-1）。

さらに、「学校における自己肯定感」と「学校生活の楽しさ」との関連をみると、学校生活の中で「大切にされていると思う」と感じる子供ほど、学校生活が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答する傾向にあることがわかる（p. 41 表3-10）。

これらのことから、「学校生活の楽しさ」と「学校における人間関係」とは密接な関係があり、同時に「学校における自己肯定感」と「学校生活の楽しさ」にも密接な関係があることがわかる。つまり、学校生活の楽しさは友だちとの豊かな人間関係につながっており、子供の自己肯定感は学校生活の楽しさにつながっていると考えられる。

そこで学校は、子供が良好な人間関係を築いたり、まわりの人から大切にされていると感じる経験を積み重ねたりできる環境づくりをしていきたい。

2 学校は、子供が基本的な生活習慣や規範意識を身につけられるようにするために、授業や行事等の学校生活において積極的に参加し行動できるよう、役割に対して責任を果たせる場面、人間関係を築ける場面、自己有用感をもてる場面をつくりましょう

「基本的な生活」の「規範意識」「公共性」「役割に対する責任感」の集計結果をみると、いずれも約90%の子供が肯定的な回答をしている（p. 33 図3-2, p. 34 図3-3, p. 35 図3-4）。

それぞれの項目について関連をみると、学校でのきまりを「守っている」と回答している子供ほど、学習に「進んで取り組んでいると思う」または「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答する傾向にあることがわかる（p. 33 表3-2）。また、そうじ道具など、みんなが使うものを「大切にみついている」と回答している子供ほど、学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」または「どちらかといえば、責任をもって取り組んでいる」と回答する傾向にあることがわかる（p. 34 表3-3）。

さらに、学級の当番やそうじなどの活動に「責任をもって取り組んでいる」と回答している子供ほど、学校生活の中で誰かの役に立ったと思うときが「よくある」または「ときどきある」と回答する傾向にあることがわかる（p. 35 表3-4）。

これらのことから、学校でのきまりを守る、みんなの使うものを大切にみつかう、学校の当番や活動に責任をもって取り組んでいるという基本的な生活は、学習への取組の現状や役割に対する責任感、学校における自己有用感と関連があることがうかがわれる。

そこで、学校は、子供たちが基本的な生活習慣や規範意識を身につけられるように、基本的な生活についての指導を継続するとともに、授業や行事等の学校生活において、積極的に参加を促し、役割に対して責任を果たせる場面、人間関係を築ける場面、自己有用感をもてる場面を意図的につくっていききたい。

3 教師は、子供が良好な人間関係をつくるために、互いが支え合う気持ちをもつことができるよう、励まし合ったり、勇気づけ合ったりする場を増やし、子供が楽しいと感じる授業づくりのために、子供との会話を増やしていきましょう

「友人から支えられた経験」「友人を支えた経験」のそれぞれの項目について関連をみると、学校生活の中で、友人から励まされたり、勇気づけられたりすることが多い子供ほど、まわりから大切にされていると思うことが多い傾向にある。また、友人を励ましたり、勇気づけたりすることが多い子供ほど、友人から励まされたり、勇気づけられたりすることが多い傾向がある（p.36 表3-5、p.37 表3-6）。逆に、友人を励ましたり、勇気づけたりすることが少ない子供ほど、友人から支えられた経験も少ない傾向にある（p.37 表3-6）。

また、教師とよく話をする子供ほど、授業が楽しいと感じており、授業中に先生や友人から「すごいね」または「がんばっているね」とほめられることが多い傾向にある（p.38 表3-7、表3-a）。

これらのことから、友人から支えられたり、友人を支えたりする経験は、相互に関わり合っているといえる。また、そのような経験をしている子供は、自己肯定感が高いことがうかがわれる。更に、教師が子供と関係を築くためには、子供とよく話をすることが重要である。

そこで教師は、全ての教育活動を通して互いが支え合う気持ちをもつことができるよう、励まし合ったり、勇気づけ合ったりする場を増やし、子供が楽しいと感じる授業を行っていきたい。

表3-a 教師との関係と認められた経験との関連（%）

設問37 設問27	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
よく話をする	29.2	44.8	20.1	5.9
ときどき話をする	11.7	50.8	30.2	7.3
あまり話をしない	5.7	34.7	42.5	17.1
まったく話をしない	5.9	19.9	33.7	40.5

4 教師は、子供の自己有用感や自己肯定感を高めるために、行事等の中で進んで取り組むことができるよう、友人と共にがんばった姿を称賛（承認）する言葉かけをしましょう

「行事への参画意識」と「友人を支えた経験」との関連をみると、行事に進んで取り組んでいる子供ほど、友人を励ましたり、支えたりする割合が高くなる傾向がみられる（p.39 表3-8）。さらに、「行事への参画意識」と「自己有用感」との関連をみると、行事に進んで取り組んでいる子供のうち85.0%が、「誰かの役に立ったと思うときがありますか」という問いに対して、「よくある」または「ときどきある」と回答している（表3-b）。その一方、行事に進んで取り組んでいない子供ほど、友人を支えた経験の割合が少ない傾向がみられる（p.39 表3-8）。

「自己有用感」と「友人を支えた経験」との関連をみると、学校生活の中で誰かの役に立ったと思うときがある子供ほど、友人を支えた経験があるという傾向がみられる（p.40 表3-9）。

また、「自己肯定感」がある子供ほど学校生活が楽しいと感じている傾向がある（p.41 表3-10）。これらのことから、子供同士が互いに認め合い、良好な人間関係を築くとともに、自己有用感や自己肯定感を味わうことが「楽しい学校生活」につながると考える。

そこで教師は、子供が友人と一緒に行事に取り組むことができるような環境づくりや支援をしながら、子供を称賛したり認めたりする言葉かけをすることが重要である。

表3-b 行事への参画意識と自己有用感との関係（%）

設問29 設問28	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない
進んで取り組んでいると思う	31.0	54.0	12.5	2.5
どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	9.5	58.2	28.1	4.2
どちらかといえば、進んで取り組んでいないと思わない	4.4	37.6	45.9	12.2
進んで取り組んでいないと思わない	5.2	18.2	34.0	42.5

第4章 学校における学習

本章では、「授業の受けとめ」「受けとめを形づくるもの」「肯定的な学習経験」「学習に対する意識」の4点から、子供の学校での学習の現状を探り、求められる授業の姿を明らかにしていきます。

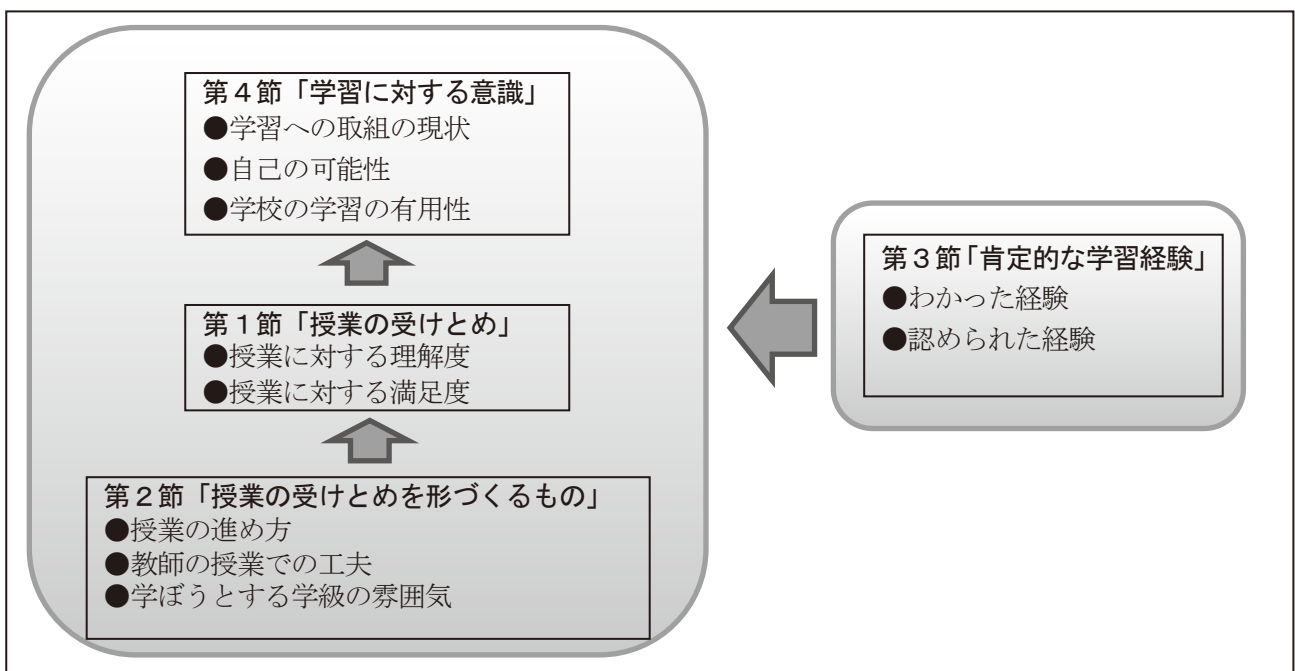
そして、学習に対する子供の意識を高めるために、授業をどのように改善していけばよいかについて提言します。

学習指導要領解説総則編では、「OECDのPISA調査など各種の調査から、我が国の児童生徒については、①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題 ②読解力で成績分布の分散が拡大しており、その背景には家庭での学習への取り組み方など学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題がみられるところである」と指摘している。そして、これからの子供たちにとって、「生きる力」の主要な柱の一つである「確かな学力」を育成するため、基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力等の双方をバランスよく育成することの重要性が示されている。さらに、学習意欲を向上させるため、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することの重要性も示されている。

第16次の調査結果では、「肯定的な学習経験」の多くは、普段の授業の中で得られるものであり、それが学習意欲を支え、「確かな学力」を育成する重要な要素の一つであることが明らかになった。これらのことを受け、第17次の研究では、学校における子供の学習に対する姿や思いを的確に把握することにより、求められる授業像を明らかにすることが必要だと考えた。

そこで、本章では「授業の受けとめ」「授業の受けとめを形づくるもの」「肯定的な学習経験」「学習に対する意識」の四つの切り口を設定した。まず、「授業の受けとめ」では、授業に対する理解度と満足度を探る。次に、「授業の受けとめを形づくるもの」では、授業の進め方や授業での工夫をどう感じているのかなど、学ぼうとする学級の雰囲気を探る。そして、「肯定的な学習経験」では、わかった経験と認められた経験について探る。最後に、「学習に対する意識」では、学習の取組の現状、自己の可能性、学校の学習の有用性の意識について探る。

分析に当たっては、「肯定的な学習経験」を中心とした子供の実態や意識を明らかにする。そして、「学習に対する意識」を高めるために授業をどのように改善していけばよいのかということについて提言したい。



「学校における学習」の調査構造

第4章 学校における学習

第1節 授業の受けとめ

4-1 授業に対する理解度

〈設問31〉あなたは、学校の授業がわかりますか。

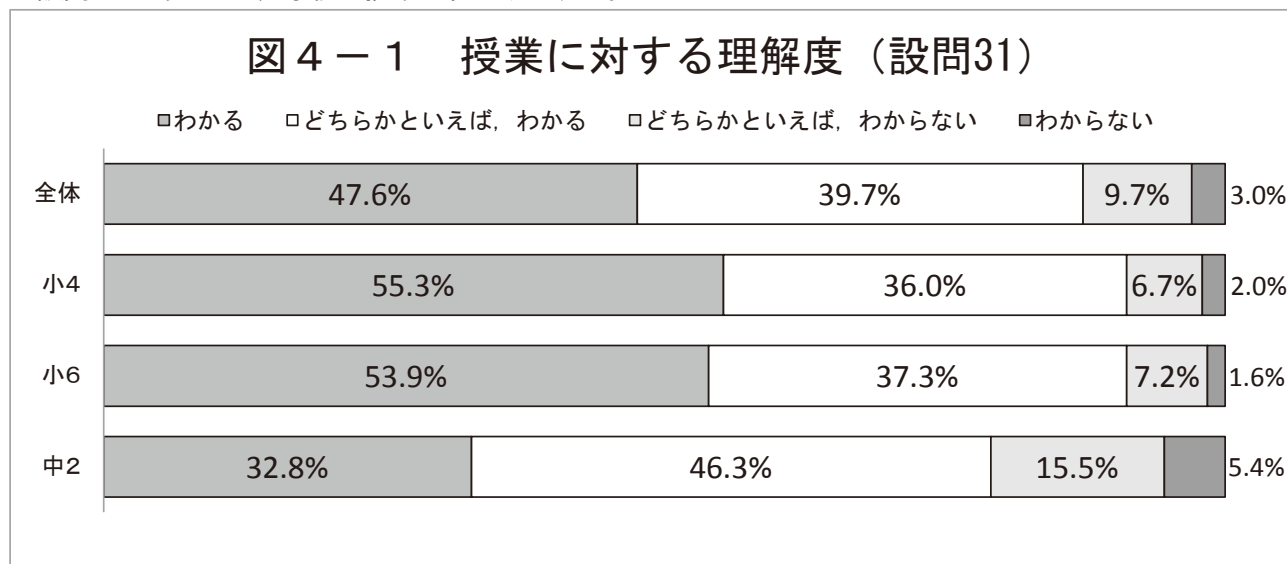


図4-1は、《設問31》の集計結果である。全体では、「わかる」または「どちらかといえば、わかる」と肯定的に回答した割合を合わせると87.3%であった。小学校では小4も小6も差異はなく、「わかる」または「どちらかといえば、わかる」と回答した割合を合わせると91.3%、91.2%と高くなっている。「わかる」と回答した割合も55.3%、53.9%と半数を超えている。しかし、中学校では、「わかる」または「どちらかといえば、わかる」と回答した割合を合わせると79.1%となり、小6と比較すると12.1ポイント低くなっている。また、「わかる」と回答している割合は32.8%で、小6と比較して21.1ポイント低くなっている。中学校では、5人に1人の割合で授業が「どちらかといえ

表4-① 過去の調査で授業が「わかる（よくわかる）」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	32.8	35.5	35.8	47.6

ば、わからない」または「わからない」と感じている。一概には言えないが、「授業がわかる」と回答した割合は、平成22年度は35.8%であったが、平成25年度には47.6%となり、11.8ポイント増加している（表4-①）。

○ 授業に対する理解度と学校生活の楽しさとの関連

表4-1は、本設問と《学校の楽しさ：設問21》をクロス集計した結果である。

表4-1を見ると、授業が「わかる」と回答した子供の68.4%が、学校生活が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば、楽しい」と回答している子供が25.0%おり、授業が「わかる」と回答した子供の93.4%が、学校生活が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と肯定的な回答をしている。学校の授業が「どちらかといえば、わかる」と回答した子供も、90.3%が学校生活が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と肯定的な回答をしている。

一方、授業が「わからない」と回答した子供の20.8%が、学校生活が「楽しくない」と回答している。

表4-1 授業に対する理解度と学校生活の楽しさとの関連（%）

設問31 \ 設問21	設問21			
	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない
わかる	68.4	25.0	4.6	2.0
どちらかといえば、わかる	50.6	39.7	7.3	2.4
どちらかといえば、わからない	38.9	38.8	15.5	6.7
わからない	33.2	29.6	16.4	20.8

第4章 学校における学習

4-2 授業に対する満足度

<設問 32>あなたは、学校の授業が楽しいですか。

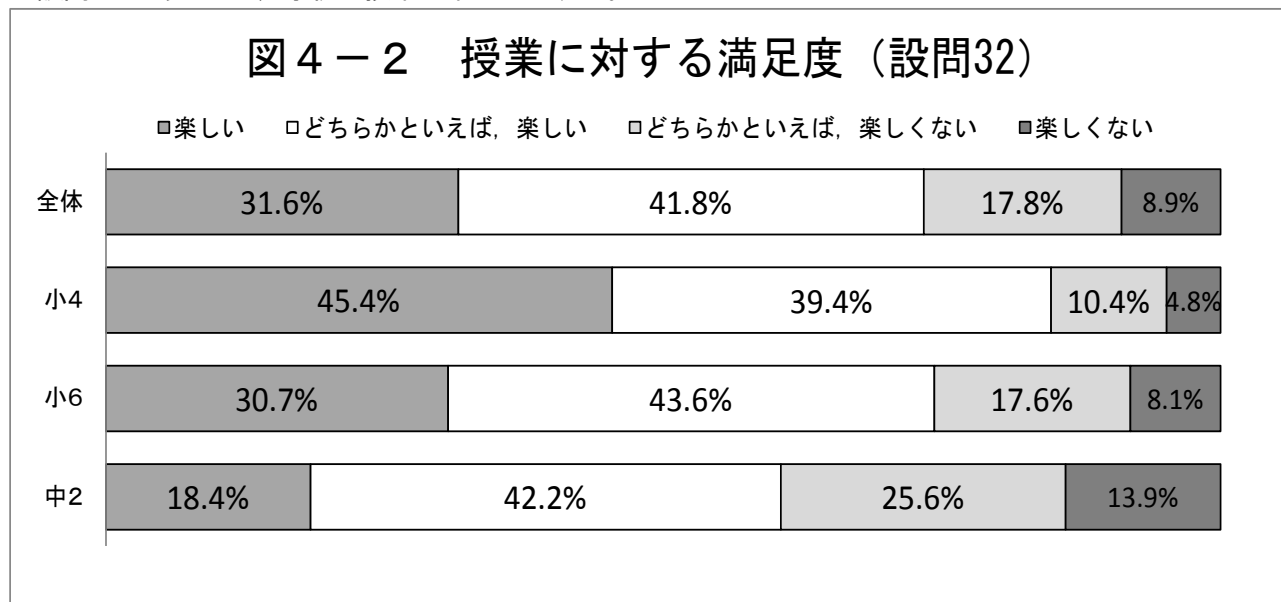


図4-2は、《設問32》の集計結果である。全体では、「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と肯定的に回答した割合は、73.4%であった。小4が、「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と肯定的に回答した割合は、84.8%で最も高く、学年が進むに伴い低くなる。中2では授業が「楽しい」と回答している割合が、18.4%であり、「どちらかといえば、楽しい」を合わせて、肯定的な回答が、60.6%にとどまっている。小4、小6では、「楽しくない」と回答している割合が4.8%、8.1%であるが、中2になると13.9%になっている。

表4-② 過去の調査で授業が「楽しい」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの選択肢を修正して実施）

一概には言えないが、授業が「楽しい」と回答した割合は、平成22年度は27.2%であったが、平成25年度は31.6%となり、4.4ポイント増加している（表4-②）。

	H16	H19	H22	H25
	22.3	25.6	27.2	31.6

○ 授業の満足度と授業の理解度との関連

表4-2は、本設問と《授業に対する理解度：設問31》をクロス集計した結果である。

表4-2を見ると、授業が「楽しい」と回答した子供の73.2%が、授業が「わかる」と回答している。「どちらかといえば、わかる」と回答している子供の割合が23.7%であるので、授業が「楽しい」と回答している子供の96.9%が授業の理解度に肯定的な回答をしている。

更に、授業が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答した子供には、授業が「わからない」と回答した子供がほとんどいないことがわかる。

一方、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している子供で、授業が「どちらかといえば、わかる」と回答している割合が48.7%と半数に近い。また、授業が「楽しくない」と回答している子供の56.5%が、授業が「わかる」または「どちらかといえば、わかる」と回答している。

表4-2 授業の満足度と授業の理解度との関連（%）

設問32 \ 設問31	わかる	どちらかといえば、わかる	どちらかといえば、わからない	わからない
	楽しい	73.2	23.7	2.6
どちらかといえば、楽しい	41.9	50.1	7.2	0.8
どちらかといえば、楽しくない	26.0	48.7	21.7	3.6
楽しくない	26.4	30.1	22.5	20.9

第4章 学校における学習

第2節 授業の受けとめを形づくるもの

4-3 授業の進め方

〈設問33〉あなたは、みんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業をよいと思いますか。

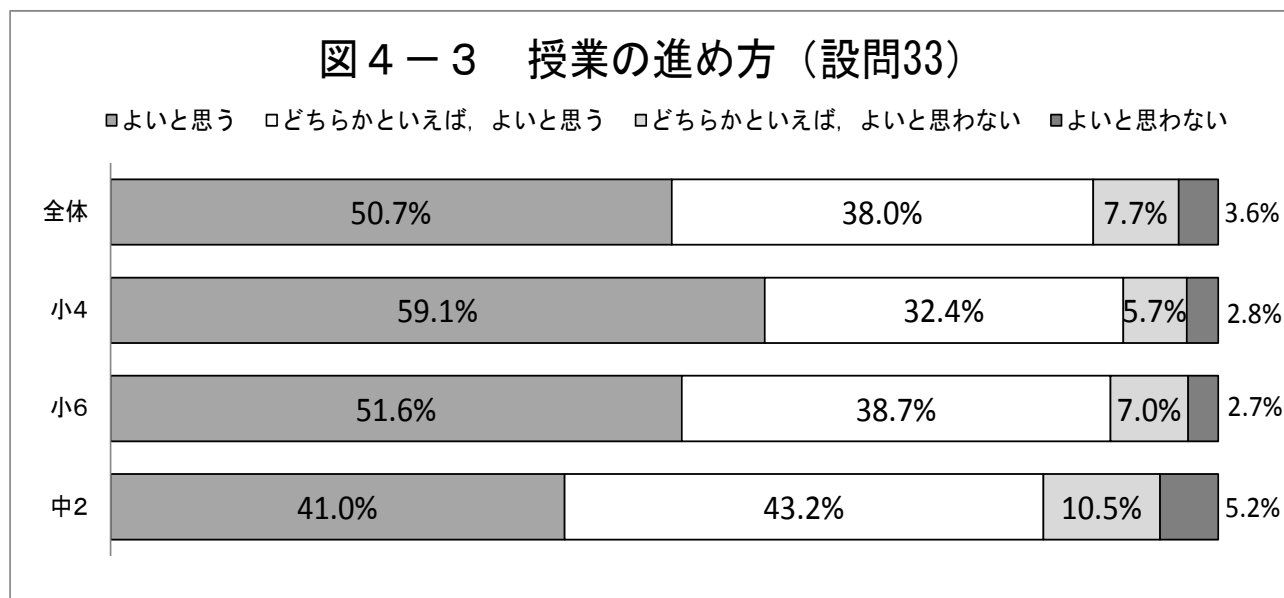


図4-3は、《設問33》の集計結果である。全体では、「先生が子供の発言や発表などを、取り上げながら進める授業」が「よいと思う」子供の割合は、50.7%である。「どちらかといえば、よいと思う」と回答した割合が38.0%であるので、肯定的な回答をした子供の割合は、88.7%となる。学年が進むとともに、「よいと思う」子供の割合は下がっている。

「子供の発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業」を望む傾向は小学校で強く見られており、小4、小6では91.5%、90.3%の子供が「よいと思う」または「どちらかといえば、よいと思う」と回答している。中2でも84.2%の子供が、「子供の発言や発表などを尊重して行われる授業」を「よいと思う」あるいは、「どちらかといえば、よいと思う」と回答している。

なお、《設問33》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 授業の進め方と授業に対する満足度との関連

表4-3は本設問と《授業に対する満足度：設問32》をクロス集計した結果である。

表4-3を見ると、「子供の発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業」を「よいと思う」子供が、「授業が楽しい」と回答している割合が48.0%と半数近くになっている。更に、「どちらかといえば、楽しい」と回答している子供の割合が38.9%である。したがって、「子供の発言や発表などを、取り上げながら進める授業」を「よいと思う」子供は、「授業が楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と肯定的に回答した割合が86.9%となる。

一方、「子供の発言や発表などを、取り上げながら進める授業」を「よいとは思わない」子供の50.6%が、授業を「楽しくない」と回答している。

表4-3 授業の進め方と授業に対する満足度との関連（%）

設問32 \ 設問33	設問33			
	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない
よいと思う	48.0	38.9	9.3	3.8
どちらかといえば、良いと思う	16.1	49.8	25.5	8.7
どちらかといえば、よいと思わない	9.2	32.6	34.2	24.0
よいと思わない	13.0	16.6	19.8	50.6

第4章 学校における学習

4-4 教師の授業での工夫

〈設問 34〉あなたは、先生たちが、わかるように工夫して教えてくれていると思いますか。

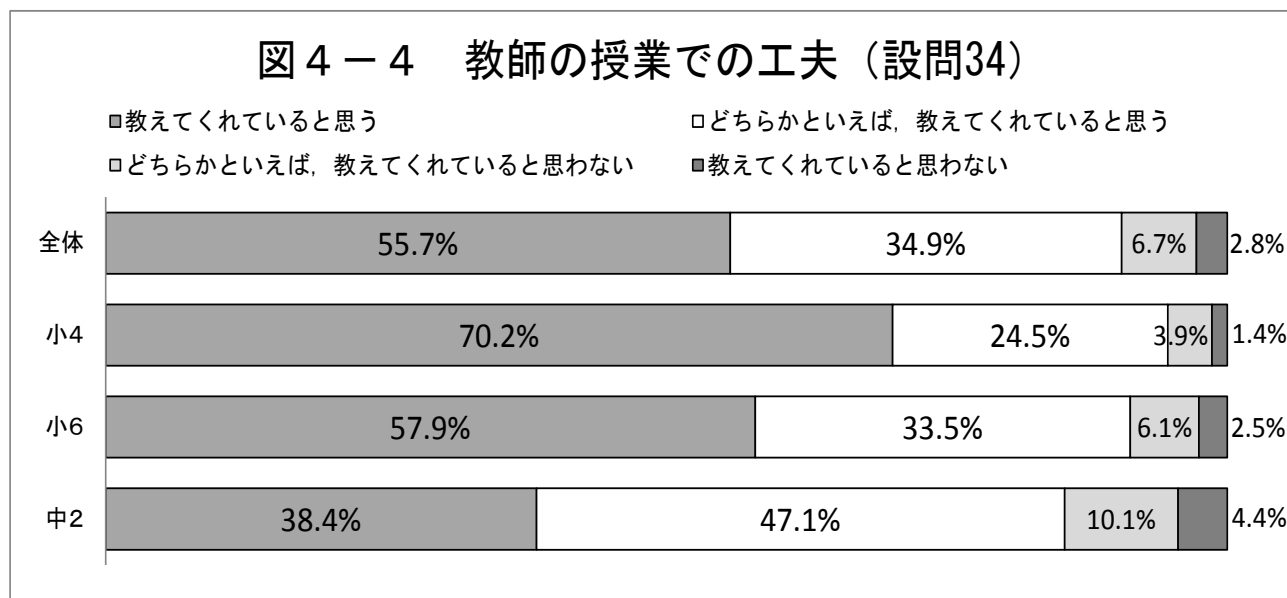


図4-4は、《設問 34》の集計結果である。全体では、先生たちが、わかるように工夫して「教えてくれていると思う」と回答した子供の割合は、55.7%である。「どちらかといえば、教えてくれていると思う」と回答した34.9%を合わせると、教師が工夫した授業をしていると考えている子供の割合は、90.6%となっている。

学年別にみると、小4では、「教えてくれていると思う」が70.2%である。「どちらかといえば、教えてくれていると思う」が24.5%であり、肯定的に回答している割合が、94.7%となっている。小6でも肯定的に回答している割合が91.4%となっている。中2では、「教えてくれている」と回答した割合が38.4%となり、小4と比べると、31.8ポイント下がっている。「どちらかといえば、教えてくれていると思う」と回答している子供が47.1%おり、中2でも肯定的に回答した割合は85.5%となる。

なお、《設問 34》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 教師の授業での工夫と授業に対する満足度との関連

表4-4は本設問と《授業に対する満足度：設問32》をクロス集計した結果である。

表4-4を見ると、授業をわかるように工夫して「教えてくれていると思う」子供の47.2%が、授業が「楽しい」と回答している。「どちらかといえば、楽しい」の40.3%を加えると、87.5%の子供が授業が「楽しい」と肯定的な回答をしている。

一方、授業をわかるように工夫して「教えてくれていると思わない」と回答した子供は、授業が「楽しくない」と66.1%の割合で回答している。「どちらかといえば、楽しくない」と回答した18.5%と合わせると、84.6%の子供が否定的な回答をしている。

表 4-4 教師の授業での工夫と授業の満足度との関連（%）

設問 32 \ 設問 34	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない
教えてくれていると思う	47.2	40.3	9.2	3.3
どちらかといえば、教えてくれていると思う	13.5	49.1	27.5	9.9
どちらかといえば、教えてくれていると思わない	7.1	28.7	38.3	25.9
教えてくれていると思わない	5.3	10.1	18.5	66.1

4-5 学ぼうとする学級の雰囲気

<設問 35> あなたの学級は、一生懸命授業に取り組んでいると思いますか。

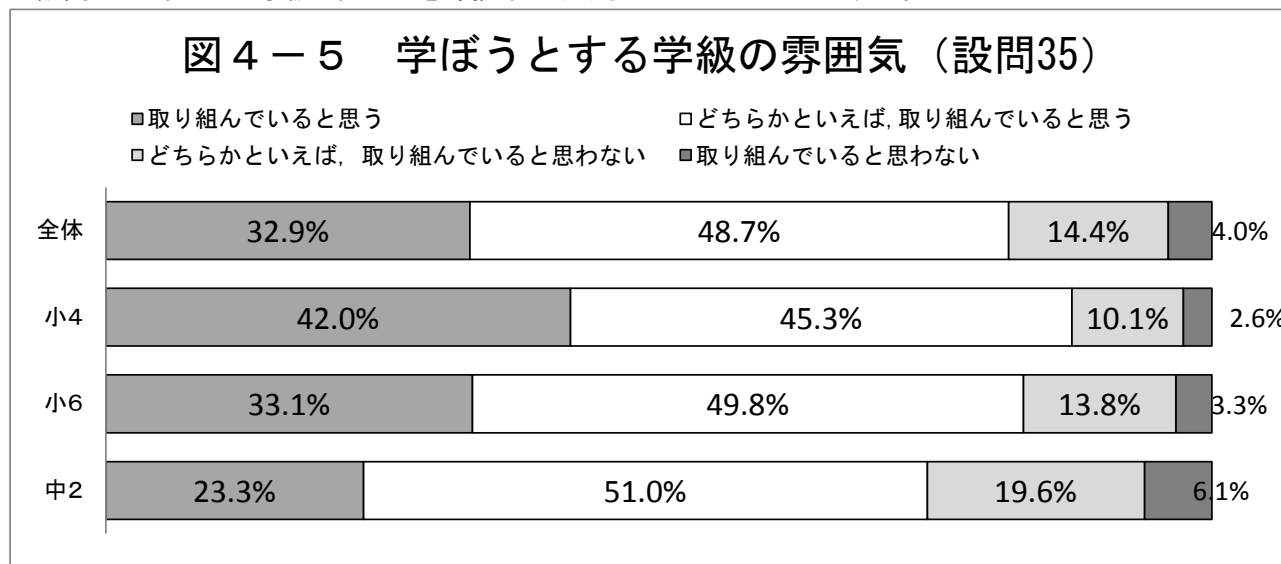


図4-5は、《設問 35》の集計結果である。全体では、所属学級が、一生懸命授業に「取り組んでいると思う」と、子供が回答した割合は、32.9%である。「どちらかといえば、取り組んでいると思う」と回答している割合は、48.7%である。一生懸命授業に「取り組んでいると思う」または「どちらかといえば、取り組んでいると思う」と肯定的に回答した割合は、81.6%となる。

学年別にみると、小4では「取り組んでいると思う」または「どちらかといえば、取り組んでいると思う」という肯定的な回答が87.3%となっている。小6でも肯定的な回答が82.9%である。中2では、肯定的な回答が74.3%と、小4と比較すると13.0ポイント低くなっている。肯定的な回答の内訳をみると、「どちらかといえば、取り組んでいると思う」と回答している割合は、小4で45.3%、小6で49.8%、中2で51.0%となり、いずれも約50%となっており、学年が進むに伴う変化はほとんどみられない。一方で、「取り組んでいると思う」と回答した子供の割合は、小4で42.0%、小6で33.1%、中2で23.3%となっており、学年進行とともに減少している。

なお、《設問 35》は、第17次からの調査項目であるため、経年比較ができない。

○ 学ぼうとする学級の雰囲気と授業の満足度との関連

表4-5は本設問と《授業の満足度:設問32》をクロス集計した結果である。

表4-5を見ると、一生懸命授業に「取り組んでいると思う」と回答した子供は、授業が「楽しい」と回答した割合が52.6%である。「どちらかといえば、楽しい」の35.2%と合わせると、肯定的な回答をしているのは、87.8%となる。

一方、「取り組んでいないと思う」と回答した子供は、授業が「楽しくない」と45.9%回答しており、「どちらかという、楽しくない」の21.9%を含めて、否定的な回答が67.8%となった。

表 4-5 学ぼうとする学級の雰囲気と授業の満足度との関連 (%)

設問 35 \ 設問 32	設問 32			
	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない
取り組んでいると思う	52.6	35.2	8.1	4.1
どちらかといえば、取り組んでいると思う	24.0	49.8	19.6	6.6
どちらかといえば、取り組んでいないと思う	15.2	35.2	32.5	17.1
取り組んでいないと思う	11.8	20.4	21.9	45.9

第4章 学校における学習

第3節 肯定的な学習経験

4-6 わかった経験

〈設問 36〉あなたは、授業中に、「わかった」「できた」と思うことがありますか。

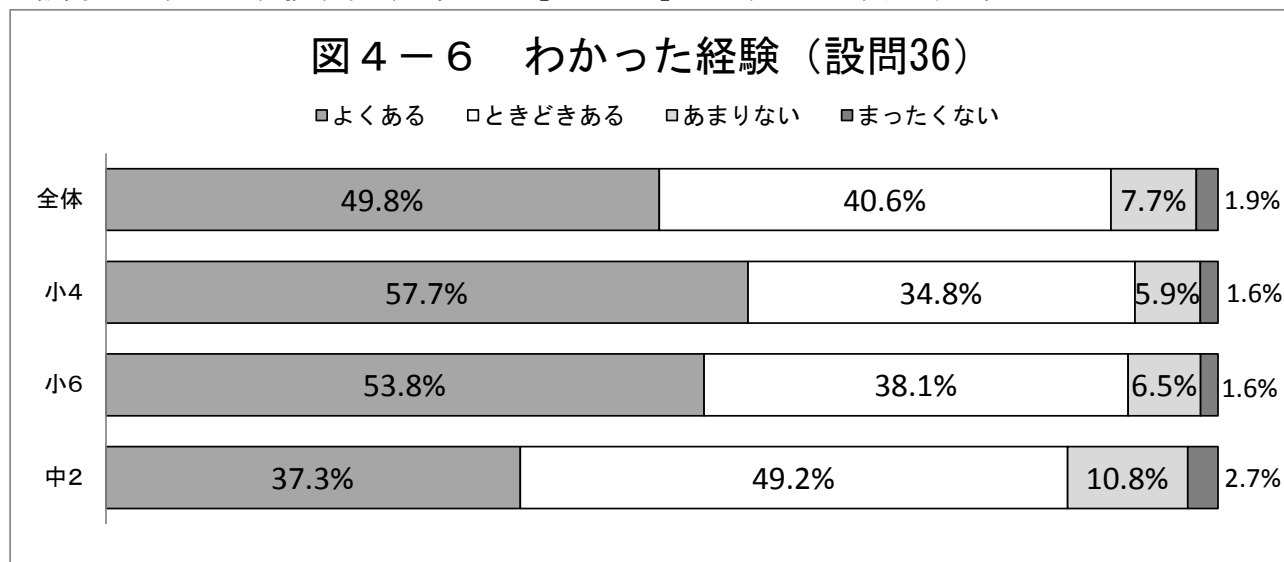


図 4-6 は、《設問 36》の集計結果である。全体では、「わかった」「できた」と思うことがよくあると、回答している子供の割合は、49.8%である。「ときどきある」と回答している子供の40.6%を合わせて、「わかった」「できた」と思うことがあると肯定的に回答している割合は、90.4%である。

学年別にみると、小4、小6では、「よくある」と回答している割合が、57.7%、53.8%であり、「ときどきある」を合わせて考えると、肯定的な回答は小4、小6で92.5%、91.9%となっている。中2では、「よくある」と回答した割合は37.3%と、小4よりも20.4ポイント低くなっているが、「ときどきある」の49.2%を合わせると、86.5%の子供が肯定的な回答をしている。

一概には言えないが、授業中に「わかった」「できた」と思うことがよくあると回答した割合は、平成22年度は32.4%であったが、平成25年度は49.8%となり、17.4ポイント増加した。（表4-③）。

表4-③ これまでの調査で「よくある」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの設問を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	29.4	29.9	32.4	49.8

○ わかった経験と授業に対する満足度との関連

表4-6は、本設問と《授業に対する満足度：設問32》をクロス集計した結果である。

表4-6を見ると、授業中に「わかった」「できた」と思うことが「よくある」子供は、授業が「楽しい」と48.2%が回答している。さらに、「どちらかといえば、楽しい」の38.1%を合わせて、肯定的な回答をしている割合は、86.3%となる。

一方、授業中に「わかった」「できた」と思うことが「まったくない」と回答した子供は、授業が「楽しくない」と65.5%の子供が回答し、「どちらかといえば、楽しくない」の18.0%を合わせて、否定的な回答をした子供が83.5%となる。

表4-6 わかった経験と授業に対する満足度との関連（%）

設問36 \ 設問32	設問32			
	楽しい	どちらかといえば、楽しい	どちらかといえば、楽しくない	楽しくない
よくある	48.2	38.1	9.6	4.1
ときどきある	17.1	50.1	24.2	8.6
あまりない	7.8	28.8	36.1	27.2
まったくない	6.0	10.5	18.0	65.5

第4章 学校における学習

4-7 認められた経験

〈設問 37〉あなたは、授業を通して、わかったことやできたことについて、先生や友だちから「すごいね」「がんばっているね」とほめられたことがありますか。

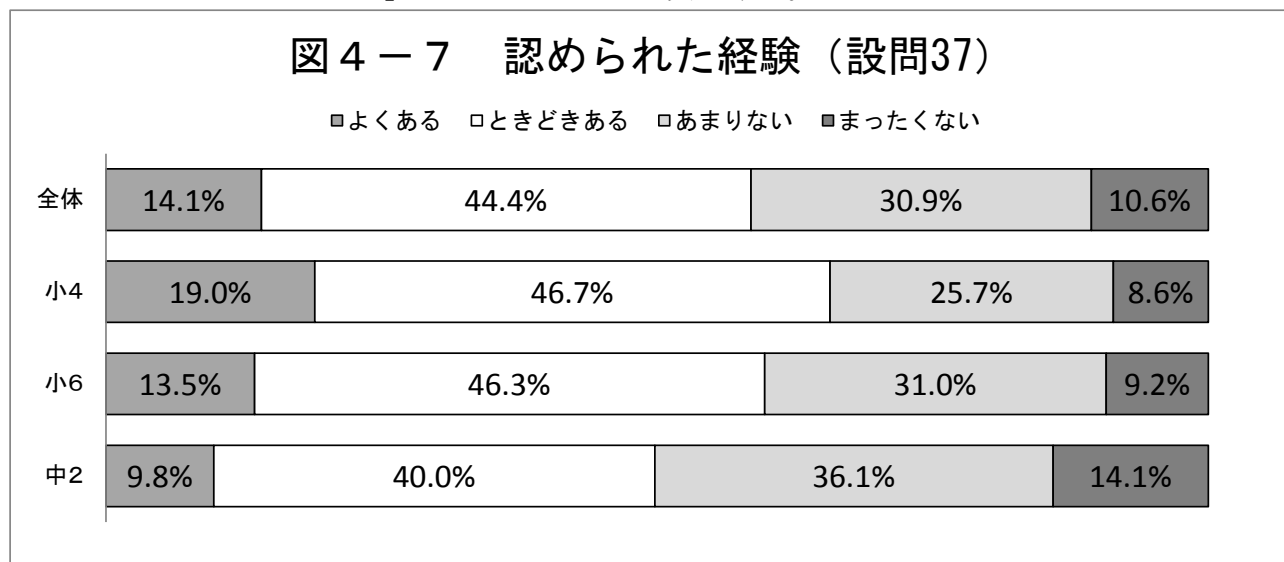


図4-7は、《設問 37》の集計結果である。全体では、先生や友達から「すごいね」「がんばっているね」とほめられたことがよくあると回答した割合は、14.1%である。「ときどきある」の44.4%を合わせて、肯定的な回答をしている割合は、58.5%である。学年別にみると、「よくある」と回答している割合が、小4、小6、中2と学年が進むにつれて、19.0%、13.5%、9.8%と減少している。「ときどきある」を合わせても、学年が上がると、肯定的な回答をする割合は減少している。

一概には言えないが、平成22年度と比較すると、「よくある」と回答した割合は9.8%であったが、平成25年度は14.1%となり、4.3ポイント増加している。（表4-④）。

表4-④ これまでの調査で「よくある」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの設問を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	7.9	9.0	9.8	14.1

○ 認められた経験と学習への取り組みの現状との関連

表4-7は、本設問と《学習への取組の現状：設問38》をクロス集計した結果である。

表4-7を見ると、授業中に認められたことが「よくある」と回答した子供の62.6%が、授業中に学習に進んで取り組んでいると回答している。「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答している31.7%を合わせると、94.3%の子供が授業中に学習に「進んで取り組んでいる」と肯定的な回答をしている。「まったくない」と回答している子供は、「進んで取り組んでいると思う」または、「どちらかといえば、取り組んでいると思う」と肯定的に回答した割合が、52.8%となっている。さらに、「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない」または、「進んで取り組んでいると思わない」と否定的に回答した割合が、47.2%となっている。

表4-7 認められた経験と学習への取り組みの現状との関連（%）

設問37 \ 設問38	設問38			
	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいると思わない
よくある	62.6	31.7	4.4	1.3
ときどきある	29.1	57.6	11.5	1.9
あまりない	15.9	55.0	23.9	5.1
まったくない	15.0	37.8	27.8	19.4

第4章 学校における学習

第4節 学習に対する意識

4-8 学習への取組の現状

<設問 38>あなたは、授業中、学習に進んで取り組んでいると思いますか。

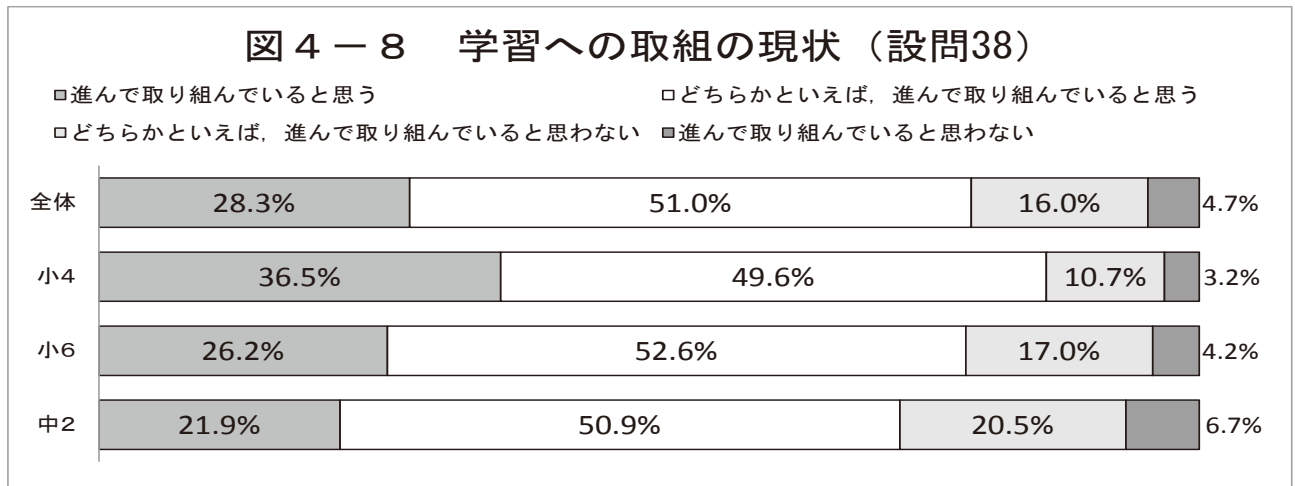


図 4-8 は、《設問 38》の集計結果である。全体では、授業中、学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した子供の割合は、28.3%である。「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」の 51.0%を合わせ、肯定的に回答した割合は 79.3%である。学年別にみると、「進んで取り組んでいる」と回答した子供の割合は、小4、小6、中2と学年が進むに伴って、36.5%、26.2%、21.9%と減少している。しかし、「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答した割合は、どの学年でも 50%程度となっている。一方、「進んで取り組んでいると思わない」と回答している子供の割合は、学年が進むにつれ増加している。さらに、「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない」と回答した子供の割合を合わせると、中2が 27.2%で、小4の 13.9%の約 2 倍となっている。

表 4-⑤ これまでの調査で「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合 (%)
(H25 は、これまでの設問と選択肢を修正して実施)

H16	H19	H22	H25
18.1	18.6	21.6	28.3

一概には言えないが、平成 22 年度は、授業中、学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合は 21.6%であったが、平成 25 年度は 28.3%になり、6.7 ポイント増加している（表 4-⑤）。

○ 学習への取組の現状と授業の進め方との関連

表 4-8 は、本設問と《授業の進め方：設問 33》をクロス集計した結果である。

表 4-8 を見ると、授業中、学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した子供は、「みんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業をよいと思う」と回答した割合が、74.1%である。「どちらかといえば、よいと思う」の 21.0%を合わせると、95.1%の子供が肯定的な回答をしている。さらに、授業中、学習に「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答した子供も、みんなの発言や発表など、先生が取り上げながら進める授業を「よいと思う」または、「どちらかといえば、よいと思う」と肯定的な回答をした割合は、91.1%である。「進んで取り組んでいると思わない」、「どちらか」というと、進んで取り組んでいると思わない」と回

答した子供は、「どちらかといえば、よいと思う」と回答した割合が、それぞれ 35.2%、49.0%である。

表 4-8 学習への取組と授業の進め方との関連 (%)

	設問 33	よいと思う	どちらかといえば、よいと思う	どちらかといえば、よいとは思わない	よいとは思わない
設問 38					
進んで取り組んでいると思う		74.1	21.0	2.9	2.0
どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う		46.8	44.3	6.8	2.1
どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない		30.1	49.0	15.9	5.0
進んで取り組んでいると思わない		22.0	35.2	18.7	24.1

第4章 学校における学習

4-9 自己の可能性

〈設問39〉あなたは、学校の学習の中で、今は苦手なものでも、努力したらできるようになると思いますか。

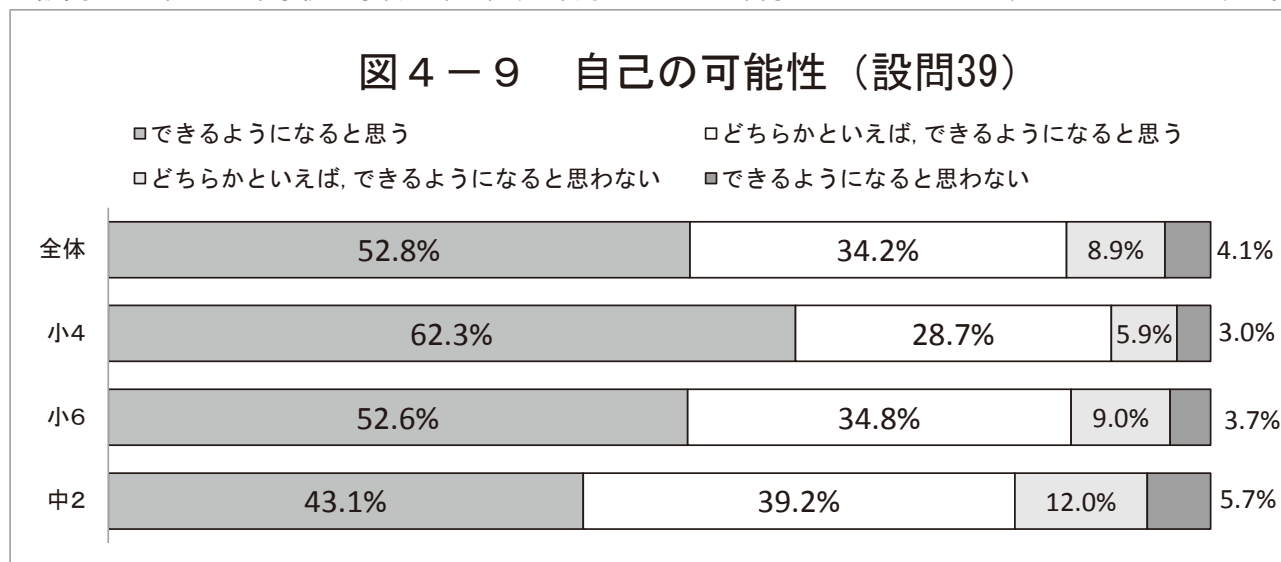


図4-9は、《設問39》の集計結果である。全体では、学校の学習の中で、今は苦手なものでも、努力したら「できるようになると思う」と回答している子供の割合は、52.8%となっている。「どちらかといえば、できるようになると思う」と回答した34.2%を合わせると、肯定的な回答をした割合は87.0%となる。

学年別にみると、「できるようになると思う」と回答した子供の割合が、小4で62.3%と最も多く、小6で52.6%、中2で43.1%と、学年が進むとともに、減少している。一方、「どちらかといえば、できるようになると思う」と回答した子供の割合は、小4で28.7%、小6で34.8%、中2で39.2%と学年が進むとともに増加している。

表4-⑥ これまでの調査で、「できるようになると思う（努力したらできるようになると思う）」と回答した割合（%）
（H25は、選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	52.7	51.5	52.1	52.8

一概には言えないが、平成16年度、平成19年度、平成22年度、25年度の「できるようになると思う」と回答した割合の推移をみると、52.7%、51.5%、52.1%、52.8%とほぼ変わらない（表4-⑥）。

○ 自己の可能性と学習への取組の現状との関連

表4-9は、本設問と《学習への取組の現状：設問38》をクロス集計した結果である。

表4-9を見ると、学校の学習の中で、今は苦手なものでも、努力したら「できるようになると思う」と回答している子供は、授業中、学習に「進んで取り組んでいると思う」と40.8%が回答している。「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」の48.2%を合わせて、肯定的な回答をしている子供の割合は89.0%となっている。

一方、「できるようにならない」と回答している子供は、「進んで取り組んでいると思わない」と回答した割合が43.1%で、「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない」の27.2%を合わせて、否定的な回答をした割合が70.3%となっている。

表4-9 自己の可能性と学習への取組の現状との関連（%）

設問38 \ 設問39	進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない	進んで取り組んでいると思わない
	できるようになると思う	40.8	48.2	9.0
どちらかといえば、できるようになると思う	16.5	60.5	20.2	2.8
どちらかといえば、できるようにならない	8.7	45.1	36.3	10.0
できるようにならない	8.4	21.3	27.2	43.1

第4章 学校における学習

4-10 学校の学習の有用性

〈設問 40〉あなたは、今、学校で学習していることが、今後の生活に役に立つと思いますか。

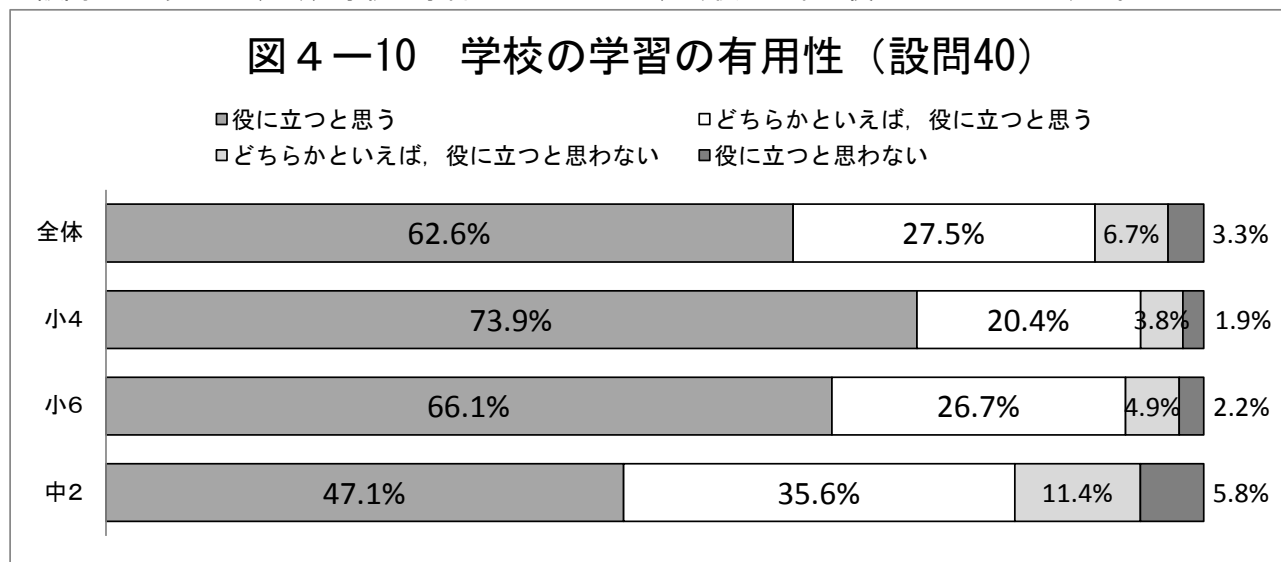


図 4-10 は、《設問 40》の集計結果である。全体では、今、学校で学習していることが、今後の生活に「役に立つと思う」と回答した子供の割合は、62.6%である。「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した27.5%と合わせると、90.1%の子供が肯定的な回答をしている。

学年別にみると、「役に立つと思う」と回答している割合は、小4、小6、中2で73.9%、66.1%、47.1%と学年が進むとともに、減少している。一方「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した子供の割合は、小4、小6、中2で20.4%、26.7%、35.6%と学年進行とともに、増加している。

一概には言えないが、「役に立つとは思わない」と回答した割合は、小4では1.9%にとどまっているが、中2では約3倍の5.8%となっている。平成16年度、19年度、22年度、25年度では、「役に立つと思う」と回答した割合は、52.5%、53.9%、56.2%、62.6%と年々増加している（表4-⑦）。

表 4-⑦ これまでの調査で「今後の生活に役に立つと思う」と回答した割合（%）
（H25は、これまでの設問と選択肢を修正して実施）

	H16	H19	H22	H25
	52.5	53.9	56.2	62.6

○ 学校の学習の有用性と学校以外での全ての学習との関連

表 4-10は、本設問と《学校以外での全ての学習：設問20》をクロス集計した結果である。

表 4-10を見ると、今、学校で学習していることが、今後の生活で「役に立つと思う」と答えている子供の80.1%が、学校以外での勉強や習いごとなどが、社会に出たとき、「役に立つと思う」と回答している。さらに、「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答している17.2%を合わせると、97.3%の子供が肯定的な回答をしている。

一方、学校で学習していることが、「役に立つと思わない」と回答した子供は、学校以外での学習が「役に立つと思う」が28.6%、「役に立つと思わない」と回答した子供が31.7%となっている。

表 4-10 学校の学習の有用性と学校以外での全ての学習との関連（%）

設問 20 \ 設問 40	役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思わない	役に立つと思わない
役に立つと思う	80.1	17.2	1.7	1.0
どちらかといえば、役に立つと思う	39.8	51.4	6.8	1.9
どちらかといえば、役に立つと思わない	26.6	40.1	25.7	7.5
役に立つと思わない	28.6	22.2	17.4	31.7

学校における学習 考察とまとめ

1 教師は、子供が楽しく学校生活を送るために、わかる授業をしましょう

授業に対する理解度について過去の結果と比較すると、「授業がわかる」と回答した子供の割合は平成22年度と比べ11.8ポイント、平成16年度と比べ14.8ポイント増加している。また、授業中に「わかった」「できた」ことが「よくある」と回答した子供の割合や、今学習していることが、今後の生活に「役に立つと思う」と回答した子供の割合も増加している。これらの調査結果は、子供の「わかるようになりたい」または「できるようになりたい」という願いに応えようとする教師の授業改善の努力、そして、習得したことを活用させる授業、学んだことを価値付ける授業を目指してきたことの成果と考えられる（p.45 表4-①, p.50 4-③, p.53 4-⑥, p.54 表4-⑦）。

また、授業の理解度と学校生活の楽しさとの関連をみると、授業が「わかる」と回答した子供の93.4%が、学校生活が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と肯定的に回答している。一方で、授業が「わからない」と回答した子供の37.2%が、学校生活が「楽しくない」または「どちらかといえば、楽しくない」と回答している（p.45 表4-1）。

さらに、授業の満足度と授業の理解度の関連をみると、授業が「楽しい」と回答した子供の96.9%が、授業が「わかる」または「どちらかといえば、わかる」と回答している。一方で、授業が「楽しくない」と回答した子供の43.4%が、授業が「わからない」または「どちらかといえば、わからない」と回答している（p.46 表4-2）。

これらのことから、学校生活の楽しさには様々な要因があると考えられるが、子供の授業の理解度を高めることが、学校生活が楽しくなることにつながると考えられる。

そこで、教師は、これまで以上に授業力を向上させ、子供にとってわかる授業づくりに努めたい。

2 教師は、子供の授業への満足度を高めるために、授業で多くの子供たちの発言や発表を生かし、一生懸命に学習に取り組む学級をつくりましょう

授業の進め方と授業に対する満足度との関連をみると、子供の発言や発表などを先生が取り上げながら進める授業を「よいと思う」と回答した子供の86.9%が、授業が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答している。子供の発言や発表などを先生が取り上げながら進める授業を、「よいと思う」子供は、授業が「楽しい」と肯定的に感じていることがわかる。一方で、「よいと思わない」と回答した子供の70.4%が、授業が「楽しくない」または「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。これは、子供が授業の内容がわからなかったり、発言や発表ができなかったりして、授業に参加できていないために、否定的な回答をしていると考えられる（p.47 表4-3）。

また、教師の授業での工夫と授業の満足度との関連をみると、先生たちが、わかるように工夫して「教えてくれていると思う」と回答した子供の87.5%が、授業が「楽しい」または「どちらかといえば、楽しい」と回答している。わかるように授業が工夫され、子供が理解できる授業が実施されていると、子供は授業が楽しいと肯定的な回答をしていることがわかる。一方で、工夫して「教えてくれていると思わない」と回答した子供は、授業が「楽しくない」と回答した割合が66.1%で、「どちらかといえば、楽しくない」の18.5%を合わせて、否定的に回答した割合は84.6%である。この子供たちは、授業内容が理解できていないために、教師が「工夫していない」または「授業が楽しくない」と回答している可能性があると考えられる（p.48 表4-4）。

さらに、学ぼうとする学級の雰囲気と授業の満足度との関係性をみると、学級が、一生懸命授業に「取り組んでいると思う」と回答した子供の52.6%が「授業が楽しい」と回答している。「どちらかといえば、楽しい」と回答した35.2%を合わせると、87.8%の子供が肯定的な回答をしている。一方で、「取り組んでいると思わない」と回答した子供の45.9%が、授業が「楽しくない」と回答している（p.49 表4-5）。

これらのことから、学習内容がよく理解できるように工夫された授業や、子供たちの発言や発表などを尊重する授業が行われ、学ぼうという学級の雰囲気があることが、子供たちの授業への満足度にかかわっていることがわかる。

そこで教師は、授業への満足度を高めるために、どんな発言や発表も尊重する授業を行い、一生懸命に学習に取り組む学級をつくっていききたい。

3 教師は、一人一人の子供に肯定的な学習経験をさせるために、子供の発言や発表を広め、互いに認め合う授業をつくりましょう

わかった経験と授業に対する満足度との関係を見ると、授業中に「わかった」または「できた」と思うことが「よくある」子供のうち、「授業が楽しい」と回答した割合は48.2%、「どちらかといえば、楽しい」と回答した割合を合わせると86.3%となる。一方で、授業中に「わかった」または「できた」と思うことが「まったくない」と回答した子供のうち、授業が「楽しくない」と回答した子供は65.5%、「どちらかといえば、楽しくない」の18.0%を合わせると、否定的な回答をした子供が83.5%となる（p. 50 表4-6）。また、授業中に認められたことが「よくある」と回答した子供の62.6%が、授業中に学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答している。「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答している31.7%を合わせると、94.3%の子供が授業中に学習に「進んで取り組んでいると思う」と肯定的な回答をしている（p. 51 表4-7）。

さらに、授業中、学習に「進んで取り組んでいると思う」と回答した子供の95.1%、「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」と回答した子供の91.1%が、みんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業を「よいと思う」または「どちらかといえば、よいと思う」と肯定的な回答をしている。加えて、授業に「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない」と回答した子供の79.1%が、また、「進んで取り組んでいると思わない」と回答した子供の57.2%がみんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業を「よいと思う」または「どちらかといえば、よいと思う」と肯定的にとらえている（p. 52 表4-8）。

これらのことから、授業における肯定的な学習経験が、子供たちの満足度や学習意欲を高めると考えられる。同時に、全体における割合は低いものの、授業で「わかった」または「できた」と思うことが少ない子供がおり、そのうち多くの子供が授業が「楽しくない」と感じている。

そこで、教師は、子供の発言や発表を広め、つなげ、互いに認め合う関係をつくり出す授業を行い、「一人一人の子供に肯定的な学習経験をさせる授業」を具現化するように工夫・努力していききたい。

4 教師は、「未来を拓く力」を子供につけるために、成長の喜びを味わわせ未来の姿と結びつける授業をつくりましょう

学校の学習の中で、今は苦手でも、努力したら「できるようになると思う」と回答している子供のうち89.0%が、授業中、学習に「進んで取り組んでいると思う」または「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う」という肯定的な回答をしている。一方で、「できるようになると思わない」と回答している子供のうち70.3%が、「進んで取り組んでいると思わない」または「どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない」という否定的な回答をしている（p. 53 表4-9）。

また、今、学校で学習していることが、今後の生活で「役に立つと思う」と回答している子供のうち97.3%が、学校以外での勉強や習いごとなどが、社会に出たとき、「役に立つと思う」または「どちらかといえば、役に立つと思う」という肯定的な回答をしている（p. 54 表4-10）。

これらのことから、自分の変化や成長の可能性を信じている子供は、より積極的な気持ちで授業に取り組んでいて、逆に自分の変化や成長をあきらめている子供は、授業にも積極的に取り組んでいないことがわかる。さらに、授業での学びに積極的な意味を見出し、前向きに生活している子供は、他の場面での学びに対しても積極的な意味を見出し、希望をもちながら生活していることもわかる。

そこで、教師は、子供に成長や成功する喜びを味わわせるような授業を行うことが望まれる。さらに、授業での学びや成長の実感が、これからの生活のどこにつながっていくのか、未来の姿を想像させて関連づけるような授業を行っていききたい。このような授業を継続して実践していくことで、「未来を拓く力」が子供についていくことを期待したい。

終 章

子供たちの姿や思いは変わったのか

本章では、章ごとに取り上げた第14次・第15次・第16次共同研究の調査結果との経年比較の中から、特徴的な変化を取り上げ、子供たちの生活や学習の姿（実態）や思い（意識）が、以前と比べてどのように変わったのか、また、今日的な課題についてどのように取り組んでいけばよいのかということについて考察します。

1 子供たちの「家庭・地域社会における生活」

情報機器の適切な活用の仕方を考え、家庭や地域社会との関わりを深めていくことで、学ぶことの楽しさや自己有用感を感じている子供が増えている

4回の調査を経年比較すると、子どもたちの家庭・地域社会における生活について、基本的な生活習慣の実態は、さらに改善の傾向がみられる（p. 6 表1-①, p. 8 表1-③, p. 10 表1-④, p. 15 表1-⑥）。家庭生活が楽しく、家族との会話が多いと回答する子供たちが、回を重ねるごとに増えてきている。ただ、就寝時刻については、これまで早く就寝する傾向にあったが、今回の調査では少し遅くなっている（p. 7 表1-②）。

情報社会との関わりでは、8割の子供が、学校のある日に、家で情報機器（パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機など）を30分以上使っており、子供たちは毎日の生活の中で情報機器との何らかの関わりをもっている。一方、情報機器を利用する時間が長くなることで、睡眠時間や自主的な学習の時間が削られていることや、家族との約束事が守れなくなっていることがわかる（p. 12 図1-7, p. 12 表1-7, p. 13 表1-8, p. 17 表1-b）。

次に、家族と地域社会との関わりについて、調査をみると、家族との関わりについては、家庭生活が「楽しい」と回答した子供の9割以上が、学校生活が「楽しい」と回答している（p. 8 表1-3）。そして、学校生活が「楽しい」と感じる子供は、家族との会話が多い（p. 10 表1-5）。

また、子供は地域活動へ参加することで、地域の人から学ぶことが「楽しい」と感じている（p. 15 表1-10）。

これらのことから、家庭では、情報機器を利用する目的や時間について考え、子供たちが情報機器と適切な関わり方ができるようにするとともに、家族との会話の機会をさらに多くしていく。そして、地域では、子供たちが積極的に活動に参加し、地域の人から学ぶことの楽しさや自己有用感を得ることができるようにすることが大切である。

2 子供たちの「家庭・地域社会における学習」

家庭学習への意識が高まってきているとともに、学校以外でのすべての学習の有用性を感じている子供が増えている

4回の調査を経年比較すると、家庭学習に対する必要感について、「必要だと思う」と回答している割合が増加している（p. 23 表2-②）。また、家庭学習を「ほとんどしない」と回答している割合が減少しており（p. 19 表2-①）、家庭学習への意識が高まってきている。

家庭学習におけるインターネットの利用について、学年が進むにつれて「よく使う」「時々使う」と回答している割合が増加する傾向にある（p. 22 図2-4）。

一方、学校以外でのすべての学習の有用性について、社会に出たときに「役に立つと思う」と回答している割合が増加している（p. 28 表2-⑤）。それに対し、地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶ機会は、学年が進むにつれて減少している（p. 26 図2-8）。しかし、地域から学ぶ機会がある子供たちは、地域の人から学ぶことの楽しさを感じている（p. 26 表2-8）。

これらのことから、学校は、インターネットを利用した自主学習の在り方を考えたり、地域から学ぶ機会を確保したりするなど、家庭や地域と連携して子供たちを支援していくことが大切である。

3 子供たちの「学校における生活」

友人を支えたり、友人から支えられたりする経験を積むことで、自己有用感、自己肯定感が高まり、学校が楽しいと感じる子供が増えている

過去の調査を経年比較すると、「行事への参画意識」について「進んで取り組んでいると思う」と回答した割合、また「自己有用感」について誰かの役に立ったと思うことが「よくある」と回答した割合が増加している（p. 39 表3-⑤, p. 40 表3-⑥）。このような回答をした子供は、「友人を支えた経験」の割合が高いことがわかる（p. 43 表3-b, p. 40 表3-9）。

さらに、友人を支えたり、友人から支えられたりする経験は、相互に関わり合っており（p. 37 表3-6）、そのような経験をしている子供は、自己肯定感が高いことがうかがわれる。また、自己肯定感が高い子供ほど学校生活が楽しいと感じている傾向がある（p. 41 表3-10）。

これらのことから、友人を支えることは、自ら他者に積極的に関わろうとすることであり、誰かの役に立っていると感じる自己有用感の高まりにつながると考えられる。また一方で支えられた子供は、他者から大切にされていると感じることができ、自己肯定感も高まっていく。だからこそ教師は、子供が友人と一緒に行事に取り組んだり、互いに支え合う気持ちをもったりすることができる場を増やすことが大切である。

4 子供たちの「学校における学習」

教師の授業改善や指導の工夫がされることで、学習に満足する子供が増えている

4回の調査を経年比較すると、授業に対する理解度は、回答の選択肢を修正したため大きく向上しているが、肯定的な回答をした割合にはほとんど変化がみられない (p. 45 表4-①)。しかし、授業に対する満足度については、肯定的な回答をした割合が増加している (p. 46 表4-②)。また、わかった経験や認められた経験が「よくある」と回答した割合や学習の有用性について肯定的に回答した割合が増加していることから、教師の授業改善や指導の工夫、学級の雰囲気、子供の理解度、満足度につながっていると考えられる (p. 50 表4-③, p. 51 表4-④, p. 54 表4-⑦)。

しかし、苦手な学習でも、努力したらできるようになるという自己の可能性に肯定的な回答をした割合には変化がみられない (p. 53 表4-⑥)。

これらのことから、教師は、子供一人一人を理解し、「できたこと」「やりとげられたこと」については称賛し、「やればできる」という体験を積み重ねながら子供の自己肯定感を高めていく必要がある。

5 終わりに

本次の調査研究は、指定都市に暮らす子供たちの姿を、過去の共同研究の成果を踏まえつつ、過去のデータとの経年変化から捉えるとともに、これからの時代を視野に、今日的教育課題についても捉えるようにした。

今回の調査は、学習指導要領全面実施から小学校で2年、中学校で1年が経過している時点での調査である。調査結果によると、「学校が楽しい」と回答する子供や、公共物を大切に扱う子供が増えていることや、「授業がわかる」、「授業が楽しい」と回答する子供が増えている。このことは、授業改善や児童生徒の生活指導など、各自治体の教育施策や学校現場における不断の努力が成果として表れていると言えよう。しかし、一方で、スマートフォンの普及などの情報社会の進展により、子供たちの生活にはこれまでにない変化が表れ、新たな課題が生じつつある。また、今後、グローバル化や少子高齢化など社会が急速に進んでいく中であるからこそ、学校と地域、地域と子供の関わりがより重要性を増してくるのではないかと推測できる結果も出ている。

このように本調査を通して、変わることのない教育課題と今日的な教育課題の実状を明らかにすることができたと考える。今後の教育活動の改善のための資料の一つとして、活用していただきたい。

最後に、本次共同研究にあたり、多大なご支援とご指導をいただいた加盟機関の所長をはじめ、調査に協力していただいた学校、各教育研究所、教育センターの皆様、並びに福岡教育大学教授大坪靖直先生に感謝申し上げます。

資 料

指定都市教育研究所連盟
第 17 次 共同 研究

しょう ちゅうがくせい ちようさ 小・中学生のアンケート調査

平成 25 年 9 月

このアンケートは、19 の政令指定都市に住む子どもたちが、生活の中で感じたり考えたりしていることを知るために行うもので、成績には関係がありません。一人ひとりのことを調べるためのものでもありません。あなたのありのままの気持ちや考えを答えてください。

ア. あなたが住んでいる都市はどこですか。

- | | | | |
|--------|---------|----------|--------|
| 01 札幌市 | 02 仙台市 | 03 さいたま市 | 04 千葉市 |
| 05 川崎市 | 06 横浜市 | 07 相模原市 | 08 新潟市 |
| 09 静岡市 | 10 浜松市 | 11 名古屋市 | 12 京都市 |
| 13 大阪市 | 14 堺市 | 15 神戸市 | 16 岡山市 |
| 17 広島市 | 18 北九州市 | 19 福岡市 | |

イ. あなたは、何年生ですか。

- 1 小学 4 年生 2 小学 6 年生 3 中学 2 年生

ウ. あなたは、つぎのうちどちらですか。

- 1 男 2 女

答え方

当てはまるものを、**一つだけ選んでその番号を** の中に書いてください。

※数字だけで、○は書かなくてよいです。(例) ④ならば、 と書いてください。

《以下、設問別の単純集計結果 (%)》

1. あなたは元気に生活していますか。

	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 2 年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①元気に生活している	75.7	74.2	75.0	71.4	68.3	69.9	63.5	60.7	62.2	70.3	67.8	69.1
②どちらかといえば、元気に生活している	21.8	23.9	22.8	25.2	29.1	27.1	30.6	34.5	32.5	25.8	29.1	27.4
③どちらかといえば、元気に生活していない	1.9	1.6	1.7	2.7	2.2	2.5	4.3	3.7	4.0	3.0	2.5	2.7
④元気に生活していない	0.6	0.4	0.5	0.7	0.4	0.5	1.6	1.1	1.3	0.9	0.6	0.8

2. あなたは、次の日学校があるとき、だいたい何時ごろまでに寝ますか。

	小学校 4 年			小学校 6 年			中学校 2 年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①午後 10 時までに寝る	67.9	71.3	69.6	48.4	40.5	44.5	12.2	7.9	10.1	43.1	40.4	41.8
②午後 11 時までに寝る	23.8	23.5	23.6	34.6	39.6	37.1	36.5	31.2	34.0	31.6	31.5	31.6
③午後 0 時までに寝る	5.5	3.8	4.7	11.5	14.3	12.8	31.3	36.7	33.9	15.9	18.0	16.9
④午前 1 時までに寝る	1.6	0.9	1.3	3.6	3.9	3.8	13.3	16.4	14.8	6.1	6.9	6.5
⑤午前 1 時過ぎまでに寝る	1.3	0.4	0.9	1.9	1.8	1.9	6.7	7.7	7.2	3.3	3.2	3.2

3. あなたは、家での生活が楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①楽しい	72.9	77.2	75.0	66.0	68.8	67.4	49.9	55.9	52.8	63.1	67.5	65.2
②どちらかといえば楽しい	22.1	19.3	20.7	27.8	25.3	26.6	37.0	33.3	35.2	28.9	25.9	27.4
③どちらかといえば楽しくない	3.4	2.6	3.0	4.8	4.7	4.7	9.6	8.0	8.8	5.9	5.1	5.5
④楽しくない	1.6	0.9	1.3	1.4	1.3	1.3	3.5	2.7	3.1	2.2	1.6	1.9

4. あなたは、家の人と食事をしていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①朝食も夕食も家の人と食べる	76.7	77.3	77.0	67.1	65.4	66.3	51.9	51.4	51.7	65.3	64.9	65.1
②朝食だけ家の人と食べる	2.8	1.8	2.3	4.3	3.3	3.8	4.0	2.9	3.5	3.7	2.7	3.2
③夕食だけ家の人と食べる	17.4	18.9	18.1	24.3	28.5	26.4	35.3	39.1	37.2	25.6	28.7	27.1
④ほとんど一人で食べる	3.2	2.0	2.6	4.3	2.7	3.5	8.7	6.5	7.7	5.4	3.7	4.5

5. あなたは、家の人と、毎日の生活のことや学校のことなどについて話をしていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よく話をしている	38.5	53.2	45.6	33.8	50.7	42.1	25.0	44.1	34.3	32.5	49.4	40.8
②ときどき話をしている	44.4	38.5	41.5	44.6	37.9	41.3	42.1	39.2	40.7	43.7	38.5	41.2
③あまり話をしていない	12.8	7.2	10.1	16.7	9.4	13.1	24.1	13.3	18.9	17.8	9.9	13.9
④まったく話をしていない	4.3	1.1	2.7	4.9	2.0	3.5	8.8	3.3	6.2	6.0	2.1	4.1

6. あなたは、友だちに連絡や相談事など伝えたいことがあるとき、どのような方法で伝えることが多いですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①直接話をする	70.8	67.6	69.3	66.9	59.3	63.2	47.8	50.3	49.0	62.0	59.2	60.6
②紙に書いてわたす	1.4	3.5	2.4	1.3	3.7	2.5	0.7	2.1	1.4	1.2	3.1	2.1
③電話で話をする	24.9	23.9	24.4	25.9	19.5	22.8	15.9	7.1	11.7	22.3	17.0	19.7
④メールを送る	2.9	5.0	3.9	5.9	17.5	11.6	35.5	40.5	37.9	14.5	20.7	17.5

7. あなたは、学校のある日に家で情報機器（パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機など）を一日どれくらい使っていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①ほとんど使っていない	22.8	35.8	29.2	17.7	24.0	20.8	13.5	16.0	14.7	18.0	25.4	21.6
②30分くらい使っている	21.9	31.5	26.6	18.7	25.4	22.0	12.7	16.4	14.5	17.8	24.6	21.1
③1時間くらい使っている	26.5	21.1	23.8	27.7	24.7	26.2	26.8	22.7	24.8	27.0	22.8	25.0
④2時間くらい使っている	15.5	7.6	11.7	20.4	14.5	17.5	24.8	21.5	23.2	20.2	14.4	17.4
⑤3時間以上使っている	13.3	4.0	8.8	15.5	11.4	13.5	22.1	23.5	22.8	16.9	12.8	14.9

8. あなたは、情報機器（パソコン、携帯電話、スマートフォン、ゲーム機など）を使うときに、家族と約束事を守っていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①守っている	46.2	58.7	52.3	41.3	49.9	45.5	32.3	37.9	35.0	40.0	49.0	44.4
②どちらかといえば、守っている	28.4	21.2	24.9	25.8	22.1	24.0	26.2	27.4	26.8	26.8	23.5	25.2
③どちらかといえば、守っていない	7.2	3.7	5.5	7.4	4.7	6.1	8.8	6.8	7.8	7.8	5.0	6.4
④守っていない	2.8	1.1	2.0	2.5	1.2	1.9	3.2	2.4	2.8	2.8	1.5	2.2
⑤約束事はない	15.4	15.2	15.3	23.0	22.1	22.5	29.6	25.5	27.6	22.6	20.9	21.8

9. あなたは、ふだん近所の人とあいさつをしたり、話をしたりしていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①あいさつをしたり、話をしたりしている	42.4	52.6	47.4	35.6	42.2	38.8	28.9	34.0	31.4	35.7	43.1	39.3
②あいさつだけはしている	47.8	41.7	44.8	54.2	51.4	52.8	57.2	56.8	57.0	53.0	49.9	51.5
③近所の人を知っているが、何もしていない	6.0	3.2	4.6	7.0	4.4	5.7	9.5	6.2	7.9	7.5	4.6	6.1
④近所の人を知らない	3.8	2.6	3.2	3.3	1.9	2.6	4.4	2.9	3.7	3.8	2.5	3.1

10. あなたは、地域の行事や活動（お祭り、レクリエーション、スポーツ、奉仕活動など）に参加していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よく参加している	44.5	40.4	42.5	38.2	32.9	35.6	23.1	17.1	20.2	35.4	30.4	32.9
②ときどき参加している	32.6	39.8	36.1	35.0	42.8	38.8	38.8	45.1	41.8	35.5	42.5	38.9
③あまり参加していない	14.2	13.9	14.0	18.0	17.6	17.8	23.3	25.8	24.5	18.5	19.0	18.7
④まったく参加していない	8.7	5.9	7.3	8.8	6.7	7.8	14.8	12.0	13.4	10.7	8.1	9.4

11. あなたは、学校のある日、だいたいどのくらい家で勉強していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①2時間以上	12.8	13.8	13.3	13.0	15.9	14.5	9.3	10.1	9.7	11.7	13.4	12.5
②1時間以上～2時間より少ない	28.5	32.2	30.3	30.0	36.3	33.1	26.1	29.2	27.6	28.2	32.7	30.4
③30分以上～1時間より少ない	35.2	35.2	35.2	33.6	30.9	32.3	25.4	25.9	25.6	31.4	30.7	31.1
④30分以内	17.6	15.6	16.6	16.7	12.4	14.6	16.4	15.1	15.8	16.9	14.3	15.6
⑤ほとんどしない	6.0	3.2	4.6	6.7	4.4	5.6	22.8	19.7	21.3	11.7	8.9	10.3

12. あなたは、家庭学習のことで、家の人からアドバイスをしてもらいますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくしてもらう	34.2	37.6	35.8	22.0	22.4	22.2	14.0	14.3	14.1	23.4	24.9	24.1
②ときどきしてもらう	43.3	45.2	44.2	44.9	46.4	45.6	37.2	37.4	37.3	41.9	43.1	42.5
③あまりしてもらわない	13.5	12.3	12.9	21.4	21.1	21.3	26.4	30.5	28.4	20.4	21.2	20.8
④まったくしてもらわない	9.0	5.0	7.1	11.8	10.1	10.9	22.4	17.8	20.2	14.3	10.8	12.6

13. あなたは、学校や学習塾（家庭教師を含む）の宿題以外にも自分で考えて勉強していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくしている	24.8	28.6	26.7	22.9	26.2	24.5	14.5	11.6	13.1	20.8	22.3	21.6
②ときどきしている	31.5	39.2	35.3	29.5	35.9	32.6	32.0	36.1	34.0	31.0	37.1	34.0
③あまりしていない	24.1	22.7	23.4	26.1	24.9	25.5	30.4	32.7	31.5	26.8	26.7	26.7
④まったくしていない	19.5	9.5	14.6	21.5	13.0	17.3	23.1	19.6	21.4	21.4	13.9	17.7

14. あなたは、家で勉強するとき、インターネットを使っていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よく使う	5.6	4.5	5.0	7.7	7.7	7.7	9.5	9.0	9.2	7.6	7.0	7.3
②ときどき使う	13.2	14.1	13.6	22.4	27.9	25.1	24.6	29.8	27.1	20.0	23.9	21.9
③あまり使わない	19.6	23.2	21.3	25.9	30.3	28.0	25.7	28.9	27.3	23.7	27.5	25.6
④まったく使わない	61.6	58.3	60.0	44.1	34.1	39.2	40.2	32.4	36.4	48.6	41.6	45.2

15. あなたは、家で勉強することは必要だと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①必要だと思う	58.9	71.3	64.9	50.8	58.0	54.4	51.3	57.3	54.2	53.7	62.2	57.8
②どちらかといえば、必要だと思う	30.5	24.4	27.5	35.3	34.1	34.7	35.5	35.0	35.3	33.8	31.1	32.5
③どちらかといえば、必要だと思わない	5.7	3.4	4.6	8.1	5.6	6.9	6.8	4.5	5.7	6.9	4.5	5.7
④必要だと思わない	5.0	1.0	3.0	5.8	2.3	4.1	6.4	3.2	4.9	5.7	2.2	4.0

16. あなたは、週にどのくらい、学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①週に5日以上	8.0	8.3	8.2	7.7	8.3	8.0	4.9	3.0	4.0	6.9	6.6	6.8
②週に3日～4日	12.8	14.5	13.6	13.5	14.7	14.1	25.2	23.5	24.4	17.1	17.5	17.2
③週に1日～2日	31.0	30.5	30.7	33.6	33.7	33.6	35.1	36.4	35.7	33.2	33.5	33.4
④していない	48.2	46.7	47.5	45.2	43.3	44.3	34.7	37.0	35.9	42.8	42.4	42.6

17. あなたは、学習塾（家庭教師を含む）で勉強することについてどう思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①現在、学習塾（家庭教師を含む）で勉強しているし、これからも勉強したい	32.2	36.4	34.3	37.0	41.7	39.3	47.6	49.1	48.3	38.8	42.3	40.5
②現在、学習塾（家庭教師を含む）で勉強していないが、できれば勉強したい	31.8	40.1	35.9	25.3	29.2	27.2	20.6	22.9	21.7	25.9	30.8	28.3
③現在、学習塾（家庭教師を含む）で勉強しているが、できればやめたい	9.4	5.2	7.3	10.9	7.9	9.4	9.5	7.7	8.6	9.9	6.9	8.5
④現在、学習塾（家庭教師を含む）で勉強していないし、これからも勉強したいと思わない	26.6	18.3	22.5	26.9	21.3	24.1	22.4	20.3	21.3	25.3	19.9	22.7

18. あなたは、地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶ機会がありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくある	12.9	12.3	12.6	7.6	6.7	7.1	3.9	3.0	3.5	8.2	7.4	7.8
②ときどきある	30.0	34.7	32.3	26.8	28.8	27.8	14.6	15.3	14.9	23.9	26.4	25.1
③あまりない	25.9	27.5	26.7	31.2	36.0	33.6	31.5	35.1	33.3	29.6	32.9	31.2
④まったくない	31.3	25.5	28.4	34.3	28.6	31.5	50.0	46.6	48.3	38.4	33.3	35.9

19. あなたは、地域の人（ゲストティーチャーなどを含む）から学ぶことが楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①楽しい	28.6	36.8	32.6	18.6	20.3	19.4	8.9	8.1	8.5	18.8	21.9	20.3
②どちらかといえば、楽しい	26.5	26.0	26.2	26.4	29.6	28.0	18.4	21.0	19.7	23.8	25.7	24.7
③どちらかと言えば、楽しくない	6.2	3.8	5.0	8.9	7.6	8.3	8.2	6.0	7.1	7.8	5.8	6.8
④楽しくない	4.9	1.8	3.4	5.0	2.9	4.0	7.3	3.5	5.5	5.7	2.7	4.2
⑤機会がないから、わからない	33.8	31.5	32.7	41.1	39.6	40.4	57.2	61.4	59.2	43.9	43.9	43.9

20. あなたは、学校以外での勉強や習いごとなどが、社会に出たとき、役に立つと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①役に立つと思う	67.3	73.5	70.3	66.6	69.2	67.9	53.1	52.2	52.7	62.5	65.2	63.8
②どちらかと言えば、役に立つと思う	24.1	20.9	22.5	26.3	25.6	26.0	34.7	39.0	36.8	28.3	28.3	28.3
③どちらかと言えば、役に立つと思わない	4.8	3.8	4.3	4.7	4.0	4.3	7.7	6.6	7.2	5.7	4.7	5.2
④役に立つと思わない	3.8	1.9	2.9	2.4	1.2	1.8	4.5	2.2	3.4	3.6	1.8	2.7

21. あなたは、学校生活が楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①楽しい	57.7	63.6	60.6	55.5	58.5	57.0	55.6	53.8	54.7	56.3	58.7	57.4
②どちらかといえば、楽しい	32.0	29.0	30.5	34.3	32.2	33.3	32.7	33.6	33.2	33.0	31.6	32.3
③どちらかといえば、楽しくない	6.5	6.0	6.3	7.3	6.9	7.1	7.6	8.0	7.8	7.2	7.0	7.1
④楽しくない	3.7	1.5	2.7	2.8	2.4	2.6	4.1	4.6	4.3	3.5	2.8	3.2

22. あなたは、学校でのきまりを守っていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①守っている	33.0	50.8	41.7	25.8	38.5	32.0	45.9	51.3	48.5	34.7	46.7	40.6
②どちらかといえば、守っている	54.0	45.1	49.7	57.2	53.7	55.4	45.6	43.5	44.6	52.4	47.6	50.0
③どちらかといえば、守っていない	10.8	3.9	7.4	14.4	7.2	10.9	6.8	4.3	5.6	10.7	5.1	8.0
④守っていない	2.2	0.2	1.2	2.6	0.7	1.6	1.7	0.9	1.3	2.2	0.6	1.4

23. あなたは、そうじ道具など、みんなが使うものを大切にみつめていますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①大切にみつめている	57.8	79.8	68.6	48.1	66.7	57.2	54.4	65.7	59.8	53.4	70.8	61.9
②どちらかといえば、大切にみつめている	36.7	19.0	28.1	44.5	31.0	37.9	39.6	31.9	35.9	40.3	27.3	34.0
③どちらかといえば、大切にみつめていない	4.5	1.0	2.8	6.2	2.0	4.1	4.7	1.9	3.3	5.2	1.6	3.4
④大切にみつめていない	0.9	0.2	0.5	1.2	0.3	0.8	1.4	0.5	1.0	1.2	0.3	0.8

24. あなたは、学級の当番やそうじなどの活動に責任をもって取り組んでいますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①責任をもって取り組んでいる	44.0	59.2	51.4	38.2	50.3	44.1	41.3	47.9	44.5	41.1	52.5	46.7
②どちらかといえば、責任をもって取り組んでいる	45.6	37.5	41.6	49.7	45.2	47.5	45.8	45.5	45.6	47.0	42.7	44.9
③どちらかといえば、責任をもって取り組んでいない	8.1	3.0	5.6	10.1	3.9	7.1	10.1	5.5	7.9	9.4	4.1	6.8
④責任をもって取り組んでいない	2.4	0.4	1.4	2.0	0.6	1.3	2.9	1.1	2.0	2.4	0.7	1.6

25. あなたは、学校生活の中で、友だちから励まされたり、勇気づけられたりすることがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくある	26.6	39.2	32.8	23.6	37.4	30.4	25.1	45.7	35.1	25.1	40.7	32.7
②ときどきある	44.4	43.4	43.9	48.1	46.6	47.4	47.1	41.9	44.6	46.6	44.1	45.3
③あまりない	20.8	13.8	17.4	21.5	13.1	17.4	19.8	9.6	14.9	20.7	12.2	16.6
④まったくない	8.2	3.6	5.9	6.7	2.8	4.8	8.0	2.7	5.4	7.6	3.1	5.4

26. あなたは、学校生活の中で、友だちを励ましたり、勇気づけたりすることがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくある	24.9	36.1	30.4	17.8	29.1	23.4	17.3	32.3	24.6	20.0	32.5	26.1
②ときどきある	46.5	49.6	48.0	49.7	55.7	52.7	46.7	53.1	49.8	47.7	52.8	50.2
③あまりない	21.2	12.1	16.8	25.1	13.4	19.4	27.6	12.3	20.2	24.6	12.6	18.8
④まったくない	7.4	2.1	4.8	7.3	1.8	4.6	8.4	2.3	5.4	7.7	2.1	5.0

27. あなたは、担任の先生とどのくらい話をしますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よく話をする	26.6	34.5	30.4	21.0	22.3	21.7	17.2	16.8	17.0	21.6	24.6	23.1
②ときどき話をする	48.4	48.9	48.6	50.1	53.0	51.5	46.8	49.4	48.0	48.5	50.5	49.4
③あまり話をしない	21.5	15.3	18.5	25.3	21.7	23.5	29.5	27.8	28.7	25.4	21.5	23.5
④まったく話をしない	3.6	1.3	2.4	3.5	3.0	3.3	6.4	6.0	6.2	4.5	3.4	3.9

28. あなたは、学校や学年の行事に、進んで取り組んでいると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①進んで取り組んでいると思う	36.9	45.4	41.1	27.4	32.5	29.9	24.0	30.6	27.2	29.5	36.2	32.7
②どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	46.7	45.4	46.1	49.5	50.8	50.1	46.0	48.6	47.2	47.4	48.3	47.8
③どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない	12.8	7.8	10.3	18.3	14.6	16.5	22.4	16.9	19.8	17.8	13.1	15.5
④進んで取り組んでいると思わない	3.6	1.4	2.5	4.8	2.1	3.4	7.6	3.9	5.8	5.3	2.4	3.9

29. あなたは、学校生活の中で、誰かの役に立ったと思うときがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくある	19.8	21.1	20.4	15.6	14.4	15.0	12.1	10.3	11.2	15.8	15.3	15.6
②ときどきある	48.0	55.1	51.5	50.9	58.8	54.8	46.9	52.8	49.8	48.6	55.7	52.1
③あまりない	23.2	20.3	21.8	26.0	23.3	24.7	31.9	31.5	31.7	27.0	24.9	26.0
④まったくない	9.0	3.5	6.3	7.5	3.5	5.6	9.1	5.4	7.3	8.5	4.1	6.4

30. あなたは、学校生活の中で、まわりの人から大切にされていると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①大切にされていると思う	26.0	31.0	28.4	18.6	21.6	20.1	15.5	16.5	16.0	20.1	23.1	21.5
②どちらかといえば、大切にされていると思う	46.8	49.2	48.0	53.6	54.8	54.2	54.1	58.4	56.2	51.5	54.1	52.8
③どちらかといえば、大切にされていると思わない	17.8	14.8	16.4	19.9	18.2	19.1	22.3	18.5	20.5	20.0	17.2	18.6
④大切にされていると思わない	9.4	5.0	7.2	7.8	5.4	6.6	8.1	6.7	7.4	8.4	5.7	7.1

31. あなたは、学校の授業がわかりますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①わかる	56.2	54.3	55.3	57.4	50.3	53.9	37.2	28.1	32.8	50.5	44.6	47.6
②どちらかといえば、わかる	34.7	37.3	36.0	34.9	39.8	37.3	43.5	49.3	46.3	37.6	42.0	39.7
③どちらかといえば、わからない	6.6	6.9	6.7	6.0	8.4	7.2	14.1	16.9	15.5	8.8	10.6	9.7
④わからない	2.6	1.5	2.0	1.7	1.5	1.6	5.2	5.7	5.4	3.1	2.8	3.0

32. あなたは、学校の授業が楽しいですか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①楽しい	41.8	49.3	45.4	30.9	30.4	30.7	21.1	15.4	18.4	31.4	31.9	31.6
②どちらかといえば、楽しい	39.9	38.8	39.4	42.3	45.0	43.6	40.5	44.0	42.2	40.9	42.6	41.8
③どちらかといえば、楽しくない	11.6	9.0	10.4	17.7	17.5	17.6	24.1	27.2	25.6	17.8	17.8	17.8
④楽しくない	6.7	2.9	4.8	9.0	7.1	8.1	14.3	13.4	13.9	10.0	7.7	8.9

33. あなたは、みんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業をよいと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よいと思う	55.8	62.4	59.1	51.3	51.9	51.6	43.8	38.0	41.0	50.4	51.0	50.7
②どちらかといえば、よいと思う	33.7	30.9	32.4	38.1	39.3	38.7	40.7	45.9	43.2	37.5	38.6	38.0
③どちらかといえば、よいと思わない	6.8	4.6	5.7	7.3	6.7	7.0	9.8	11.3	10.5	8.0	7.5	7.7
④よいと思わない	3.6	2.0	2.8	3.3	2.1	2.7	5.7	4.8	5.2	4.2	2.9	3.6

34. あなたは、先生たちが、わかるように工夫して教えてくれていると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①教えてくれていると思う	66.6	73.9	70.2	58.4	57.4	57.9	42.1	34.4	38.4	55.8	55.5	55.7
②どちらかといえば、教えてくれていると思う	26.7	22.3	24.5	32.3	34.6	33.5	43.6	50.9	47.1	34.1	35.7	34.9
③どちらかといえば、教えてくれていると思わない	4.7	3.1	3.9	6.5	5.7	6.1	9.9	10.3	10.1	7.0	6.3	6.7
④教えてくれていると思わない	2.0	0.7	1.4	2.8	2.3	2.5	4.4	4.4	4.4	3.0	2.5	2.8

35. あなたの学級は、一生懸命授業に取り組んでいると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①取り組んでいると思う	39.6	44.6	42.0	33.0	33.3	33.1	25.2	21.3	23.3	32.6	33.2	32.9
②どちらかといえば、取り組んでいると思う	45.7	45.0	45.3	49.8	49.8	49.8	49.6	52.4	51.0	48.4	49.0	48.7
③どちらかといえば、取り組んでいると思わない	11.3	8.8	10.1	13.5	14.1	13.8	18.6	20.7	19.6	14.4	14.4	14.4
④取り組んでいると思わない	3.4	1.7	2.6	3.8	2.7	3.3	6.5	5.6	6.1	4.6	3.3	4.0

36. あなたは、授業中に、「わかった」「できた」と思うことがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくある	57.4	58.1	57.7	55.5	52.0	53.8	40.9	33.3	37.3	51.4	48.1	49.8
②ときどきある	33.9	35.7	34.8	36.1	40.2	38.1	45.9	52.7	49.2	38.6	42.7	40.6
③あまりない	6.3	5.4	5.9	6.4	6.7	6.5	9.9	11.8	10.8	7.5	7.9	7.7
④まったくない	2.4	0.8	1.6	2.1	1.1	1.6	3.2	2.2	2.7	2.5	1.3	1.9

37. あなたは、授業を通して、わかったことやできたことについて、先生や友だちから「すごいね」「がんばっているね」とほめられたことがありますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①よくある	16.9	21.1	19.0	13.1	13.9	13.5	10.0	9.6	9.8	13.3	14.9	14.1
②ときどきある	44.3	49.2	46.7	43.6	49.1	46.3	37.7	42.5	40.0	41.9	47.0	44.4
③あまりない	26.9	24.4	25.7	31.6	30.4	31.0	35.8	36.5	36.1	31.4	30.4	30.9
④まったくない	11.8	5.2	8.6	11.8	6.6	9.2	16.6	11.4	14.1	13.4	7.7	10.6

38. あなたは、授業中、学習に進んで取り組んでいると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①進んで取り組んでいると思う	32.7	40.5	36.5	25.3	27.2	26.2	23.1	20.6	21.9	27.0	29.5	28.3
②どちらかといえば、進んで取り組んでいると思う	49.6	49.6	49.6	51.6	53.5	52.6	47.6	54.4	50.9	49.6	52.5	51.0
③どちらかといえば、進んで取り組んでいると思わない	13.0	8.4	10.7	17.8	16.1	17.0	21.4	19.6	20.5	17.4	14.7	16.0
④進んで取り組んでいると思わない	4.7	1.5	3.2	5.3	3.2	4.2	8.0	5.3	6.7	6.0	3.3	4.7

39. あなたは、学校の学習の中で、今は苦手なものでも、努力したらできるようになると思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①できるようになると思う	57.2	67.7	62.3	50.1	55.2	52.6	42.7	43.5	43.1	50.0	55.6	52.8
②どちらかといえば、できるようになると思う	31.0	26.2	28.7	35.5	34.1	34.8	38.1	40.3	39.2	34.9	33.4	34.2
③どちらかといえば、できるようになると思わない	7.6	4.2	5.9	9.9	8.0	9.0	12.2	11.8	12.0	9.9	8.0	8.9
④できるようになると思わない	4.2	1.8	3.0	4.5	2.8	3.7	7.0	4.5	5.7	5.2	3.0	4.1

40. あなたは、今、学校で学習していることが、今後の生活に役に立つと思いますか。

	小学校4年			小学校6年			中学校2年			合計		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
①役に立つと思う	70.3	77.6	73.9	66.9	65.3	66.1	49.7	44.4	47.1	62.5	62.7	62.6
②どちらかといえば、役に立つと思う	22.2	18.5	20.4	25.4	28.2	26.7	32.6	38.9	35.6	26.7	28.4	27.5
③どちらかといえば、役に立つと思わない	4.6	3.1	3.8	5.0	4.8	4.9	11.1	11.8	11.4	6.8	6.5	6.7
④役に立つと思わない	2.9	0.9	1.9	2.7	1.7	2.2	6.6	4.9	5.8	4.0	2.5	3.3

指定都市教育研究所連盟 第 17 次共同研究担当者

札幌市教育センター〔第 4 章担当〕

こだま だい ほりぐち きいち
児玉 大 堀口 基一

仙台市教育センター〔第 4 章担当〕

たまみず おさむ いのまた けん や
玉水 修 猪股 堅弥(平成 24 年度副委員長)
やまね ひとし おおうち しろう
山根 斉 大内 司朗
くろかわ り か
黒川 利香

さいたま市立教育研究所〔第 4 章担当〕

おまた さとし やまだ かずひろ
小俣 智 山田 和宏
ひろえ たけし
廣江 剛

千葉市教育センター〔第 4 章担当〕

ねもと あつし いまい いさお
根本 厚 今井 功
ふるかわ けん じ
古川 健志(平成 26 年度副委員長)

川崎市総合教育センター〔第 1 章担当〕

くらがの しげる しまだ みちお
倉賀野 滋 島田 道雄

横浜市教育センター〔第 1 章担当〕

はやま やすかず とおやま まつ お
羽山 康和 遠山 松雄
いしかわ ひろし
石川 博(平成 26 年度副委員長)

相模原市立総合学習センター〔第 1 章担当〕

かとう みちこ さとう みか
加藤 道子 佐藤 美佳

新潟市立総合教育センター〔第 4 章担当〕

なかむら まさよし おおはし ひでき
中村 雅芳(平成 25 年度副委員長) 大橋 英喜

静岡市教育センター〔第 1 章担当〕

おかじま ひとし かめい しんいち
岡島 均 亀井 慎一(平成 25 年度副委員長)
えのもと よしお
榎本 義男

浜松市教育センター〔第 1 章担当〕

みずの あつし
水野 敦司(平成 26 年度委員長)

名古屋市教育センター〔第2章担当〕

いとう	ゆきひこ	しおざわ	
伊藤	幸彦(平成24年度副委員長)	塩澤 ちかげ	
はやし	ひさたか	まつおか	あつし
林	久貴	松岡	篤司
かじた	つとむ	いとう	みきお
梶田	勉	伊藤	幹夫

京都市総合教育センター〔第2章担当〕

こうの	ゆか	なかじま	いちろう
河野	由佳(平成25年度委員長)	中島	一郎
うえはた	なおひさ	いばやし	こういちろう
上畑	直久	居林	晃一郎

大阪市教育センター〔第2章担当〕

たかみ	さち	はら	みのる
高見	砂千	原	稔
いまり	やすひろ		
今利	康博		

堺市教育センター〔第2章担当〕

ふたはし	たかひろ	しみず	よういち
二橋	崇浩	清水	洋一
ももた	しんや		
百田	真也		

神戸市総合教育センター〔第2章担当〕

ひがき	しんしょう	ただ	やすゆき
檜垣	真章	多田	泰之
たお	みづほ		
田尾	みづほ		

岡山市教育研究研修センター〔第3章担当〕

ふじわら	ようこ	きしもと	やすひろ
藤原	陽子	岸本	靖広

広島市教育センター〔第3章担当〕

やぶた	ともこ	とだ	みずず
藪田	知子	戸田	美鈴

北九州市立教育センター〔第3章担当〕

はやし	ただひで	てらだ	まさゆき
林	忠秀(平成24年度委員長)	寺田	政幸
おにづか	くみこ	やまさき	かずのり
鬼塚	久美子	山崎	一憲

福岡市教育センター〔第3章担当〕

ひぐち	しんいち	まつぞの	みわ
樋口	信一	松園	美和
しばた	えつこ	みた	りえ
柴田	悦子	三田	里恵
ふりはら	なおこ		
振原	直子		

熊本市教育センター〔第3章担当〕

たなか	こうじ	のだ	なおと
田中	恒次	野田	直人

指定都市教育研究所連盟 第17次共同研究

これからの時代を生きる子供たちの姿や思いを探る

—今日的な教育課題に視点を当てて—

平成27年3月 日 発行

編集・発行 指定都市教育研究所連盟

印刷・製本 テクノヤマモト